甲府市文化財調査報告35

甲府市内遺跡Ⅳ

―平成9～10年度試掘調査報告書―

2007

甲府市教育委員会

序

本市は県中央部に位置し、長野との県境標高2599mの金峰山山頂から、南は標高2000mに近い御坂山塊まで南北43キロ、東西最大幅約10キロと、南北に細長い市域であります。金峰山山頂から標高約250mの盆地低平地まで多様な自然環境が存在し、豊かで多彩な歴史や伝統文化が育まれてきました。先人たちが残した郷土の文化遺産を保護するとともに積極的にその活用を講ずることは、現代に生きるものの責務であると考えております。

埋蔵文化財発掘調査事業もその一環であり、市域には364箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、連綿と営み続けた生活の痕跡が数多く残されております。郷土の歴史文化を理解し、さらには故郷を慈しみ、誇りに思えるよう、当教育委員会ではこれら埋蔵文化財を保護するとともに後世へ正しく伝えるため一層の保護・啓蒙活動に取り組んでまいる所存であります。

本書は、平成９・10年に旧甲府市域において実施した各種開発にともなう事前の有無確認及び緊急発掘調査の報告であります。本報告書が学術研究深化への一助になるとともに、教育資料へも活用され、郷土の歴史と文化を再認識する機会となればこの上ない喜びであります。

末筆となりましたが、調査に際し、貴重な文化遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた土地所有者及び関係各位に、感謝申し上げるとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

2007年３月

甲府市教育委員会

教育長　角　田　智　重

例　言

1．本書は、平成９～10年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の報告書である。

2．本事業は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。

3．各年度の調査件数及び試掘・工事立会等の内訳は、第１表のとおりである。

4．調査は甲府市教育委員会が主体となり、文化財保護担当（信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・志村憲一・佐々木満・伊藤正彦）が実施している。

5．本書の執筆は各調査担当者が行い、編集は末木瑞夫（文化振興課長）を編集責任者とし、伊藤正彦が行った。

6．本書の挿図は、中村里恵、清水秀樹、鈴木由香、長田由美子、高添美智子、望月典子が作成した。

7．本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。

8．調査参加者

相沢陽子　相原柏子　青木真由美　英賀慶彦　浅川本雪　浅川道恵
浅沼志織　渥美龍太　雨宮英郎　池成夕子　池谷富士子　池谷美恵子
井上清　今井寛之　上原明子　魚住幸世　大沢寛　大清水裕
大瀧真理子　大森英志　大森美智恵　岡悦子　岡田麗　荻原大輔
奥田文乃　長田富夫　小沢恵津子　小沢菊太郎　小沢四郎　小野奈緒美
加賀美さが江　柿原豪　柏檜善隆　金井いく代　神林啓介　茅嶋一男
川口格一　川道亨　岸村顕広　岸本美苗　岸本耕治　倉田勝子
栗田宏一　小池孝男　小池幹子　香山由貴　古賀明日香　児嶋貴行
小松綾子　小宮通子　三枝袈裟男　斎藤建彰　坂本しのぶ　坂本裕樹
笹内志保　笹田朋孝　佐田金子　佐田昇　嶋田佳寿子　清水公子
白須真佐子　菅沼芳治　杉浦将史　鈴木正文　鈴木由香　関口純明
平美与枝　高田あや　高史明　高橋大地　武井美知子　武井裕太
竹内大明　田島郁恵　田野裕之　知見寺照子　塚原圭司　土屋一未
手嶋洋平　手塚香子　手塚房子　利根川淳子　富田しのぶ　富永小枝
内藤かおり　内藤千愛　内藤安雄　中上周平　中村謙一　中村孝一
長坂清　長澤晴雄　根岸利昭　根岸洋　能美浩　花曲敬子
花曲洋子　芳賀俊之　林久美子　樋口進　平井淳　平沢則子
平原司　深沢久子　深町知宏　福田勉　藤井隆史　藤井武美
藤原学　藤原洋子　船場昌子　逸見大悟　保坂邦雄　本道歌子
本道政清　松本貴智　真鍋扶美子　水上亘　宮内美和　宮川敬
宮沢富美恵　宮沢理香　向井袈裟春　望月千寿美　望月利子　諸富浩一
山田利三　横内潤一　力武浩史　渡辺茂　渡辺孝博　渡辺百合子
和田勉　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（敬称略）

凡　例

1．遺構・遺物番号は、各調査単位で通し番号とした。

2．遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。

3．全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。

4．図面のスクリーントーンは、個々の図面上に指示してある。

目　次

序
例　言
凡　例
目　次

Ⅰ　平成９年度試掘調査 …… 1

朝気遺跡 …… 2
榎田遺跡 …… 4
大坪遺跡 …… 5
落合氏館跡 …… 6
吉沢Ａ遺跡 …… 7
甲府城跡 …… 9
小瀬氏館跡 …… 18
塩部遺跡 …… 19
八幡神社遺跡 …… 26
古宮遺跡 …… 27
緑ヶ丘二丁目遺跡 …… 29
南口Ｂ遺跡 …… 32
山之神遺跡 …… 35

Ⅱ　平成10年度試掘調査 …… 36

朝気遺跡 …… 37
銀杏之木遺跡 …… 39
榎田遺跡 …… 40
大坪遺跡 …… 42
上河原遺跡 …… 47
甲府城跡 …… 49
甲府城下町遺跡 …… 59
外河原チクヤ遺跡 …… 71
外中代遺跡 …… 72
土尻遺跡 …… 74
中道西遺跡 …… 75
西耕地遺跡 …… 77
八幡東遺跡 …… 81
富士見遺跡 …… 84
本郷遺跡 …… 86
緑ヶ丘一丁目遺跡 …… 87
緑ヶ丘二丁目遺跡 …… 90
峰本Ｂ遺跡 …… 94
山路遺跡 …… 95
横根町セレモニーホール遺跡 …… 96

写真図版

図版１　朝気遺跡、大坪遺跡、落合氏館跡、吉沢Ａ遺跡
図版２　甲府城跡、小瀬氏館跡、八幡神社遺跡
図版３　山之神遺跡、朝気遺跡、甲府城跡
図版４　甲府城下町遺跡
図版５　甲府城下町遺跡、外中代遺跡、土尻遺跡
図版６　土尻遺跡、中道西遺跡、緑ヶ丘一丁目遺跡
図版７　緑ヶ丘二丁目遺跡、横根セレモニーホール遺跡
図版８　出土遺物（朝気遺跡、大坪遺跡、落合氏館跡、吉沢Ａ遺跡、甲府城跡）
図版９　出土遺物（甲府城跡、小瀬氏館跡、塩部遺跡）
図版10　出土遺物（塩部遺跡）
図版11　出土遺物（塩部遺跡、古宮遺跡、緑ヶ丘二丁目遺跡、南口Ｂ遺跡）
図版12　出土遺物（南口Ｂ遺跡、山之神遺跡、榎田遺跡）
図版13　出土遺物（大坪遺跡）
図版14　出土遺物（大坪遺跡、上河原遺跡、甲府城跡）
図版15　出土遺物（甲府城跡）
図版16　出土遺物（甲府城跡）
図版17　出土遺物（甲府城跡、甲府城下町遺跡）
図版18　出土遺物（甲府城下町遺跡）
図版19　出土遺物（甲府城下町遺跡）
図版20　出土遺物（甲府城下町遺跡）
図版21　出土遺物（甲府城下町遺跡）
図版22　出土遺物（外中代遺跡、土尻遺跡）
図版23　出土遺物（中道西遺跡、西耕地遺跡）
図版24　出土遺物（西耕地遺跡）
図版25　出土遺物（八幡東遺跡、本郷遺跡、緑ヶ丘一丁目遺跡、緑ヶ丘二丁目遺跡、
　　山路遺跡）

第１表　平成９～10年度試掘・立会一覧

Ｈ９年度試掘調査（太字は本書に掲載）

単位＝㎡

遺跡名	No.	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	備考
朝気遺跡	①	朝気三丁目145	共同住宅建設	10	5/12～13	
	②	朝気三丁目74-2	個人住宅建設	8	12/15	
榎田遺跡		千塚五丁目3086-1	個人住宅建設	8	8/25～27	
大坪遺跡		横根町字反田458-2他	個人住宅建設	3.7	10/1～6	
落合氏館跡		国玉町字一ノ坪1085	個人住宅増築	6	4/14～16	
亀田・久保田・桜井堰遺跡		川辺町字亀田地内他	グランド造成			別冊にて報告予定
吉沢Ａ遺跡		平須町字須933	個人住宅建設	5	3/2～9	
甲府城跡	①	丸の内一丁目573他	ホテル増築	42	5/7～8	
	②	北口二丁目170-7	店舗兼住宅建設	48	7/1～19	別冊にて報告予定
	③	丸の内一丁目106	店舗建設	48.6	9/10～12/19	
	④	丸の内一丁目562-2他	駐輪場造設	120	10/6～29	
甲府城下町遺跡	①	丸の内一丁目558-2他	区画整理事業	1,045	6/2～7/8	別冊にて報告予定
	②	丸の内一丁目1-3他	区画整理事業	830	2/19～3/31	
小瀬氏館跡		小瀬町字北屋敷598-1	個人住宅建設	33	12/9	
塩部遺跡		宝一丁目50-1他	共同住宅建設	174	12/16～1/21	
武田氏館跡	①	古府中町2612	擁壁改築工事	150	1/26～3/30	甲府市文化財調査報告８にて報告済み
	②	古府中町2611	史跡整備	247	7/23～12/23	甲府市文化財調査報告18にて報告済み
	③	古府中町遠野屋敷2744	個人住宅改築(第49次)	62	6/12～23	
	④	太手三丁目3675-5他	個人住宅増築(第50次)	24	9/1～3	甲府市文化財調査報告９にて報告済み
	⑤	太手三丁目・屋形三丁目地内	道路整備事業(第54次)	60	8/25～12/24	甲府市文化財調査報告23にて報告済み
	⑥	古府中町3532他	駐車場造成(第60次)	137	2/2～24	甲府市文化財調査報告18にて報告済み
古八幡遺跡		古府中町1507他	駐車場造成(第51次)	170	11/6～12/9	
八幡神社遺跡		宮前町6-41	個人住宅建設	6.75	4/8～9	
古宮遺跡		長松寺町759-1他	市民センター建設	200	5/19～27	
緑ヶ丘二丁目遺跡	①	緑が丘二丁目897-6他	個人住宅建設	7.02	5/26	
	②	新田町字水口741-1他	共同住宅建設	24	12/16～1/16	
南口Ｂ遺跡		南口町652-7他	集会所建設	300	6/9～7/15	
山之神遺跡		山宮町字宮ノ尾根2903	個人住宅建設	8	3/23	
横根横石塚古墳群		横根町地内	山林伐採	300	5/6～7/2	甲府市文化財調査報告12にて報告済み

Ｈ９年度立会調査

遺跡名	No.	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	備考
飯吉之木遺跡		東光寺二丁目地内	下水道管敷設	—		
宮村村上遺跡		荒川一丁目・池田二丁目地内	下水道管敷設	—	8/6	
上町天神遺跡		上町地内	下水道管敷設	—		
榎田遺跡	①	千塚五丁目2926-7	個人住宅建設	—	7/9	
	②	千塚五丁目2926-11		—		
	③	千塚五丁目2926-6		—		
	④	千塚五丁目地内	河川工事	—	11/5	
	⑤	千塚五丁目2926-10	個人住宅建設	—		
	⑥	千塚五丁目2926-4		—		
大坪遺跡		横根町字反田465-2	店舗建設	—	8/28	
大手下遺跡		大手三丁目1-1他	歩道改良工事	—		
鳴塚遺跡・天神西遺跡		千塚四丁目及び山宮町地内	下水道管敷設	—	8/6	
鎧塚遺跡		山宮町地内	下水道管敷設	—		
甲府城跡	①	北口二丁目170-7	下水道管敷設	—	12/5	
	②	丸の内一丁目558-3	水道漏水工事	—		
	③	丸の内一丁目558-2		—	9/5	
甲府城下町遺跡		丸の内一丁目12-2	区画整理事業	—		
酒折縄文遺跡	①	酒折三丁目地内	下水道管敷設	—		
	②	酒折三丁目1295	学校建設	—		
天神平遺跡		羽黒町地内	下水道管敷設	—		
御蔵遺跡	①	山宮町地内	下水道管敷設	—	8/6	
	②	山宮町732他	下水道管敷設	—		
宮の脇Ｂ遺跡・上曽遺跡	①	善光寺二丁目地内	下水道管敷設	—		
宮の脇Ｂ遺跡	②		下水道管敷設	—		
山之神遺跡		山宮町字大勝田931-2	住宅建設	—	11/5	
若宮前遺跡		羽黒町1482	下水道管敷設	—		

H10年度試掘調査

単位＝㎡

遺跡名	No.	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	備考
秋山氏館跡		高畑一丁目1083-19他	道路改良工事	80	10/6～21	甲府市文化財調査報告16にて報告済み
朝気遺跡	①	朝気三丁目237他	店舗増築	26	8/18	
	②	朝気三丁目281-1	倉庫建設	8	2/2～4	
銀杏之木遺跡		東光寺一丁目310-1他	集合住宅建設	8	9/30～10/7	
榎田遺跡	①	千塚五丁目2792-1	個人住宅増築	4	6/1～5	
	②	千塚五丁目2980	個人住宅建設	4	6/11	
大坪遺跡	①	横根町546	駐車場整備	120	11/9～24	
	②	横根町443-2	管理棟建設	50	11/13	
亀田遺跡		川田町字亀田他	グランド造成工事	230	11/4～3/25	別冊にて報告予定
上河原遺跡		下石田一丁目220他	貸店舗建設	128	1/11～14	

H10年度試掘調査（太字は本書に掲載）

単位＝㎡

遺跡名	No.	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	備考
久保之沢遺跡		下帯那町字久保之沢232-2他	道路改修工事	10	5/6～31	甲府市文化財調査報告13にて報告済み
甲府城跡	①	北口一丁目107他	区画整理事業	1,265	11/9～1/8	別冊にて報告予定
	②	北口二丁目33	店舗兼住宅建設	73	11/9～12/25	別冊にて報告予定
	③	丸の内 一丁目572他	駐車場建設	66	12/14～1/18	
甲府城下町遺跡	①	北口一丁目97	個人住宅建設	4	4/16～20	
	②	愛宕町66	個人住宅建設	2	7/30	
	③	北口一丁目16	個人住宅建設	8	8/25～28	
	④	丸の内二丁目108-2	個人住宅建設	8	8/31～9/11	
	⑤	北口三丁目1-1	誘導所増築	2.25	3/12	
	⑥	北口二丁目1-8他	店舗建設	450	2/10～3/26	甲府市文化財調査報告15にて報告済み
	⑦	丸の内一丁目226他	道路建設	70	3/18～26	
外河原デクヤ遺跡		増坪町445-5他	店舗建設	4	1/18	
外中代遺跡		川田町字正地742他	共同住宅建設	50	3/1～8	
武田氏館跡	①	屋形三丁目2541他	道路敷借事業(第55次)	945	8/5～3/22	甲府市文化財調査報告9にて報告済み
	②	古府中町2611	倉式殿建設(第56次)	465	7/25～11/30	甲府市文化財調査報告10にて報告済み
	③	古府中町3611	石垣改修工事(第59次)	60	11/30～1/19	
	④	古府中町3555	個人住宅改築(第57次)	75	9/28～11/9	甲府市文化財調査報告23にて報告済み
	⑤	屋形三丁目7-8	個人住宅増築(第58次)	10	11/4	
	⑥	大手二丁目2-9	個人住宅増築(第61次)	60	1/19～2/5	
土尻遺跡		下小河原町字堀切35-5他	道路建設	125	2/15～17	
中道遺跡		岩窪町字大蔵西地内他	宅地造成	250	11/30～12/22	
西畑地遺跡		大里町地内	区画整理事業	152	3/1～23	
八幡東遺跡	①	湯村三丁目1666-1他	個人住宅建設	12	3/4～5	
	②	千塚三丁目2450-10	個人住宅建設	8	3/11～17	
富士見遺跡		富士見一丁目1653-8他	共同住宅建設	60	2/9～26	
本郷遺跡		善光寺三丁目1931	個人住宅建設	4	10/12～13	
緑ヶ丘一丁目遺跡	①	緑が丘一丁目101-3	個人住宅建設	4	5/16	
	②	緑が丘二丁目138-7	個人住宅建設	4	9/25～28	
	③	緑が丘二丁目1151-4	個人住宅建設	10	1/29～2/3	
緑ヶ丘二丁目遺跡	①	緑が丘二丁目13-36	会館増築	8	10/19～28	
	②	緑が丘二丁目833-4	個人住宅建設	40	11/13～24	
	③	緑が丘二丁目2387-10	個人住宅建設	6.25	3/1～2	
峰本B遺跡		屋形三丁目1600-1他	個人住宅建設	30	1/25～29	
山路遺跡		塚原町850-1他	個人住宅建設	8	9/28～30	
横根町セレモニーホール遺跡		横根町字大畑705他	墓物建設	560.25	5/27～6/4	

H10年度立会調査

遺跡名	No.	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	備考
穴屋		荒川二丁目地内	公共下水道管敷設	—	2/23	
飯合之木遺跡	①	東光寺二・三丁目地内	公共下水道管敷設	—	2/1	
	②	東光寺二丁目地内	両川工事	—	10/30	
居村村上遺跡	①	荒川一丁目・池田二丁目地内	公共下水道管敷設	—	8/17	
	②	池田二丁目地内	公共下水道管敷設	—	10/12	
堀田遺跡		千塚五丁目・山宮町地内	館調敷設	—	1/21	
大北新池遺跡		大里町地内	公共下水道管敷設	—	9/9	
音羽遺跡		富士見二丁目地内	両川工事	—	1/14	
上堀遺跡		下帯那町字上堀	農業水路	—		
上町天神遺跡	①	上町地内	公共下水道管敷設	—	8/17	
川田館跡	②	川田町351	個人住宅建設	○	8/27	
北原遺跡		東光寺二・三丁目地内	公共下水道管敷設	—	2/1	
甲府城下町遺跡		丸の内一丁目243	事務所建設	—	10/14・30	
酒折鏡立遺跡		酒折二丁目地内	公共下水道管敷設	—	5/14	
桜井積石塚古墳群		桜井町1040	住居・仮設道路建設	—	4/15	
外河原デクヤ遺跡	①	増坪町413他	道路改良工事	—	11/24	
	②	増坪町地内	公共下水道管敷設	—	12/25	
天神北遺跡		千塚五丁目・山宮町地内	館調敷設	—	1/12	
天神平遺跡		羽黒町地内	公共下水道管敷設	—	10/12	
西河原遺跡		荒川二丁目地内	公共下水道管敷設	—	9/17	
		荒川二丁目地内	公共下水道管敷設	—	10/12	
西畑地A遺跡		大里町地内	公共下水道管敷設	○	3/9～18	
西畑地遺跡		大里町地内	公共下水道管敷設	—	9/9・24	
平石遺跡		荒川二丁目地内	公共下水道管敷設	—	9/14	
豆田遺跡		池田町二丁目・中村町地内	公共下水道管敷設	—	10/13	
宮蔵遺跡	①	山宮町地内	両川工事	—	11/24	
	②	山宮町地内	公共下水道管敷設	—	5/11・14・20	
宮原遺跡		東光寺二・三丁目地内	公共下水道管敷設	—	2/1	
宮の脇A遺跡		善光寺二・三丁目地内	公共下水道管敷設	—	11/24	
宮の脇B遺跡		善光寺二・三丁目地内	公共下水道管敷設	—	11/24	
山梨学院大学校内遺跡		酒折537-1他	校舎建設	—		
米倉遺跡		山宮町字山前3409	個人住宅建設	—	9/10	

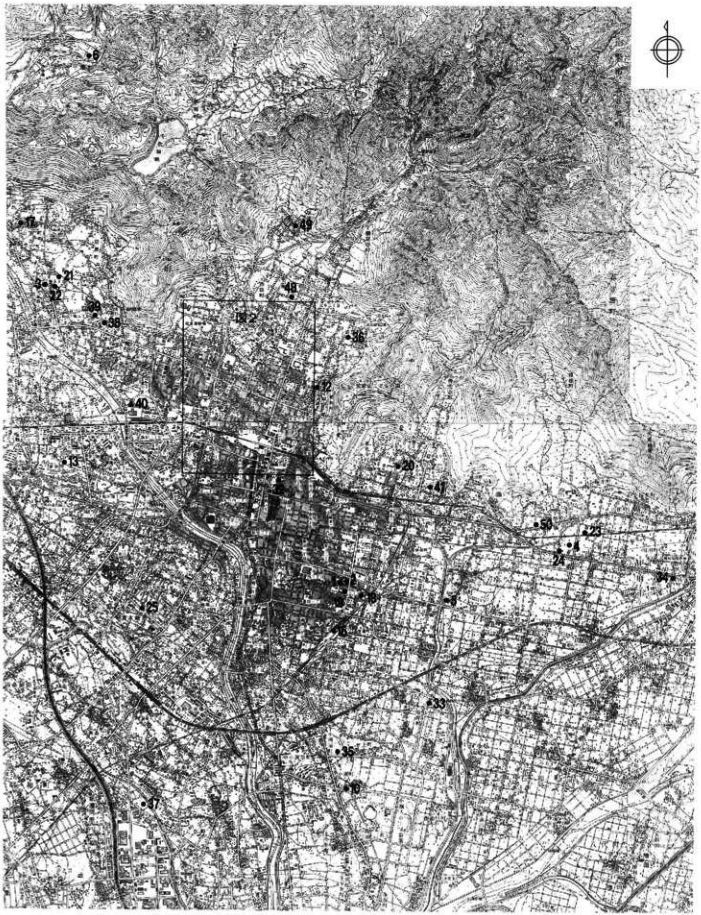


図1　調査位置図（1）　0　1000　2000　3000m

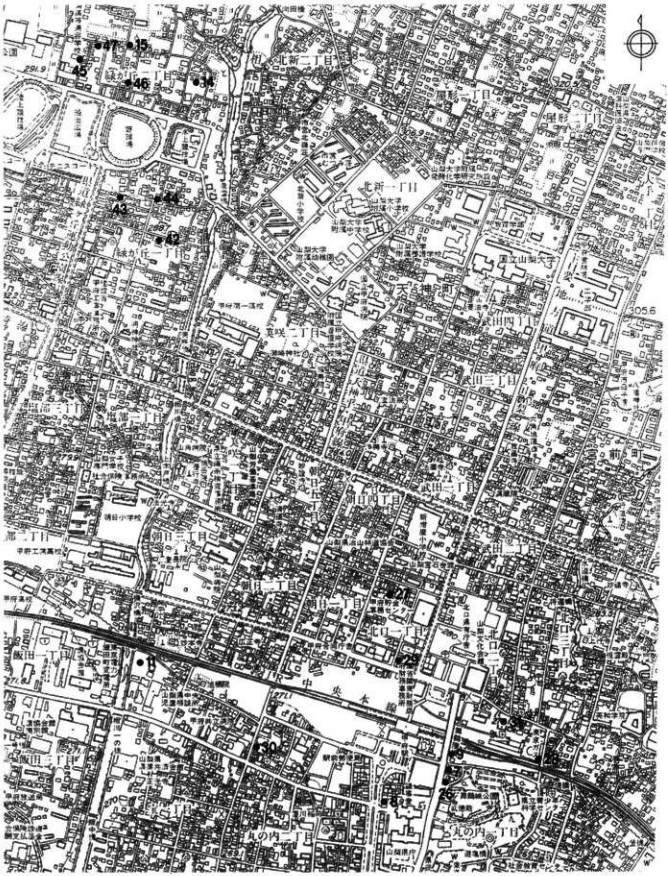
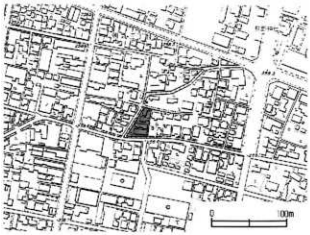


図2　調査位置図（2）

Ⅰ．平成９年度　試掘調査

1　朝気遺跡



調査位置　甲府市朝気三丁目145
調査原因　共同住宅建設
対象面積　250㎡
調査面積　10㎡
調査期間　平成９年５月12日～５月13日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

濁川及び荒川の沖積原上に位置する朝気遺跡は、古墳時代から平安時代までを中心に、縄文時代までの遺物が確認されている一大集落跡である。これまでにも東小学校の校舎建設や下水道の埋設、市道善光寺敷島線敷設工事等に先立つ発掘調査により、土器ばかりでなく木製品や石製品・ガラス玉等、該期の良好な資料が出土している。今回の調査地点は朝気遺跡の南西端部にあたり、標高258mを測る。平成６年度に、今回の調査地から50mほど離れた北東側を試掘確認調査を実施したが、遺構・遺物等は確認されていない。

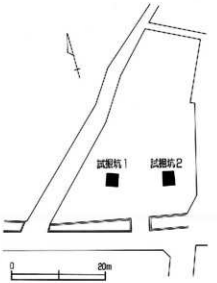


図3　試掘坑配置図

調査の概要

調査は対象地に２ヵ所の試掘溝(２m×２m)を設定し、重機により－110cmまで掘り下げ壁面調整及び精査を行った。

旧建物の瓦礫及び火災による撹乱が－60cmほど確認され、その下層は安定した自然堆積層となる。細粒砂層・灰白色粘土層・黒色粘土層と続き－110cmで青灰色粘土層に至る。さらに白色粗粒砂層・黄色粗粒砂層と続くが、白色粗粒砂層は帯水層で湧水が激しい。

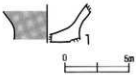


図4　出土遺物

ま　と　め

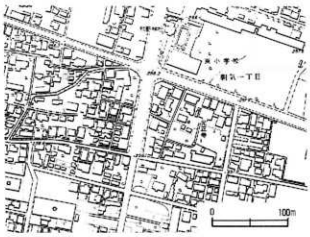
遺構は確認されず、遺物も古墳時代後期と思われる高坏の頸部１点と器形不明の土師器の小破片が３点出土したにとどまっている。遺物の出土量も微量であり、朝気遺跡の外縁部に当たるものと推測される。

調　査　地　近　景

調　査　状　況

2　朝気遺跡

調査位置　甲府市朝気三丁目74－2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　108.82㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成９年12月15日
調査担当　伊藤正幸



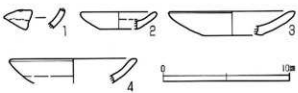


図5　出土遺物

調査の概要

東小学校南西部に位置し、標高258mを測る。東小学校の校舎改築及び市道善光寺敷島線の敷設工事の際に行った調査では、地表下80～100cmほどの位置から古墳時代後期から平安時代に至る遺構・遺物が検出されており、さらに今回の調査北側に隣接する店舗建設工事の際は、３mほどの地点から弥生時代前期の遺物が確認されていた。

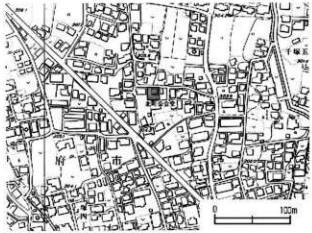
今回の調査は個人住宅の建設に伴うもので、２m×２mの試掘溝２ヵ所を設定して人力により遺構・遺物の確認を行った。

両試掘溝とも、表面の客土を除去すると黄褐色の土砂混合層になり20cmほど続く。その後ややしまりの強く上層より若干暗い黄褐色土層になるが、この層から土師質土器（カワラケ）が３点及び施釉陶器が１点出土した。いずれも小破片である。

全体で60cmまで掘り下げたが、遺構は検出されず、遺物の出土も散漫であったため埋め戻して調査を終了した。

調　査　状　況

3　榎田遺跡



調査位置　甲府市千塚五丁目3086-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　246.59㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成９年８月25日～８月27日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

榎田遺跡は、弥生時代から古墳時代に至る遺跡である。荒川扇状地の扇央部に位置し、平成４年度に行われた宅地造成に伴う発掘調査（山梨県教育委員会）では、弥生時代後期から平安時代に及ぶ濃密な遺構・遺物が検出されている。今回の調査地はこの調査から南へ約75m離れた地点に位置し、標高は303mを測る。等高線の方向から推測し、扇状地上に発達した小規模な舌状台地の東端部分にあたることがわかる。

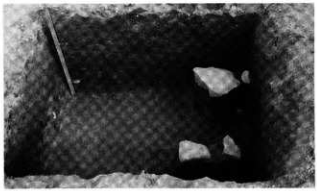
調査の概要

対象地に試掘溝（２m×２m）を２ヵ所設定し、人力により掘り下げた。
全体的に砂混じりの茶褐色土層で、地表下－90cmで砂層に至る。両試掘溝とも安定した自然堆積層で、東側の試掘溝から人頭大の礫が３つ確認された(地表下－60cm)以外には茶褐色土層に乱れは認められない。

ま　と　め

遺構は確認できず、また遺物についても、土師器の小破片が３点出土したにとどまっている。

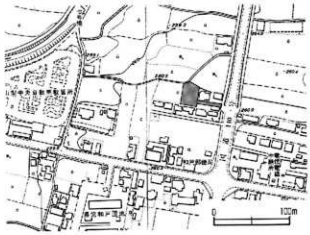
調　査　状　況



TP－１調査状況

TP－２調査状況

4　大坪遺跡



調査位置　甲府市横根町字反田458-2,460-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　122.25㎡
調査面積　3.7㎡
調査期間　平成９年10月１日～10月６日
調査担当　伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は盆地北部、本市東部郊外に広がる。当遺跡は、これまで幾度となく発掘調査が実施され、古墳～平安時代にいたる集落・土器生産遺跡であり、該期の拠点的集落であることが判明している。調査地点は濁川左岸の標高約260m、遺跡範囲の南隅に位置する。

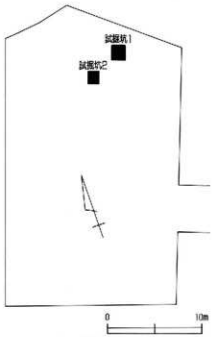


図6　試掘坑配置図

調査の概要

本工事は、建物建設に際し盛土を行い施工するため、現況地表面まで開発は及ばず、わずかに浄化槽設置点のみに掘削が及ぶこととなる。このため浄化槽設置地点（試掘坑１）と任意の地点（試掘坑２）との二箇所に試掘坑を設定し、地表下約１mまで掘削を行った。両地点とも、地表下約60cmまで撹乱を受けており、それ以下に砂層・青灰色粘質土の堆積が見られた。遺物包含層・遺構などは検出できず、撹乱層及び砂層中から土師器が十数点出土している。

図8　出土遺物

調査状況（試掘坑２）

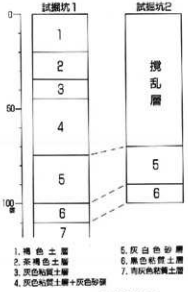
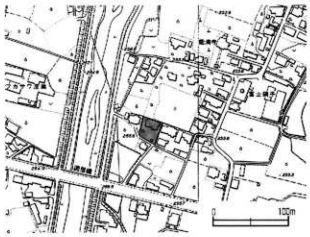


図7　土層柱状図

5　落合氏館跡



調査位置　甲府市国玉町字一ノ坪1085
調査原因　個人住宅増築
対象面積　1080.14㎡
調査面積　6㎡
調査期間　平成９年４月14日～４月16日
調査担当　伊藤正彦

遺跡の概要

本館跡は、濁川左岸の標高約258mに立地し、浪人屋敷の別称を有する。当地には古代以来の由緒を伝える国玉神社(玉諸神社)が鎮座し、地名は同社に由来するという。

調査の概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、地表下約１ｍまで掘削を行った。いずれの試掘坑も地表下約30～50cmまで撹乱を受けていた。それ以下に安定した土層堆積が見られたが、遺物包含層及び遺構などは検出できず、土器片が数点出土したのみである。

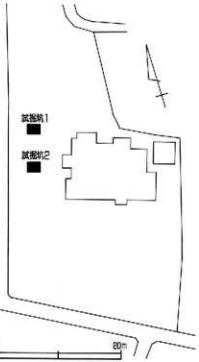


図9　試掘坑配置図

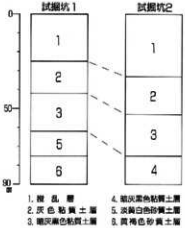


図10　土層柱状図

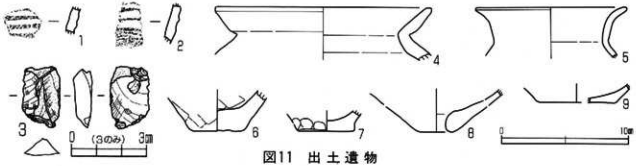
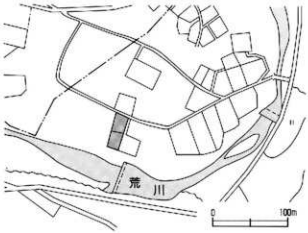


図11　出土遺物

6　吉沢Ａ遺跡



調査位置　甲府市平瀬町平瀬933
調査原因　個人住宅建設
対象面積　346㎡
調査面積　5㎡
調査期間　平成10年３月２日～３月９日
調査担当　伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、北部山間地を流下する荒川右岸の河岸段丘上に広がる。調査地点は、南面するなだらかな傾斜地であり、標高約415mを測る。調査対象地内で南北比高差が約２mあり、現況は畑地であった。

調査の概要

本工事は、建物建設に際し盛土を行うため、浄化槽及び浸透槽設置地点を対象に試掘坑を二箇所設定した。地表下約60～70cmまで掘削を行い、耕作土が約30cm堆積する以外、混礫黄褐色砂質土(地山)となる。

耕作土中から土器片が２点出土したのみで、遺物包含層・遺構などは確認できなかった。調査地北側の畑地から土器が表採でき、そのほとんどは縄文中期初頭から後期に属するものである。遺跡の中心はより北側にあると考えられ、調査地である南側傾斜地への分布は希薄と推察される。

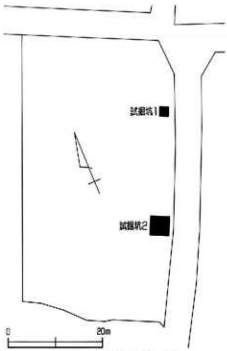


図12　試掘坑配置図

調　査　状　況

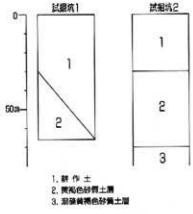
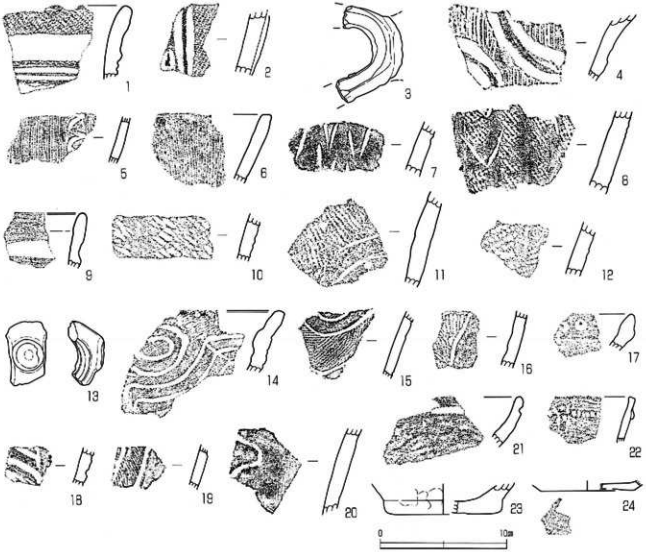


図13　土層柱状図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
0
10cm

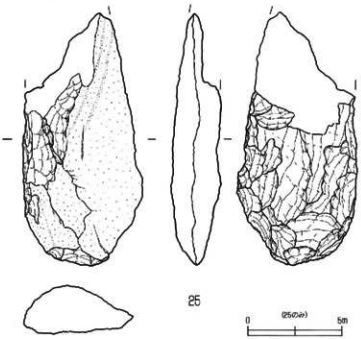

25
0
(250g/m²)
5m

図14 出土遺物

7　甲府城跡

調査位置　甲府市丸の内一丁目573,580,581
調査原因　ホテル増築
対象面積　269.79㎡
調査面積　42㎡
調査期間　平成９年５月７日～５月８日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

調査区は甲府城内松陰門の北西側、標高約274mに位置する。柳沢氏が藩主であった18世紀前半に描かれた柳沢文庫蔵の『楽只堂年録』の絵図から推測すると、屋形曲輪内の殿舎北東側の空閑地に相当するものと考えられる。

調査の概要

開発予定地に２m四方のグリッドを３ヶ所設定し、さらにL字状にトレンチを拡張した。調査は、アスファルト及び砕石層を重機で除去後人力で掘削を行った。１・２グリッドは約1.7m、３グリッドは約１m掘削し地山層を確認した。各グリッドからは、焼土粒子・炭化物の混入が見られ、特に１グリッドでは径40cmほどの大量の礫と瓦片の混入が確認されたが、遺構に関しては検出されてはいない。

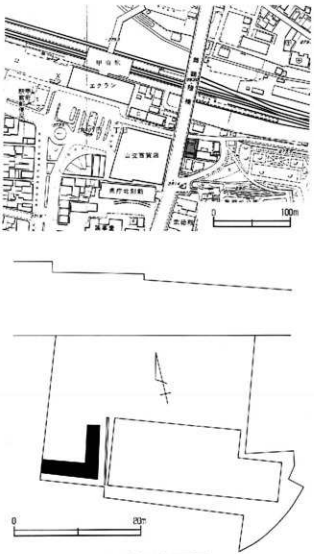
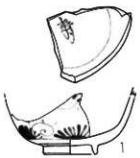


図15　試掘坑配置図

出土遺物

磁器、陶器、瓦など近世～近代にかけての遺物が、２・３グリッドの撹乱層内から出土した。１は19世紀代の瀬戸産の磁器碗である。



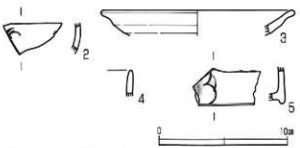


図16　出土遺物（1）

２は磁器、３～５は陶器いずれも明治時代以降の遺物である。６～17は本瓦葺きの建物で使用された丸瓦及び軒丸瓦である。いずれも江戸期の瓦であり11と16は火災等により赤褐色に変色している。18は安山岩製の石材であり、上面及び側面の二面に鑿の痕跡が確認される。また部分的に煤の付着が見られる。

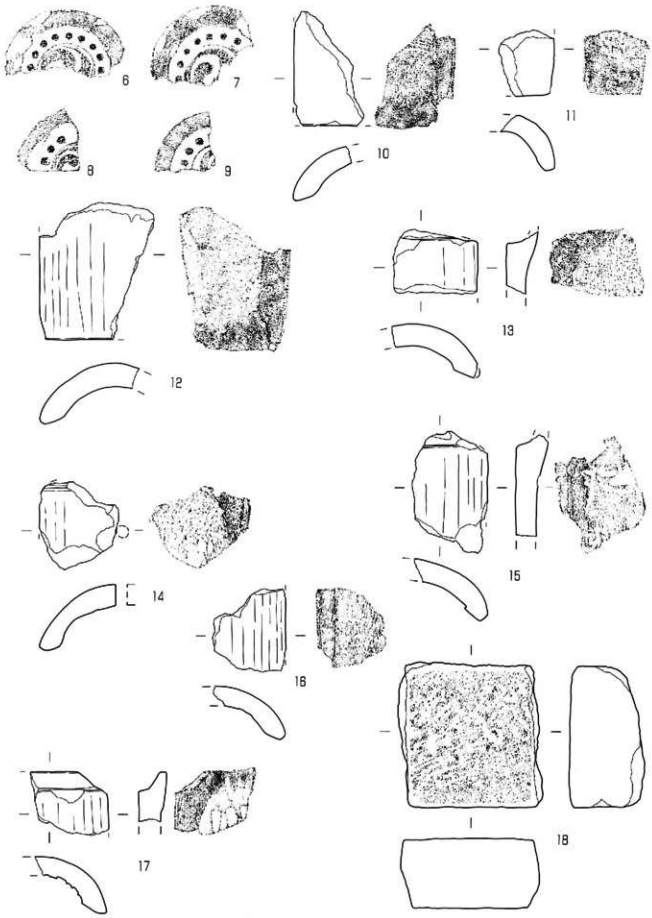
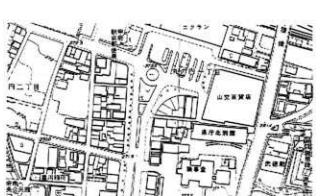


図17 出土遺物(2)

8　甲府城跡



調査位置　甲府市丸の内一丁目106
調査原因　店舗建設
対象面積　126.42㎡
調査面積　48.6㎡
調査期間　平成９年９月10日～12月19日
調査担当　伊藤正彦

遺跡の概要

本城跡は、盆地北部に位置し、比高30ｍの一条小山を利用し築かれている。調査地点は、古絵図等からかつての柳御門付近に相当する。昭和初年、内堀の埋め立てに伴い石垣等も解体され、現在では街路に面して店舗が立ち並ぶ中心市街地となっている。

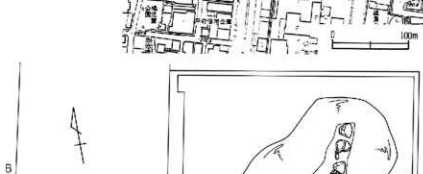


図18　石垣検出状況

調査の概要

堀及び残存石垣の検出が予想されたため重機にて掘削を行った。崩落した石垣石材を多数確認するとともに、地表下約2.5ｍから南北方向５ｍに渡る石垣を検出した。磁北から20°東に振れ、甲府城柳御門南側の石垣と想定した。古絵図の注記から石垣高・勾配角が復元でき、『楽只堂年録』（柳沢文庫所蔵）は「石カキ高二丈八尺五寸」・「石カキ高水上二テ一丈九尺」と記述し、『甲州府中之城図』（前田育徳会）は「高五間」、「ノリ二間」と記述する。これら古絵図の注記から石垣高を約９ｍ（水上に約６ｍ、水面下に約３ｍ）、勾配角を約69°と推定でき、検出状況と照合することにより出土した石垣は、さらに３ｍ下層、地表下約5.5ｍまで残存する可能性があった。

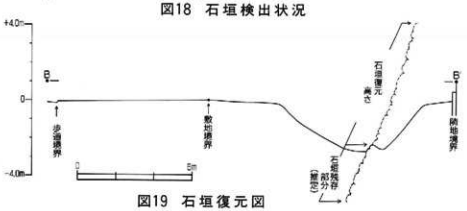


図19　石垣復元図

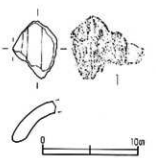
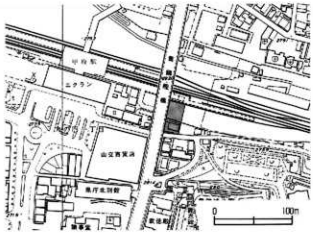


図20　出土遺物

所　　見

調査成果から、提出された工事計画では遺構を破壊するおそれがあったため、設計変更を要請した。変更後、工事に伴う掘削に際し立会を実施している。

9　甲府城跡



調査位置　甲府市丸の内一丁目562-2他
調査原因　駐輪場建設
対象面積　640.10㎡
調査面積　120㎡
調査期間　平成９年10月６日～10月29日
調査担当　伊藤正幸

調査位置の概要

山梨県指定史跡甲府城の内城西側に清水曲輪が存在したが、その一部、二の丸に接する場所に造られたのが屋形曲輪で、柳沢吉保の代に新設されたとも言われる。現在はＪＲ構内及び商業施設にその大半を占有されているが、ＪＲ敷地内に残る段差が当時の堀及び土塁の痕跡と考えられる。今回調査対象になった場所にも中央部に0.8ｍほどの段差があり、段下にあたる北側は、屋形曲輪北堀の堀上にある。

調査の方法

調査は堀に直行するよう南北に、東・中・西の３本の試掘溝を設定するとともに、敷地上段にも「L」字状に試掘溝を設定し、重機で表土を除去した後、人力で精査及び遺構検出を行った。

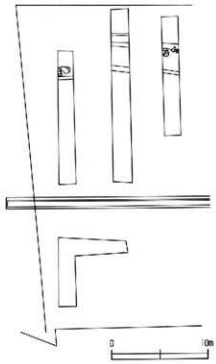


図21　試掘坑配置図

調査成果

調査地北の３本の試掘溝内はいずれも、60㎝程の客土を除去すると堀の掘りこみが確認できた。堀幅5.6ｍ、深さ1.1ｍの規模で、「U」字の掘り込みを示す。覆土は茶褐色土、褐色土、黒色土の順で、堀底には拳大の礫が入る。黒色土層中から多種多量の瓦片とともに植物遺体・板などの木製品および動物（豚）の大腿骨が検出している。

上段の試掘溝からは礫が混入した不整形のピットが１基されたのみで、土塁の痕跡を示す土層状況は確認できず、遺物も皆無であった。

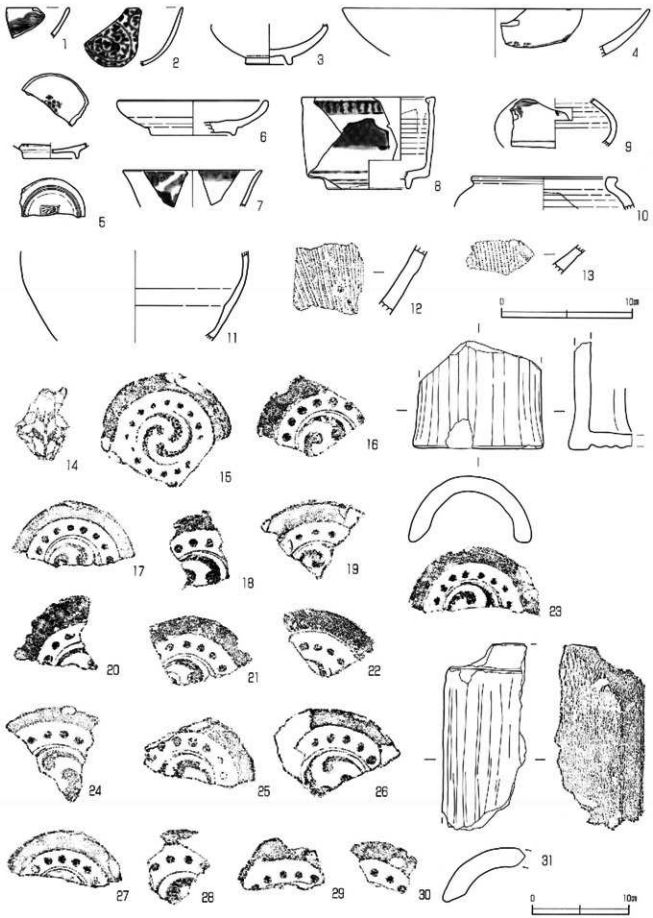

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
0
10cm
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
10cm

図22　出土遺物（1）

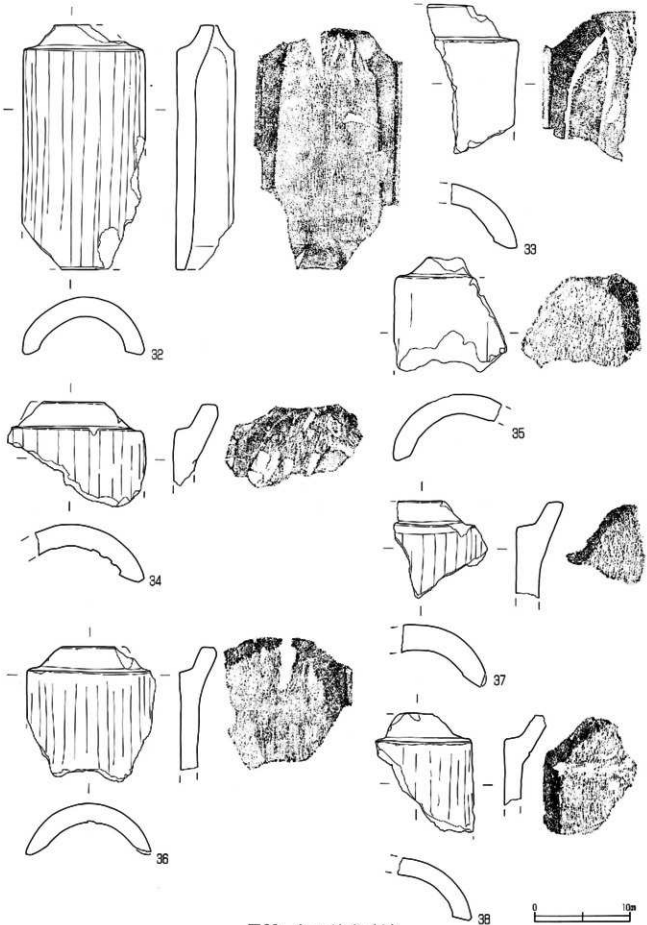


図23 出土遺物(2)

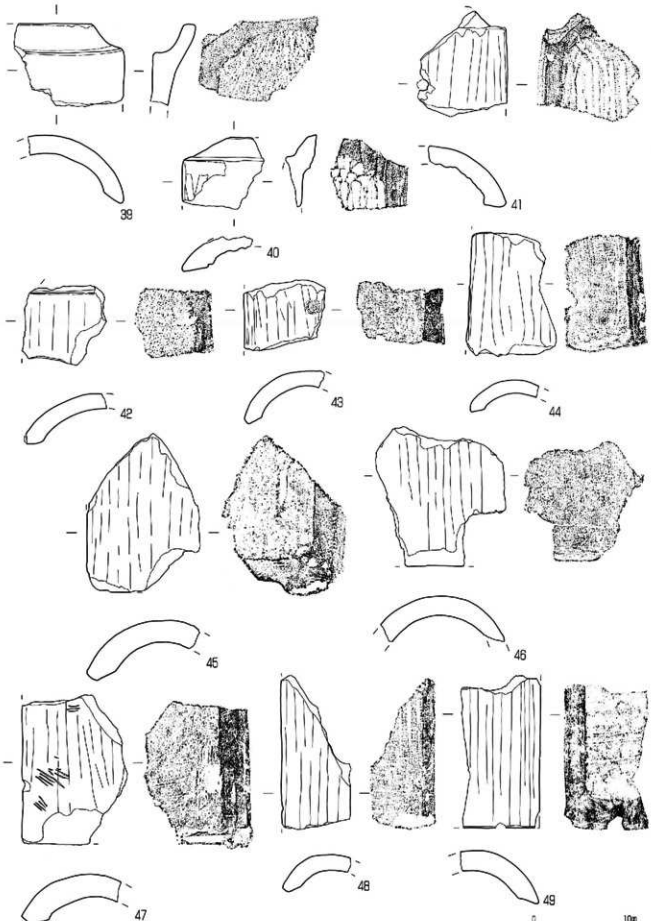


図24 出土遺物(3)

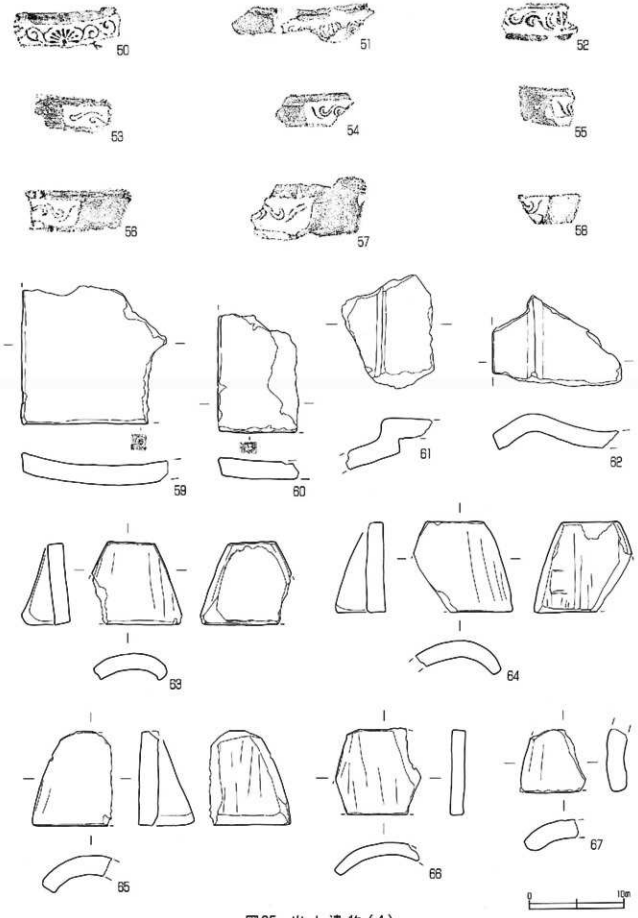
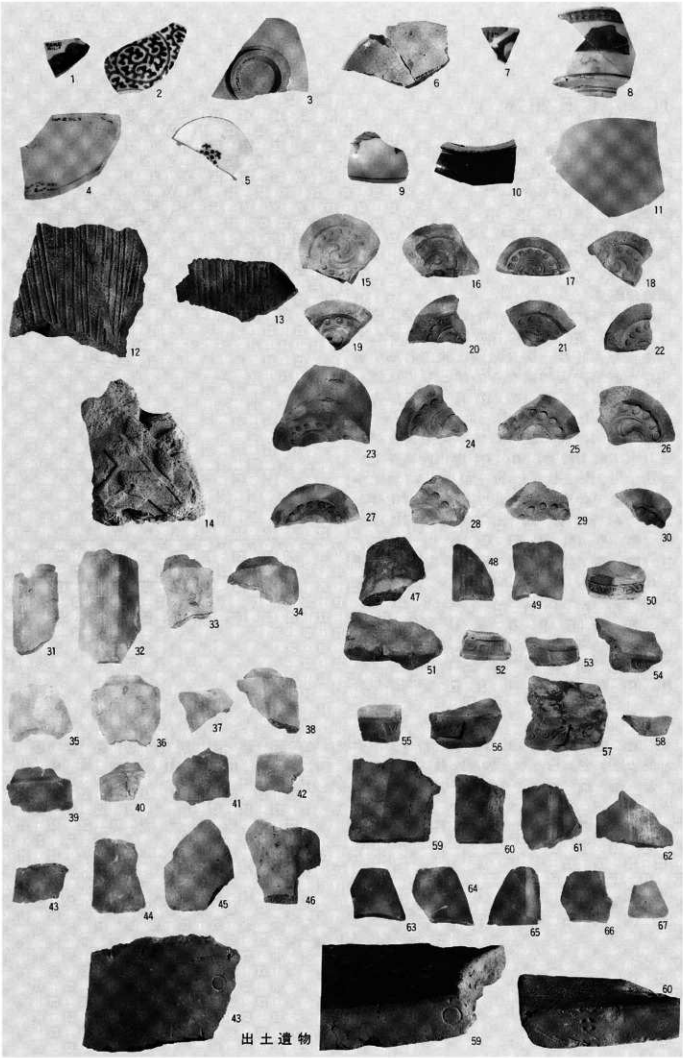


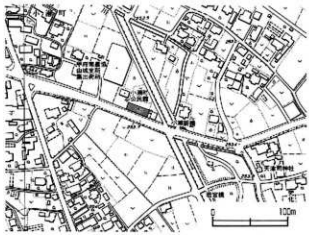
図25 出土遺物(4)


1
2
3
6
7
8
4
5
9
10
11
12
13
15
16
17
18
19
20
21
22
14
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
47
48
49
50
51
52
53
54
35
36
37
38
55
56
57
58
39
40
41
42
59
60
61
62
43
44
45
46
63
64
65
66
67
43
59
60

出土遺物

10　小瀬氏館跡

調査位置　甲府市小瀬町字北屋敷598－1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　479.66㎡
調査面積　33㎡
調査期間　平成９年12月９日
調査担当　佐々木　満



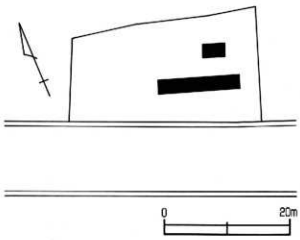


図26　試掘坑配置図

調査の概要

遺跡が所在する小瀬一帯は、『甲斐国志』によると、鎌倉時代には稲積荘に含まれていたと考えられ、調査地点は武田右馬助信長、小瀬宮内大輔信堅らの館として機能したとされる。近世から大正までは玉伝寺の寺域であったと考えられる。昭和61・62年には五割川の河川改修に伴い発掘調査がなされ（甲府市教委2004『甲府市内遺跡Ⅰ』参照）、13世紀から15世紀後半、17世紀から近代までの遺物が出土しており、『甲斐国志』の記載内容は別としても時期的にはほぼ合致する結果が得られている。

今回の調査は、東西方向に長さ13m×幅２m、3.5m×２mの２本のトレンチを設定し、掘削を行った。しかし、調査したトレンチ全体から焼却灰など多量の廃棄物が発見され、遺構面などはすでに撹乱された後であった。後日の確認で敷地全体はかつて焼却灰の埋設場所とされていたことが判明した。

ま　と　め

今回の調査は、過去の事例と合わせて、甲府盆地低部の歴史を解明する上で重要な確認となるはずであったが、残念な結果となった。本地区北側には館の堀跡とされる旧五割川なども残されており、今後付近での調査が期待される。

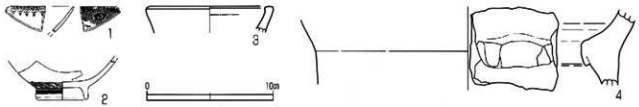
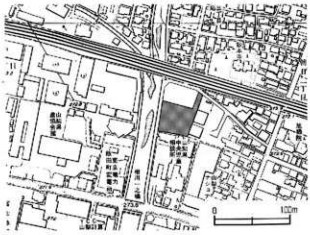


図27　出土遺物

11　塩部遺跡



調査位置　甲府市宝一丁目50-１他
調査原因　共同住宅建設
対象面積　1846.13㎡
調査面積　174㎡
調査期間　平成９年12月16日～
　　平成10年１月21日
調査担当　伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、盆地北部、相川扇状地の扇端部に広がる。当遺跡は、これまで幾度となく発掘調査が実施され、縄文時代中期から人々の生活の痕跡が確認されている。特に弥生時代後期～古墳時代にかけて墓域をともない大きな集落が形成され、当地での生活の営みは中世に至るまで連綿と続いていたことが判明している。調査地点は相川左岸に近接し、標高約277ｍを測る。遺跡範囲の南東隅に位置する。

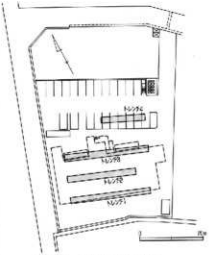


図28　試掘配置図

調査の概要

対象地に幅２ｍトレンチを東西方向に４本、延べ87ｍにわたり設定し、重機により地表下１ｍまで掘削した後、人力にて遺構・遺物を確認しつつ調査を実施した。調査により近世以降に比定できる溝３条と取水施設及び土器・陶磁器・木製品を検出した。トレンチ１～３にかけて１・２号溝を、トレンチ３・４からは３号溝を確認した。

１号溝は幅1.92～5.28ｍ、深さ0.78～0.98ｍの規模となり、南流する。土層堆積から木片・多量の礫が混入しつつ、２時期の変遷を経て埋没した過程が明らかである。トレンチ３では、掘り込みが浅く、木製板による取水施設を確認した。溝底に幅1.02ｍ、深さ0.28ｍ埋め込まれており、ほぞが穿たれ、丸釘が打ち込まれた角材を転用していた。

２号溝は幅3.72～5.62ｍ、深さ0.90～1.83ｍの規模となり、南流する。１号溝と２～３ｍ離れ並行して確認した。溝壁に２～３段のテラスが設けられ、護岸のため木杭を打ち込み、礫を据えている状況であった。土層堆積から３時期の変遷を経て埋没した過程が顕著にみられ、幅・深さを変えつつも連綿と機能し続けている。最下層、古段階に比定

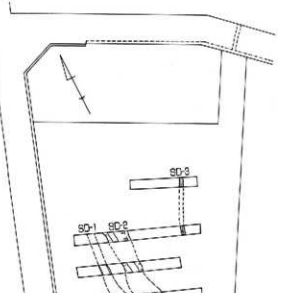
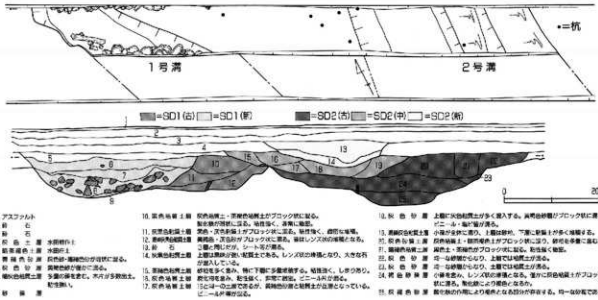
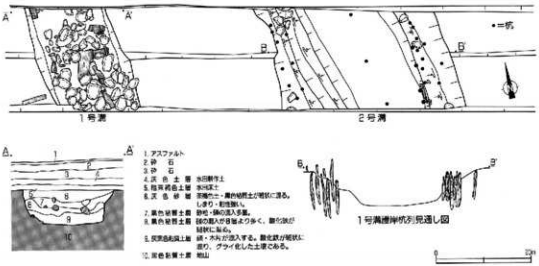


図29　遺構検出状況



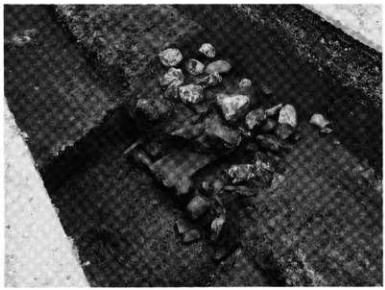
1. アスファルト
2. 砂　　石
3. 砂　　石
4. 灰 色 土 層　水田耕作土
5. 黒 褐 色 土 層　水田床土
6. 暗 褐 色 砂 層　炭化物・焼土粒が多く含まれる。
7. 灰 色 砂 層　黄色砂が僅かに混ざる。
8. 暗灰色粘質土層　多量の炭を含む。木材が多数出土。
9. 砂　　層　粘性無い。
10. 黒色粘質土層　炭化物が多く含まれる。
11. 灰黒色粘質土層　黄色・灰色砂質土がブロック状に混ざる。
12. 黒褐色粘質土層　黄褐色・灰白砂がブロック状に混ざる。
13. 砂　　石　　礫層(薄い)だが、シート状の層である。
14. 灰黒色粘質土層　土層は黒砂が多い粘質土である。レンズ状の堆積となり、大きな谷が埋入している。
15. 黒褐色粘質土層　砂粒を多く含み、特に下層に多量堆積する。粘性強く、しまり良い。
16. 灰色粘質土層　炭化物を含み、粘性強く、非常に硬質。ピート入り混ざる。
17. 灰色粘質土層　1cm～2cmまでの炭が、層状的に含まれている。ピート層が薄く混ざる。
18. 灰色粘質土層　炭化物が混ざる。
19. 灰 色 砂 層　上層に火砕粘質土がまく堆入する。黄褐色砂層がブロック状に混ざる。ピート・腐植層が混ざる。
20. 黒褐色粘質土層　小量の炭が混ざる。上層は砂利、下層に砂層と砂がまく堆積する。
21. 灰色粘質土層　灰色粘質土がブロック状に混ざり、砂性を多量に含む。
22. 褐褐色粘質土層　褐色土・灰褐色がブロックに混ざる。粘性強く軟質。
23. 灰 色 砂 層　同一な砂質からなり、土層では粘質土が混ざる。
24. 灰 色 砂 層　一様で含水、レンズ状の堆積となる。下層に灰色粘質土がブロック状に混ざる。粘性強くの層質となる。
25. 灰褐色砂層　層状的の為に、よりも褐色となる部分が存在する。特一な砂質である。

図30　トレンチ1遺構検出状況

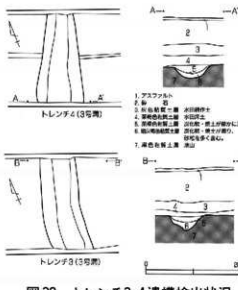


1. アスファルト
2. 砂　　石
3. 砂　　石
4. 灰 色 土 層　水田耕作土
5. 暗褐色粘質土層　水田床土
6. 灰 色 砂 層　炭層作土・黒色粘質土が堆積に混ざる。しまり・粘性無い。
7. 黒色粘質土層　砂性・炭の混入多量。
8. 黒色粘質土層　炭の混入が多量よりやく、層が灰が粘状に混ざる。
9. 灰黒色粘質土層　礫・大礫が混入する。粘化鉄が堆状に混り、グライ化した土壌である。
10. 黒色粘質土層　地山

図31　トレンチ2遺構検出状況



1　号　溝（トレンチ2）



1. アスファルト
2. 砂
3. 灰色粘質土層　水田耕作土
4. 暗褐色粘質土層　水田床土
5. 黒褐色粘質土層　炭化物・焼土が僅かに混ざる。
6. 暗褐色粘質土層　炭化物・焼土が僅かに混ざる。砂性を多く含む。
7. 褐色粘質土層　地山

図32　トレンチ3・4遺構検出状況

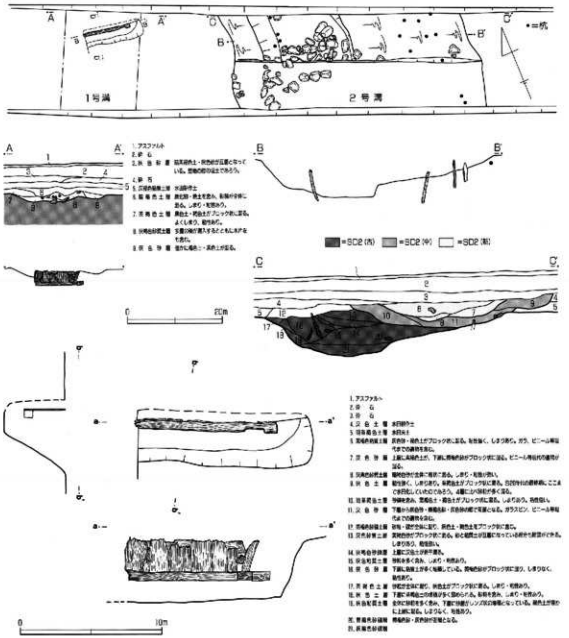
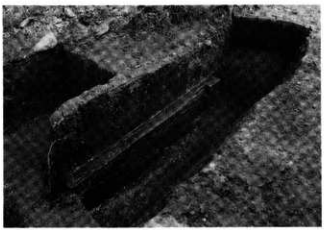


図33　トレンチ３遺構検出状況



検　出　状　況

２　号　溝（トレンチ３）

できる溝は幅4.64m、深さ0.83mの規模を有し、幅広く深い溝となる。その上層、中段階に比定する溝規模は幅3.88m、深さ0.48mとなる。最も上層、新段階に比定できる溝は幅2.71m、深さ0.51mとなり、規模を大きく縮小させる。

3号溝は幅0.78～0.82m、深さ0.29～0.34mの規模となり、1・2号溝と異なり主軸を東に30°振って南流する。

所　　見

調査によって検出した2号溝は、古絵図等の記載から甲府上水に比定できる。享保17年（1732）申上書(1)は、浅野氏領有期（1593～1600）に上水堰を普請したこと、寛文2年（1662）、町内堰に石蓋をし、かつ相川取水口まで修復したことなどを記載する。すでに先学(2)が、甲府上水は上水専用堰として建設されたものでなく、従来から存在した水田用水堰を利用・改修して城下まで通水したため町上水と水田用水との併用堰であったことを明らかにしている。調査箇所は相川からの取水口、史料に散見する「相川大口」に近接した開渠箇所に相当しよう。

最上層に掘り込まれた新段階の溝は、水田用水として昭和30年代まで機能していたことが明らかであり、中段階に比定する溝は、新甲府用水路の完成により湯川・相川とは関係なく市中に引水出来るようになった明治9年（1876）以降に位置づけられよう。

出土遺物は江戸後期に位置づけられる肥前磁器が数点、それ以外、多くが明治期以降の陶磁器であり、江戸時代初期にまで遡り得る遺物は確認できなかった。寛文2年の用水制札(3)は、堰での洗い物、破壊行為などを禁止し、元禄7年（1694）『御公用留帳』(4)からは、定期的に用水堰を清掃していたことが判明する。こうした史料を考慮するなら、今回の調査によって江戸時代まで遡り得る出土陶磁器の絶対量が少ないのは、単に検出できなかったのではなく、当初より用水堰中には含まれていなかったのではないかと推定できる。

甲府上水と想定できる溝跡が確認できたことは意義深く、特に溝跡の規模が時代とともに狭くなり、町上水と水田用水併用から水田用水のみとなった歴史的変遷を如実に反映していることなど重要な知見が判明した。

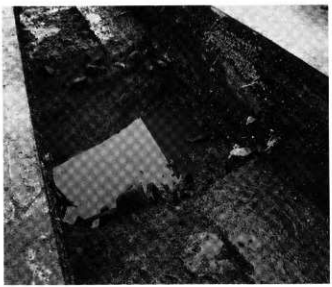
註

（1）「№159　御尋につき甲府上水仕様申上書」『甲府市史　史料編第2巻』近世Ⅰ　甲府市史編さん委員会　1987

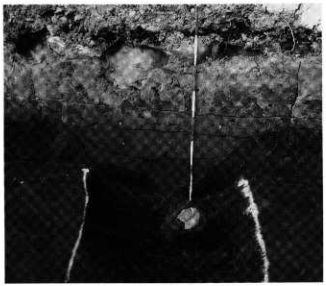
（2）露木　寛『江戸時代の甲府上水』　汲古書院　1966

（3）註（2）前掲書

（4）「6月27日条」『山梨県史資料編9』近世2　山梨県　1996



2 号 溝（トレンチ2）



3 号 溝（トレンチ4）

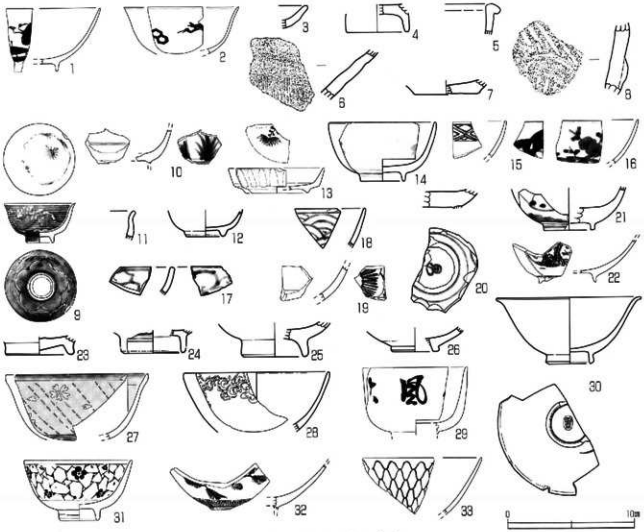


図34 出土遺物（1）

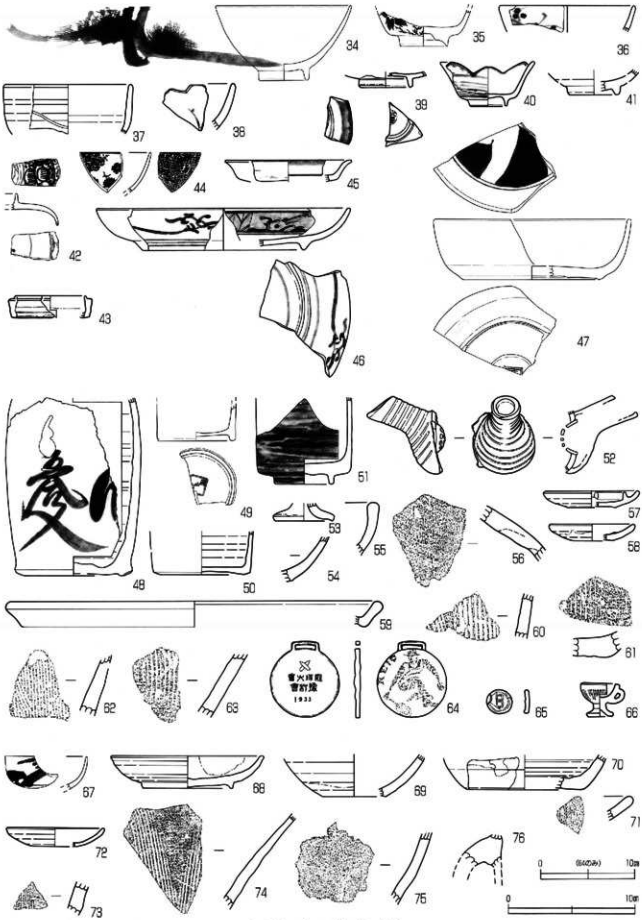


図35　出土遺物（2）

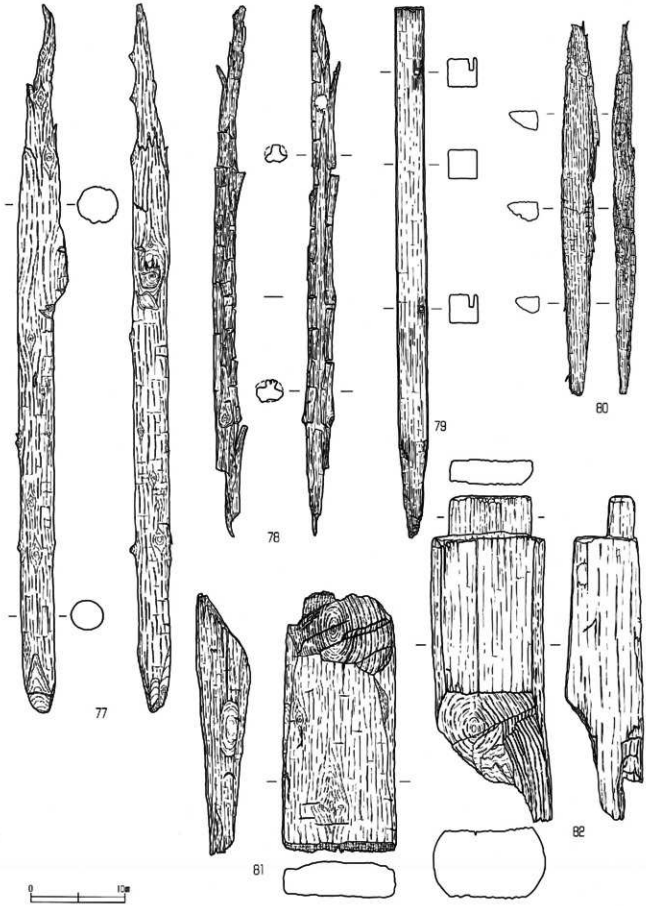
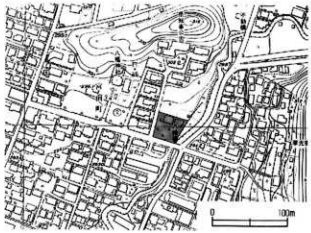


図36 出土遺物(3)

12　八幡神社遺跡

調査位置　甲府市宮前町6-41
調査原因　個人住宅建設
対象面積　1051.43㎡
調査面積　6.75㎡
調査期間　平成９年４月８日～４月９日
調査担当　志村憲一



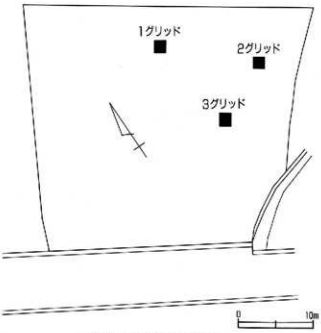


図37　試掘坑配置図

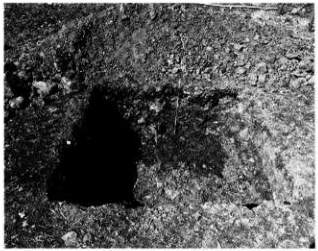
遺跡の概要

八幡神社遺跡は、相川扇状地の扇端部に立地する縄文時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の東南辺標高約295mにあり、東南方向70mに位置する藤川へ緩やかに傾斜する。中世の武田城下町遺跡の範囲にも含まれ、藤川の東側には大泉寺小路、西側には鍛冶小路が南北方向に通っている。調査区東側に位置する府中八幡神社は、甲府城が整備された文禄年間に、浅野氏が甲府城下町の乾の鎮守神として、武田氏館跡南西側に位置していた府中八幡宮を遷座させたものである。

調査の概要

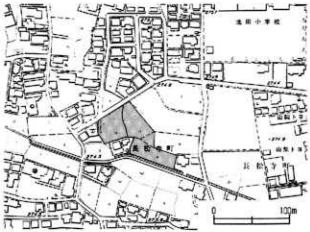
調査区に1.5m四方のグリッドを３箇所設定し、地表下約40cmまで人力により掘削を行った。各グリッドとも表土下10～15cmは、昭和20年の甲府空襲の火災により赤褐色に変色した焼土層となる。１グリッドの焼土層下部には、厚さ20cmの茶褐色土の堆積が見られたが、他のグリッドは相川扇状地で一般的に見られる黄褐色粘土の地山層となる。調査区内からは、遺構及び遺物は確認されてはいない。

調　査　状　況



試　掘　状　況

13　古宮遺跡



調査位置　甲府市長松寺町759-1他
調査原因　市民センター建設
対象面積　5067.06㎡
調査面積　200㎡
調査期間　平成９年５月19日～５月27日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

荒川の氾濫原上、標高276ｍの地に位置する。周辺地域に遺跡は少なく、本調査は遺跡詳細分布調査の一環として行われた。現状は水田で、対象地のほぼ中央部分を水路が南北に横切っている。

調査の概要

対象地に幅２ｍの試掘溝を、東西方向に１本、南北方向に２本設定し、客土及び旧来の耕作土を重機で除去した後人力で精査を行った。試掘溝の総延長は約100ｍである。

客土及び旧耕作土は、現地表面から60～80cm堆積していた。その後白色粗粒砂層・黄色粗粒砂層と続き、人頭大の礫が混入する粗粒砂層に達する。この面まで、北端－160cm、南端－220cm、東端－220cm、西端－140cmほどで、極端な高低差は認められない。

旧耕作土直下に厚さ15cm～20cmほどの茶褐色土層が認められたが遺構は皆無である。遺物として東西に設定した試掘溝東寄りから土師器の小破片３点と土馬の後ろ足臀部、および近世以降の磁器破片が検出されたが、砂層からの出土であり流れ込みの可能性が強い。

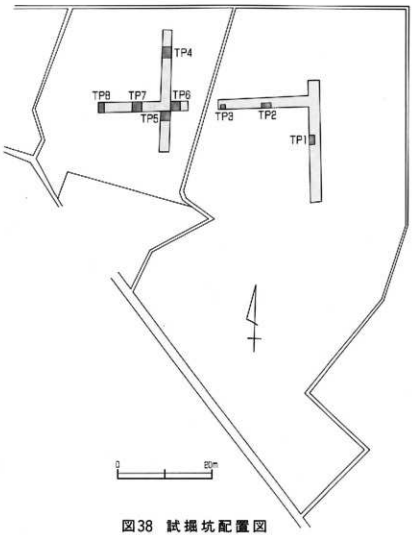


図38　試掘坑配置図

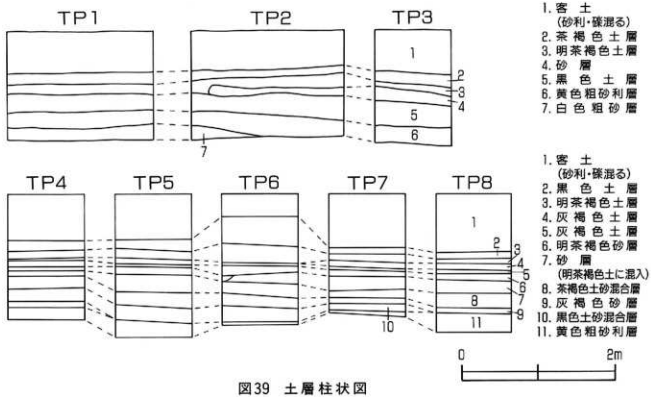


図39 土層柱状図

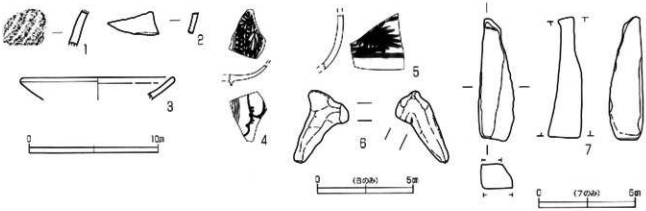


図40 出土遺物

14　緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置　甲府市緑が丘二丁目897-6他
調査原因　個人住宅建設
対象面積　130.07㎡
調査面積　7.02㎡
調査期間　平成９年５月26日
調査担当　志村憲一

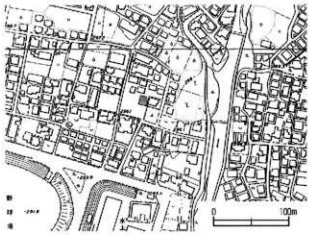
遺跡の概要

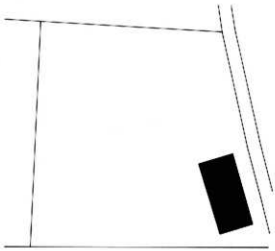
当遺跡は古墳～平安時代までの散布地である。調査区は遺跡範囲の北東側標高約296mに位置し現状住宅地である。過去周辺調査では、遺構の検出は確認されていないが、古墳～平安時代の土器等の遺物が確認されている。

調査の概要

調査区域内に東西1.8m×南北3.9mのグリッドを設定し、地表下約1.4mまで掘削を行い５層までの堆積層が確認された。１層は撹乱層であるが、２・３層は近代の水田耕作層である。地表下約85cmに位置する灰黒褐色土の４層内からは、土師器小片と14世紀後半の常滑焼甕の口縁部片が出土している。５層は灰黒色土となり、砂礫が大量に混入する。東側を流れる相川の沖積作用によるものと考えられる。

図43　出土遺物





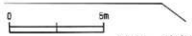


図41　試掘坑配置図

調査状況

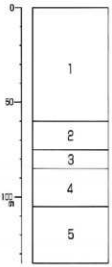
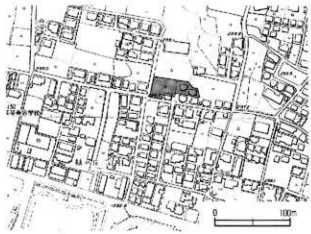


図42　土層柱状図

15　緑ヶ丘二丁目遺跡



調査位置　甲府市和田町字水口741-1他
調査原因　共同住宅建設
対象面積　987.7㎡
調査面積　24㎡
調査期間　平成９年12月16日～
　　平成10年１月16日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

緑ヶ丘二丁目遺跡は、湯村山（西　449m）と三光寺山（北　369m）が迫る地域に立地し、古墳時代から平安時代に至る埋蔵文化財包蔵地として周知されている。大正時代から戦時中にかけて陸軍49連隊の訓練場として使用されてきた経過があるが、現在では閑静な住宅街になっている。調査地点は緑ヶ丘二丁目遺跡の中央部やや北寄り、標高296mに位置し、現状は梅及び蔬菜畑となっていた。

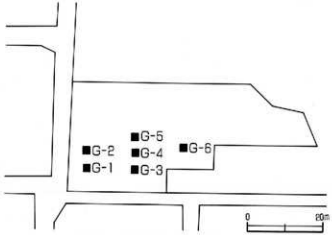


図44　試掘坑配置図

調査の概要

調査は２m×２mの試掘溝を６ヶ所設定し人力により掘り下げた。地表から40cmほど下げると黒色の粘質土層になり、遺物が若干検出される。地表下－120cmで人頭大の礫を含む黄褐色土層になり、ここが地山と考えられる。遺構は一切検出されなかった。

ま　と　め

遺物として、古墳時代から平安時代の土師器が若干検出される。いずれも小破片であるが、器形がわかるものについては図示した。ほかにキセルの雁首１点が検出されているが、これは後世の混入である。

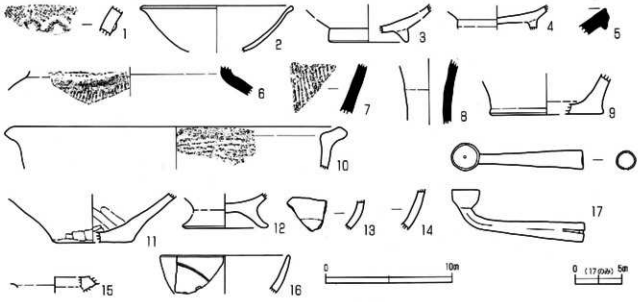
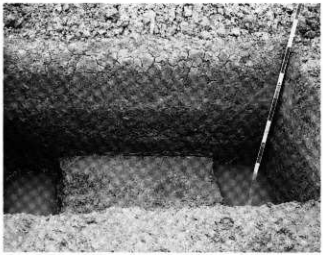
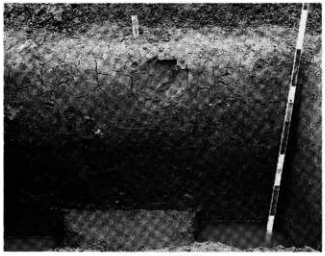


図45　出土遺物

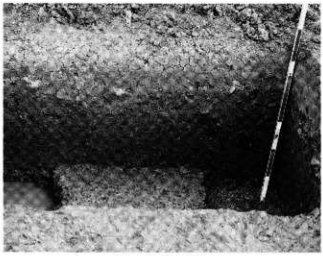
調 査 地 点



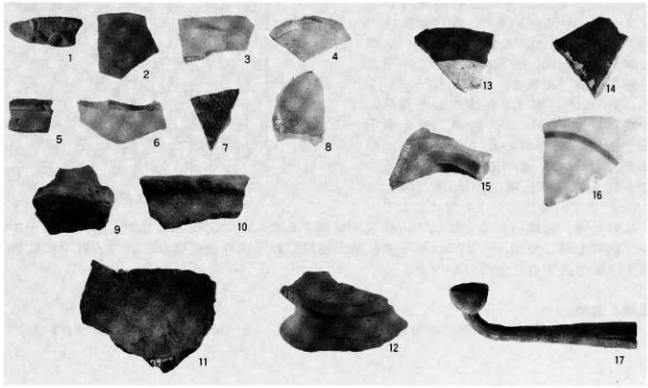
ＴＰ－１調査状況



Ｇ－４調査状況



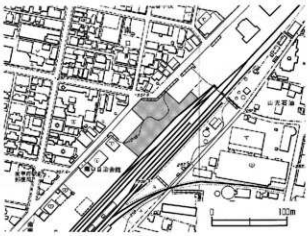
Ｇ－６調査状況



出 土 遺 物

16　南口B遺跡

調査位置　甲府市南口町652-7他
調査原因　集会所建設
対象面積　3298.97㎡
調査面積　300㎡
調査期間　平成９年６月９日～７月15日
調査担当　伊藤正幸



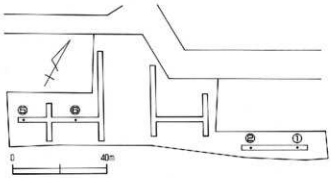


図46　試掘坑配置図

遺跡の概要

朝気遺跡の南方、甲府市立東小学校から南南西に700mほど離れた地に位置する本遺跡は、平安時代の散布地として周知されており、ＪＲ身延線南甲府駅の地下通路建設の際に、弥生時代の壺が出土したと伝えられる。今回この地に集会施設の建設が計画され、埋蔵文化財の確認を目的に試掘調査を実施した。

調査の概要

調査地点は南甲府駅の北隣りに位置し、標高は257mを測る。部分的にコンクリートやアスファルトが放置された現状である。調査は幅２mの試掘溝を東西に３本、南北に３本設定し、総延長は150m余りに及ぶ。しかしＴＲ３については、掘削途中に建物の基礎コンクリート(地中梁)にあたり、南(線路側)1/4については調査ができなかった。全体に客土が1.5mほど堆積していて、湧水も激しい場所である。

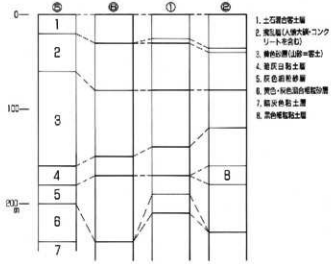


図47　土層柱状図

1.5mほどの客土を除去すると赤色粘土層に達するが、この面が旧来の水田床土面にあたるものと思われる。この面を掘りぬくと水が激しく湧き出る。さらに土と砂の互層が60cmほど続き、2.3mほどで灰褐色のシルト層に達する。

なお今回、灰褐色シルト層以下の状況を確認するため、コア抜き取りによる簡易ボーリング調査を行ったが、－270cmから黒色粘土層に変わる以外変化はなく、コアの中に植物遺体等が混入することもなかった。

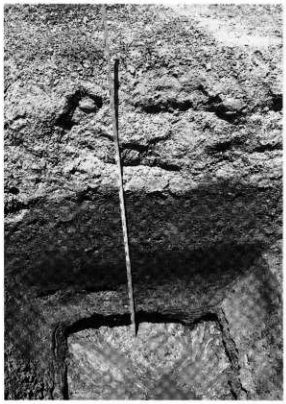
遺構と遺物

TR1及び４から竹及び木材を使用した暗渠２条が、－160cmほどの面から確認された。

２本の暗渠は13mほどの間隔で北北東方向に平行していた。この暗渠検出面からは近代以降の陶磁器が伴出するので、新しいものと考えられる。

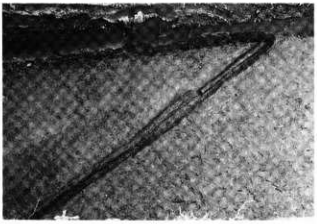
遺物について、ＴＲ２の旧水田床土層直下から古墳時代前期の土師器器台の脚部が２点検出したが遺構に伴うものではなかった。ほかに近代以降の陶磁器・下駄・キセルの吸い口等が検出した。また図の28及び29に図示した遺物は木製の栓である。

調　査　地　点

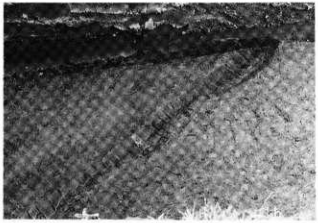


調　査　状　況

暗渠検出状況（TR１）



暗渠検出状況（TR４）



暗渠検出状況（TR４、木材除去後）

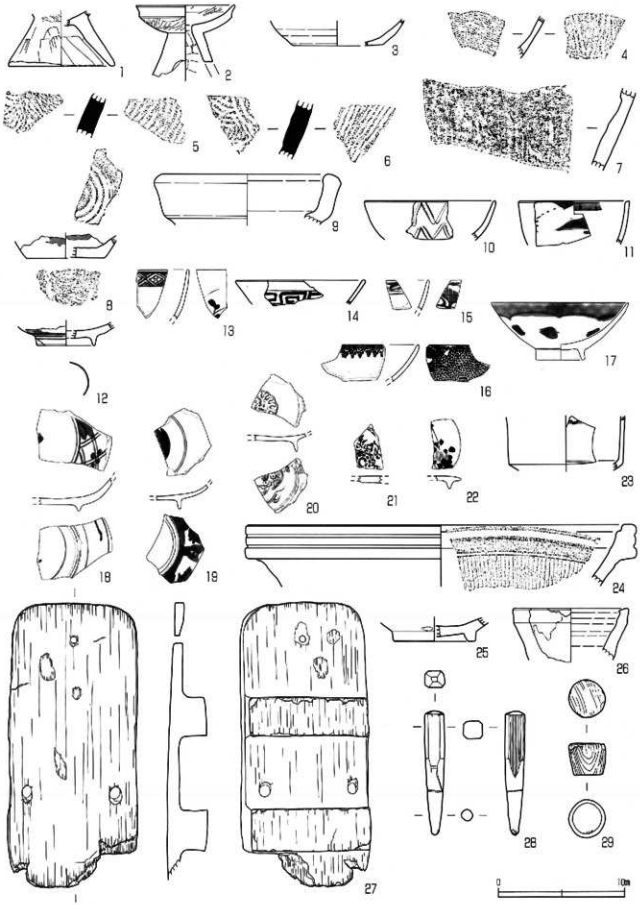
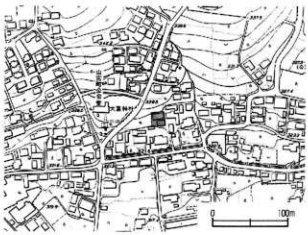

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
10cm

図48 出土遺物

17　山之神遺跡



調査位置　甲府市山宮町字宮ノ尾根2903
調査原因　個人住宅建設
対象面積　565.46㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年３月23日
調査担当　平塚洋一

遺跡の概要

本遺跡は、昭和60年度に実施した甲府市内に存在する埋蔵文化財包蔵地の分布調査の結果、中世の城館跡の可能性が指摘され、埋蔵文化財包蔵地となった経緯がある。立地は甲府市北部を市域と山間地と隔てる片山の山裾、大宮神社のすぐ東隣に位置する。

調査の結果

予定地に２×２ｍの試掘トレンチを２ヵ所設定し、地表から人力によって掘り下げ埋蔵文化財を調査した。北側に設定した１グリッドでは深さ1.5mほどの竪穴が掘り込まれ、その中に川原石が充填されていた。川原石に混じって近世の陶磁器片が出土していることから、近世以降の掘り込みと判断できる。

南側に設定した２グリッドでは調査時の地表から約１ｍ下層で旧表土が確認でき、その面で礎石跡が確認できた。礎石跡の規模は径30cm程度のものなので、礎石が支えた上屋の規模は比較的小規模だったと推測できる。

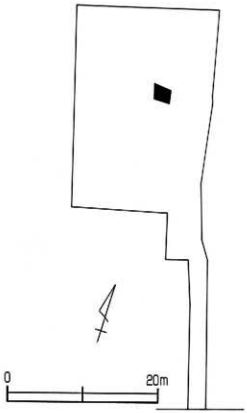


図49　試掘坑配置図

ま　と　め

今回の調査では中世の城館跡が存在した痕跡をはじめ、中世までさかのぼる遺物等は全く確認できなかった。また、中世の城館跡が存在したとすれば、堀と土塁のセット関係が想起されるが、調査地には全く痕跡も認められない。そのことからもここに中世の城館跡は存在しなかったのではなかろうか。

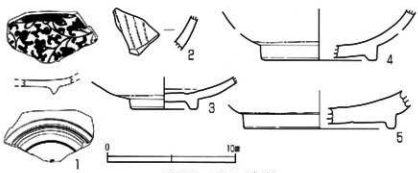
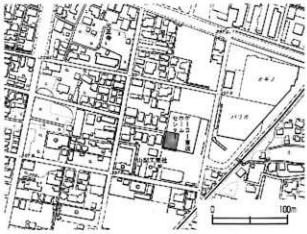


図50　出土遺物

Ⅱ．平成10年度　試掘調査

18　朝気遺跡

調査位置　甲府市朝気三丁目237,238
調査原因　店舗増築
対象面積　324㎡
調査面積　26㎡
調査期間　平成10年８月18日
調査担当　伊藤正彦



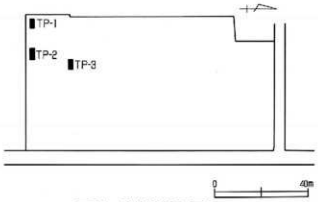


図51　試掘坑配置図

遺跡の概要

本遺跡は盆地中央部に位置し、濁川右岸の沖積地に広がる。調査地点は標高約258ｍを測り、近年開発が進み宅地・店舗が密集する市街地と化している。現況はアスファルト舗装された店舗駐車場であった。

調査の概要

対象地に幅２ｍ、長さ４～５ｍの試掘坑を３箇所設定し、地表下約３ｍまで掘削を行った。各試掘坑とも基本層序に大きな変化はなく、砂質土・粘質土の堆積が見られた。遺構・遺物ともに確認できなかった。

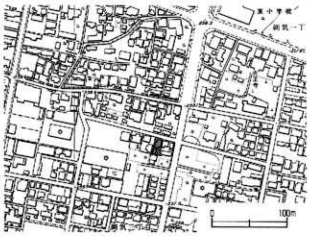
所　　見

過去の周辺調査成果からも数ｍに及ぶ洪水砂の堆積が見られ、今回の調査に際しても一度に１ｍに及ぶ砂粒の堆積が確認できた。その一方で均一な堆積で、ほぼ水平に堆積する植物遺体を含む土層も確認でき、洪水等の自然災害にさらされる一方で、沼や池といった常に滞水する湿地といった環境であったことも復元想定できる。

調　査　状　況

ＴＰ－３土層堆積状況

19　朝気遺跡



調査位置　甲府市朝気三丁目281-1
調査原因　倉庫建設
対象面積　249.758㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成11年2月2日～2月4日
調査担当　伊藤正幸

調査地の概要

今回の調査地点は朝気遺跡の南端部、標高258mに位置し、東小学校からは165mほどの距離を測る。調査地東側の道路（都市計画道路善光寺敷島線）拡幅工事に際して行われた調査（朝気遺跡第Ⅶ次調査）では古墳時代の水田跡（畦畔）が6条検出されている。

調査地は北側の道路面と比べると敷地全体が15cmほど高いが、整備された住宅地の中の空き地である。なお、本調査地から東へ300mほど離れた場所には、十丁遺跡及び里吉天神遺跡（ともに古墳時代）が知られている。

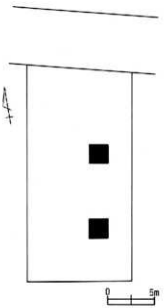


図52　試掘坑配置図

調査の概要

調査は試掘溝（2m×2m）2ヶ所を南北に設定し、人力により掘り下げた。

両試掘溝とも上部は瓦礫及び砂が混入する茶褐色土層で－110cmほど確認され、さらに5cmほどの酸化鉄分が非常に多い砂層を挟み、その下層は安定した自然堆積層となる。

Ⅰ層　黒色土及び赤褐色土の混合土層（20～25cm）
Ⅱ層　黒色土層（10～15cm）
Ⅲ層　黒色土層（灰白色土が若干混入する）（30cm）
Ⅳ層　明黒色土層（50～60cm）
Ⅴ層　灰白色土層

部分的な撹乱がⅣ層にまで達していることが確認でき、過去の土地利用において深い部分にまで手を加えられたことを物語っていた。

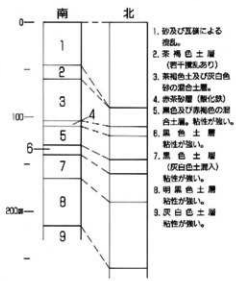


図53　土層柱状図

ま　と　め

遺構・遺物等は確認されなかった。

20　銀杏之木遺跡

調査位置　甲府市東光寺二丁目310-1他
調査原因　集合住宅建設
対象面積　357.46㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年９月30日～10月７日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

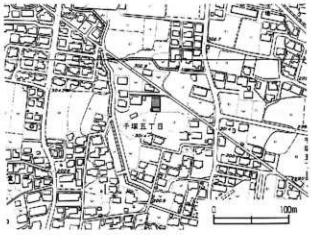
高倉川扇状地の扇端部分に位置する銀杏之木遺跡は、平安時代から近世に至る包蔵地として周知されている。高倉川扇状地上には縄文時代から中世に至る遺跡が分布し、北原遺跡、本郷遺跡、亥ノ兎遺跡等、これまでにも多くの遺跡が発掘調査された。また扇央部にあたる山裾地域には古墳も多く「北原古墳群」の名称で呼ばれている。

今回の調査地は銀杏之木遺跡の北西端に位置し、標高は255mを測る。調査地の東側100mほど離れた位置に高倉川が流れ、北西から南東方向に緩やかに傾斜している。

調査の概要

調査は対象地に２ヵ所の試掘溝（２m×２m）を設定し、人力により掘り下げた。両試掘溝とも上部40cmほどの砕石を除去すると茶褐色の土層になり－90cmほど続く。西側の試掘溝からは－80cmほどで部分的に黒色の土が認められたものの両試掘溝とも－100cmで地山に至る。遺構・遺物等は検出されなかった。

21　榎田遺跡



調査位置　甲府市千塚五丁目2792-1
調査原因　個人住宅増築
対象面積　236.38㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年６月１日～６月５日
調査担当　志村憲一

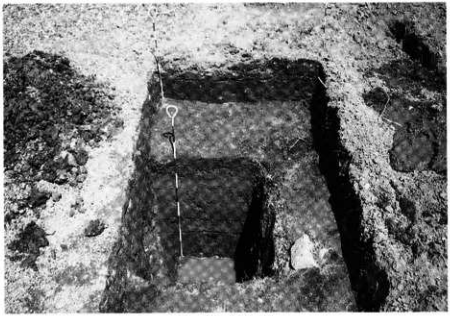
遺跡の概要

当遺跡は甲府盆地北西部標高約302mの荒川の左岸に帯状に形成された微高地上に立地する弥生～平安時代の遺跡である。この千塚地区には古墳・平安時代の遺跡が集中して見られる。調査区南側には、平成4年度山梨県文化財センターが本調査を行い、弥生時代後期から平安時代にかけての住居が28軒検出された。さらに古墳時代前期の方形周溝墓4基、縄文時代中期初頭の土坑３基を含む114基の土坑、溝、掘立柱建物跡１棟などが確認されている。調査区は遺跡範囲の北辺に位置し周辺は住宅地である。

調査の概要

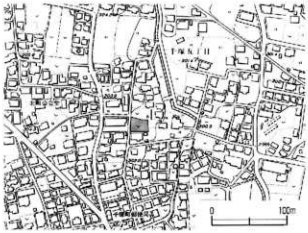
既存建物に隣接する増築部分２ｍ×２ｍの試掘坑を１箇所設定し掘削を行った。遺構は確認されてはいないが、古墳時代の土器が２点確認され、１は壺底部、２は壺肩部である。

図54　出土遺物



調査状況

22　榎田遺跡



調査位置　甲府市千塚五丁目2980
調査原因　個人住宅建設
対象面積　391.18㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年6月11日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査地点は、平成4年度に山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した地点から約500m南東に位置する。発掘調査に着手する前に周辺の分布調査をした結果、隣接する畑からも土器が表面採集できた。調査の結果、地表から約80cmまで撹乱を受けており、さらにその上に盛土が施されている状況が検出できた。最終的には地表から約130cmまで掘り下げたが、出土遺物もほとんどなく、遺構も検出できなかった。

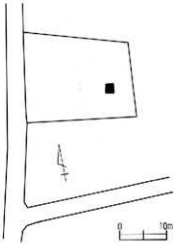


図55　試掘坑配置図

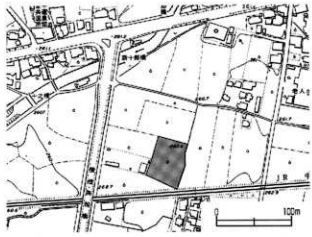
ま　と　め

遺跡の中心と思われる地点は、今回の調査地点より北西50m付近であり、そこの調査では方形周溝墓や集落跡が確認されている。今回の調査区では遺物もほとんどないことから、当地域は遺跡の外縁部に当たるものと想定される。

調　査　状　況

23　大坪遺跡

調査位置　甲府市横根町546
調査原因　駐車場整備
対象面積　2408㎡
調査面積　114㎡
調査期間　平成10年11月９日～11月24日
調査担当　伊藤正幸



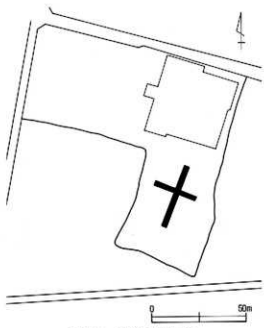


図56　試掘坑配置図

遺跡の概要

八人山と大蔵経寺山の間に展開する扇状地およびその扇端部周辺地域には弥生時代後期以降の生活の痕跡が連綿と続く地域である。これまでにも大坪遺跡をはじめ桜井畑遺跡・八木沢遺跡等、数多くの地点で発掘調査が実施されてきた。この地域に属する川田町の瓦窯跡は奈良時代に瓦窯跡で、一宮町の国分寺・国分尼寺及び甲斐国府へ瓦を供給したとされる。本調査地は十郎川の左岸、標高260mに位置する。

層　　序

調査対象地に幅２mの試掘溝を十文字に設定（東西24m、南北35m）し、重機で表面を除去した後人力により精査及び遺構の検出を行なった。

全体的には耕作土を除去すると黄褐色土の面になるが、この面が旧水田の床土にあたる。重機の使用はこの面までとして、以下の黒色粘質土面から人力による精査を行った。黒色粘土層中から奈良・平安時代の土師器片、木製品等が検出する。黒色粘土層は各試掘溝先端部分では比較的浅い(50～100cm)が、中央部に向かい急激に深くなり200～250cmを測る。黒色粘土層の下層は灰白色の砂層であるが、南端部及び西端部には白色粘土層が15cmほど確認でき、この面で若干の遺構が検出された。西端部では白色粘土の上面に、薄く明褐色土層も確認できた。

このような状況から判断すると、南西方向から北東方向へ、旧来は河道が存在していたことが予想される。

遺構と遺物

住居跡１軒（西試掘溝）、井戸跡１基・溝跡１条・小竪穴（ピット）７基（以上南試掘溝）及び住居跡に伴い土器集中遺構２ヵ所・焼土塊３ヵ所が確認された。

住居跡は赤色粒子を多量に含む黒色粘土を覆土として黒色粘土中に掘り込まれたものであり、プランの確認は困難であったが、最終的に西壁、遺物の集中及び焼土の飛散状況から判断した。井戸跡は素掘りで垂直な壁が１m以上続く。覆土中からは土師器片が多く検出された。溝跡は幅30cm長さ100cmほど検出されたが、さらに南西方向へ続いている。

小竪穴（ピット）はいずれも直径20cm、深さは10～15cmほどですり鉢状の掘り込みで不明瞭であるが、そのうち１基から木痕が確認できた。

遺物は古墳時代後期から平安時代に至るまで、黒色粘土層中全面から検出された。

遺構・遺物とも確認されたが、土地は駐車場として利用されること及び遺物包含層と駐車場床面との間層に30cm以上確保されることを確認したので、試掘調査のみで終了した。

住居跡確認状況

住居跡完掘状況

溝跡検出状況

ピット検出状況

住居跡建物出土状況(1)

住居跡建物出土状況(2)

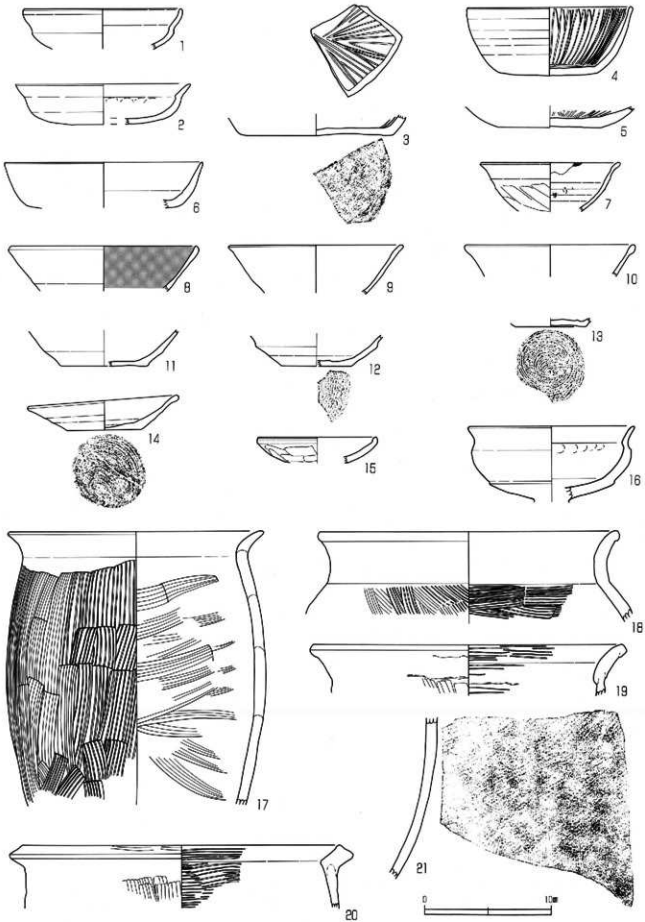


図57 出土遺物(1)

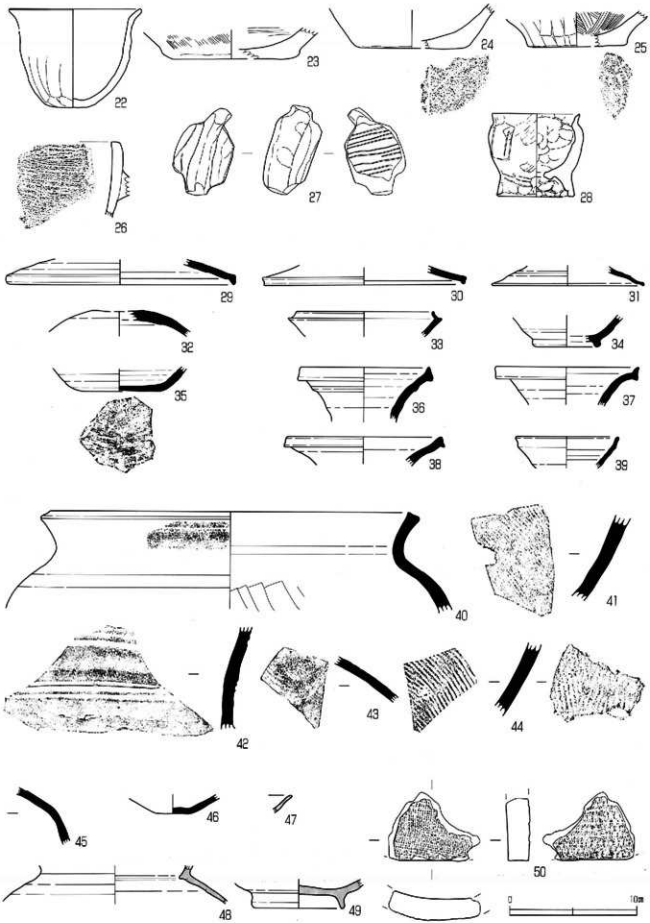

22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
0
10cm

図58 出土遺物(2)

24　大坪遺跡

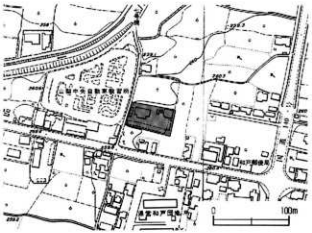
調査位置　甲府市横根町443-2
調査原因　自動車教習所管理棟建設
対象面積　365.5㎡
調査面積　50㎡
調査期間　平成10年11月13日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

調査地点は大坪遺跡範囲内の南西部に位置し、標高260mを測る。十郎川とは直線距離にして100mほど離れており、東から西へ緩やかに下る極小規模な舌状台地の南端部分に位置する。現状は教習所職員の駐車場となっており、表面はアスファルトにより簡易舗装が施されていた。

調査は建物建設予定地に、幅２ｍで東西12m、南北11mの試掘溝を十字に設定し、重機により掘り下げた。

アスファルトを除去後、上部に30cm～50cmほど堆積している砕石混じりの茶褐色の客土を除去すると安定した土層になる。全体的には明茶褐色土層、黒色土層、黄褐色に近い明るい茶褐色土層、青色粘土層であり、青色粘土層は－130cmを超えると白・黒・青の互層の粘土層になり－150cmで砂層に至る。これまでの大坪遺跡発掘調査で認められた遺物を伴う黒色粘土層は認められず、遺物もまったく確認できなかった。



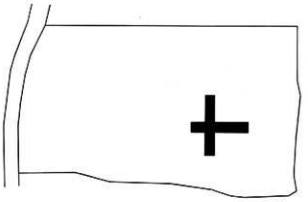


図59　試掘坑配置図

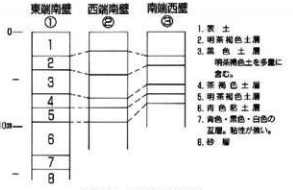
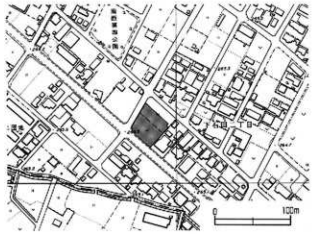
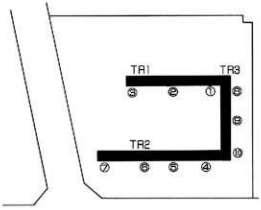


図60　土層柱状図

25　上河原遺跡

調査位置　甲府市下石田二丁目220 他
調査原因　貸店舗建設
対象面積　1537.19㎡
調査面積　128㎡
調査期間　平成11年１月11日～１月14日
調査担当　伊藤正幸





遺跡の概要

荒川の沖積原上に立地する本遺跡は、平安時代以降の埋蔵文化財包蔵地として周知されている。この地域の遺跡の分布は散漫で、本遺跡から北東700mほどの位置に立地する上石田遺跡（縄文時代）以外には発掘調査（本調査）例はなく、周知の埋蔵文化財包蔵地としても東に150mほどの位置に渋沢遺跡（平安時代以降）が存在するにとどまっている。今回の調査地は遺跡範囲内の中央部にあたり、標高265mを測る。区画整理が終了した市街地内にある畑地で、道路面とは－30cmほどの比高差が認められる。

調査の概要

全体が畑地であるが中央部に東西に敷地境界のコンクリート擁壁があったため、当初は東西に平行して２本の試掘溝（南側ＴＲ１、北側ＴＲ２）を設定し調査を開始したが、途中この２本の試掘溝をつなぐ南北の試掘溝（ＴＲ３）を敷地東側に設定して調査を行ったため、最終的に『コ』の字型の調査区となり、調査面積は128㎡となった。

ＴＲ１の概要　ＴＲ１は敷地南側に東西に、幅２m長さ26mに設定した。基本層序としては耕作土、細粒砂層、赤色粗粒砂層、粗粒砂層で、粗粒砂層までは－50cm程である。遺構・遺物は認められず、安定した自然堆積の土層である。

ＴＲ２の概要　ＴＲ２は敷地北側に東西に、ＴＲ１と平行するように幅２m長さ20mで設定した。面としてはＴＲ１の畑と段差は認められず、粗砂までの深さにも大差はない。遺構は確認できなかったが、遺物として近世の陶磁器破片が数点確認された。

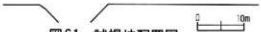


図61　試掘坑配置図

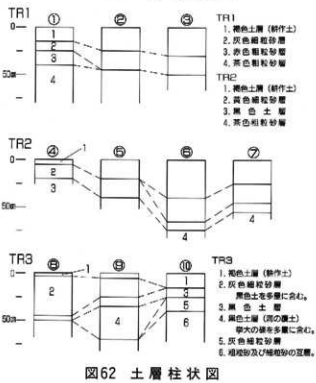


図62　土層柱状図

ＴＲ３の概要　ＴＲ３は敷地東側を南北に、幅２ｍ長さ18ｍに設定した。砂層までの基本層序には変わりないが、北面から4.5ｍほどの位置に拳大の礫を多量に含む黒色土を覆土とする溝状の掘り込み及び底部分に１列８本の杭列が確認された。

溝跡は東西方向に向かい、幅1.6m、深さ0.2mほどの規模で、底面からは湧水が認められる。この溝状の掘り込みは外の試掘溝からは確認されていない。

一方打ち込まれた杭列は南北方向で、溝跡を横切るように打ち込まれていた。各杭の間隔は0.3～0.35ｍほどでほぼ等間隔に検出された。

この溝跡の覆土直上にはコンクリート片が混入しており、溝中からは遺物の出土が確認できなかったため、最近まで使用され廃棄された可能性が強い。

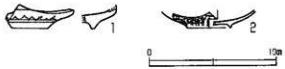
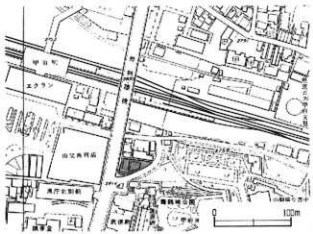


図63　出土遺物

26　甲府城跡



調査位置　甲府市丸の内一丁目572他
調査原因　駐車場建設
対象面積　521.88㎡
調査面積　66㎡
調査期間　平成10年12月14日～
　　平成11年１月18日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査地点は、甲府城の屋形曲輪のうち、屋形曲輪を囲繞する堀と土塁のすぐ東隣、内松陰門のすぐ北側あたりに位置する。現在は舞鶴陸橋の南端から東に折れ、舞鶴城公園の北側道路や甲府駅南口のロータリーへ向かう道路に面し、南側の道路とは約４mの段差がある。

甲府城は、天正18年（1590）に江戸に拠点を構えることになった徳川家康を牽制するため、豊臣秀吉配下の武将が精力的に築城し、慶長５年（1600）頃完成したというのが現在の通説となっている。

試掘調査は、対象地のほぼ中央に幅２m、長さ20mのトレンチを１箇所、３m幅の調査グリッドを３箇所設定し行った。

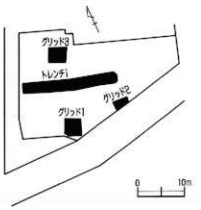


図64　試掘坑配置図

遺　　構

中央に設定したトレンチ１では、長径50～60cmほどの石で囲まれた苑池状の遺構が確認できた。苑池状遺構の規模は確認できた範囲で最大17mを測る。その中から泥とともに非常に大量の瓦が出土した。

南側に設定した３×３mのグリッド１では直径40cmほどの柱穴が、芯－芯で約200cmの間隔で東西方向に２つ確認できた。また南東側に３×１mで設定したグリッド２、北側に３×４mで設定したグリッド３からは遺構・遺物は全く検出できず、地表から約100cm下層では粘性の強い灰白色粘土となった。

現在南側の道路とは約４mの高低差があることから、屋形曲輪の南側は一部、山裾を削平し整地したことも考えられる。

図65　出土遺物

出土遺物

トレンチ１から出土した瓦は非常に大量かつ種類も豊富で、甲府城創建期のものも出土している。創建期の瓦には「丸に違い鷹の羽紋」をあしらった大型の飾り瓦や、瓦当面の直径が17cm程度の軒丸瓦が出土している。また、破片資料であるが、瓦当面の直径が36cmにもなるような軒丸瓦も出土している。これも山梨県埋蔵文化財センターの資料から、丸に違い鷹の羽根紋になるものと思われる。

この紋様は、文禄２年（1593）から甲斐国を統治する浅野長政・幸長父子の家紋であることから、築城期に製作されたものと考えられる。

軒丸瓦で最も多く出土しているのは三つ巴紋である。瓦当面の大きさは13～17.5cmのものがあり、直径が13.5cm（４寸５分）のものが最も多く出土している。

甲府城は築城から約400年が経過し、その歴史の中で大きな修築が３回あったと考えられている。第１回目は文禄から慶長年間（1600年頃）の築城期。第２回目は徳川綱重が入城する頃にあたる寛文年間（1660年頃）。柳沢吉保・吉里が受封する宝永年間（1710年頃）の３回である。このうち、柳沢氏が受封したころ甲府は最も華やかだったと記述があることから、３回目の修築はかなり大規模だったと考えられる。

そのため、最も出土量が多い規格の瓦は宝永年間のものと考えられる。

瓦以外の人工的な出土遺物に、瀬戸の擂鉢と、焼塩壺がある。擂鉢は口縁の形態から、瀬戸・美濃地域で連房式登窯の第一段階に生産されたものと考えられる。

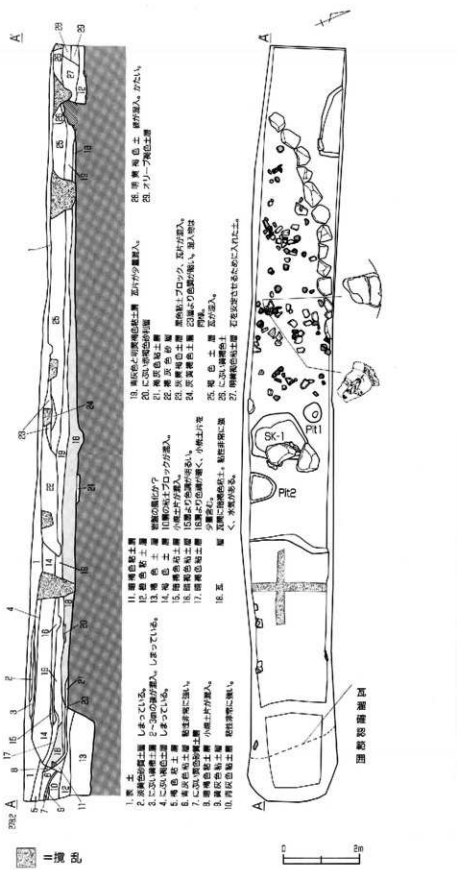


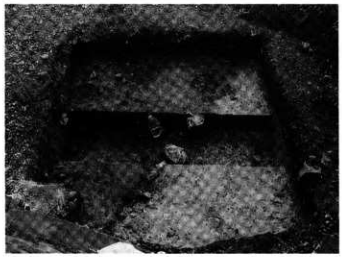
図66　平面図・土層堆積図

焼塩壺は「泉州麻生」の刻印を持つ。
また、トレンチ１中央付近の石の脇からは獣骨と思われるものも出土している。

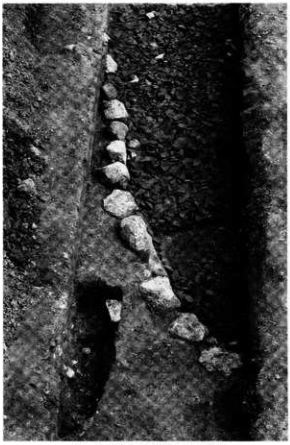
ま と め

現存する甲府城の絵図も柳沢期をさかのぼる資料もほとんどないため、築城当初の様相は甲府城全体を通して不明である。そのなかで宝永年間の様相を伝える柳沢文庫所蔵『楽只堂年録』絵図には、御殿建築が調査地点の北側に描かれる。松平文庫所蔵「甲府城絵図」等には、調査地点の付近には３間×32間の長屋（番所）が描かれる。しかし、今回検出した遺構との関係は不明である。

柳沢吉里が享保９年（1724）に大和郡山に転封した後、享保12年に甲府城内で火事が起こり、屋形曲輪を始め月見櫓、本丸、清水曲輪等の御殿以下諸建物を消失したという記録が残されている。しかし、瓦にともなって焼土があまり出土していないことから、この火災による罹災処理と考えるのはむずかしい。そのため、今回の調査の出土遺物の下限の年代は18世紀前半であるが、瓦の廃棄された年代は明治６年の廃城令にともなうものと考えたい。



グリッド１調査状況



トレンチ１遺物出土状況

トレンチ１土層堆積状況

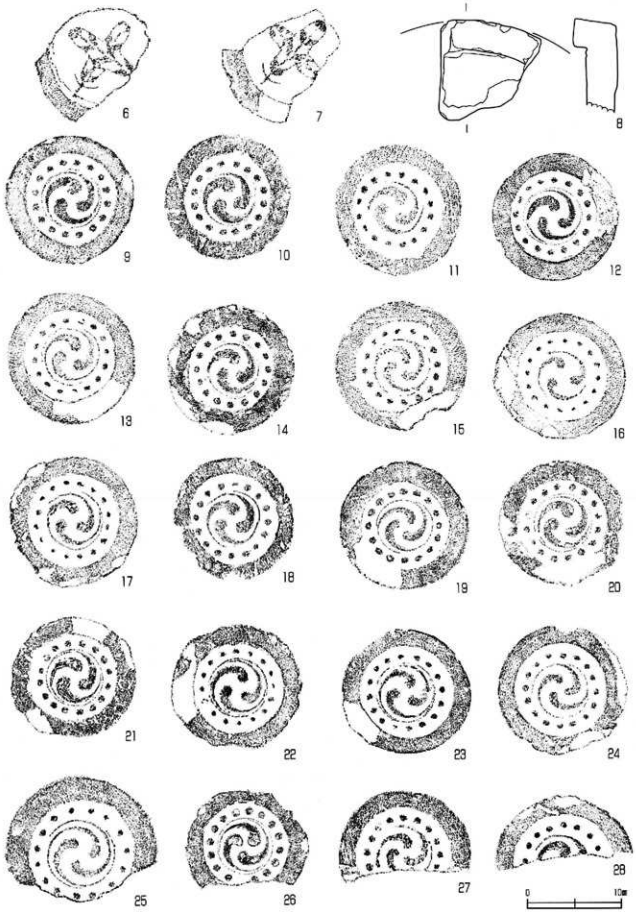


図67 出土遺物(1)

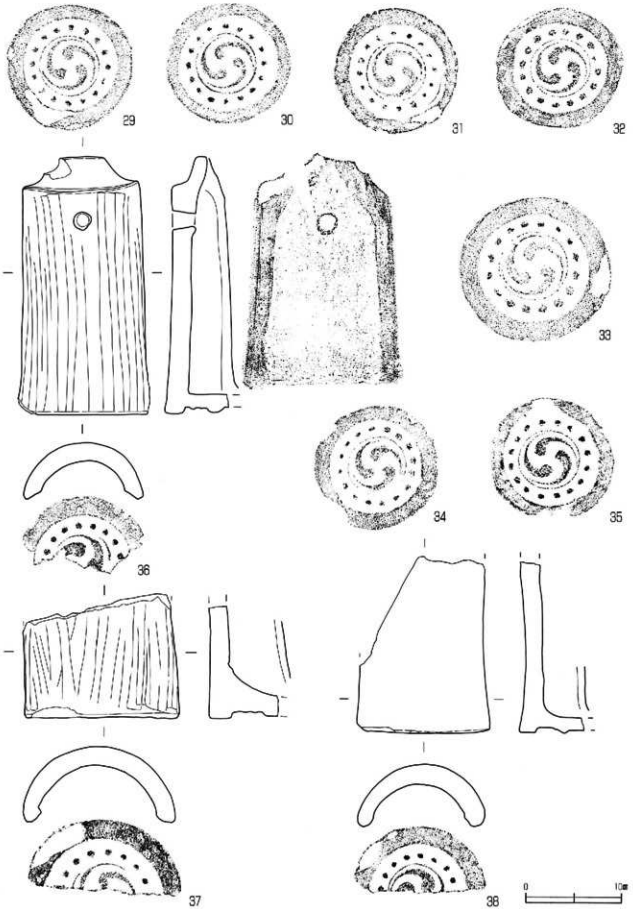


図68 出土遺物(2)

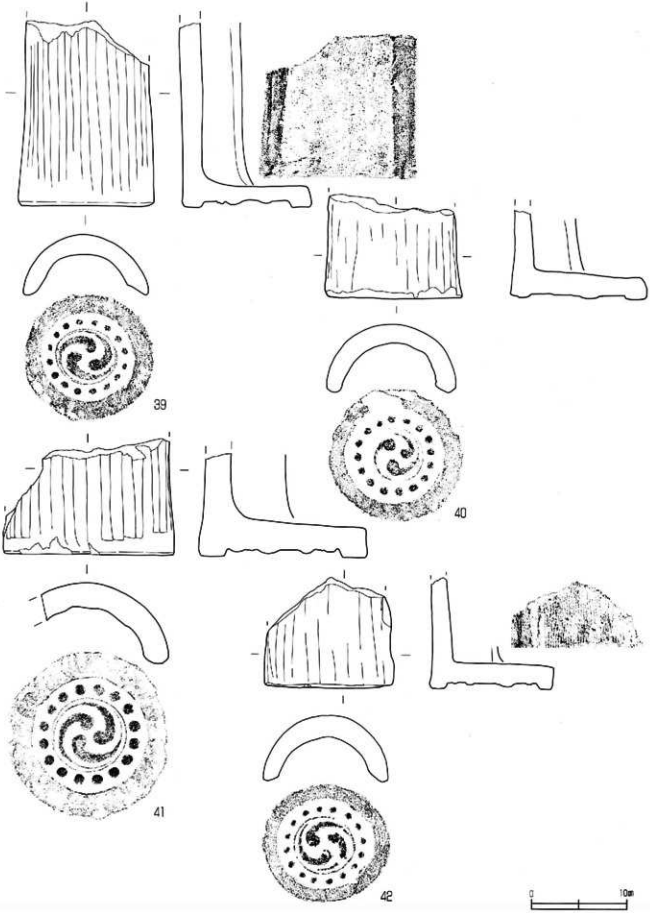


図69 出土遺物(3)

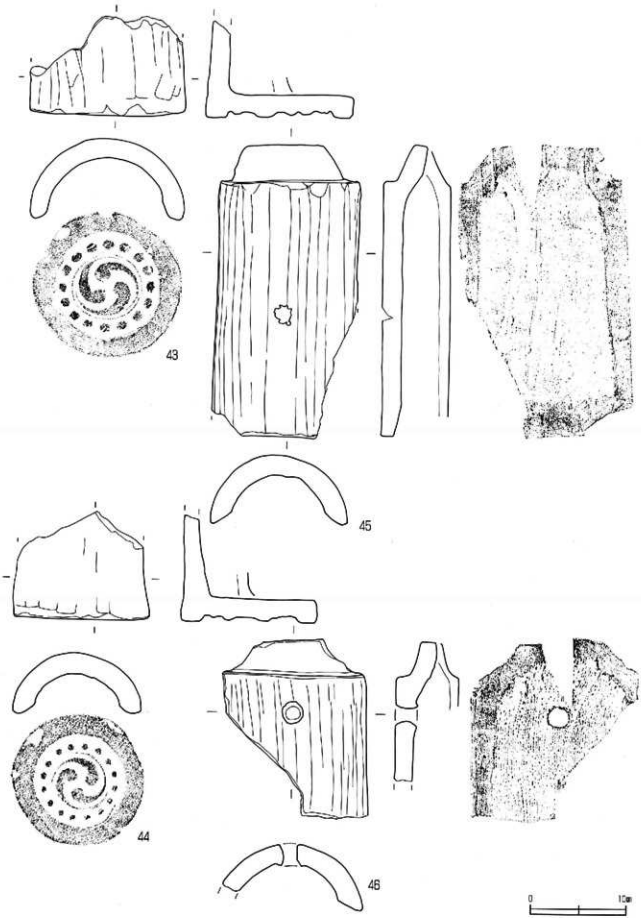


図70　出土遺物（4）

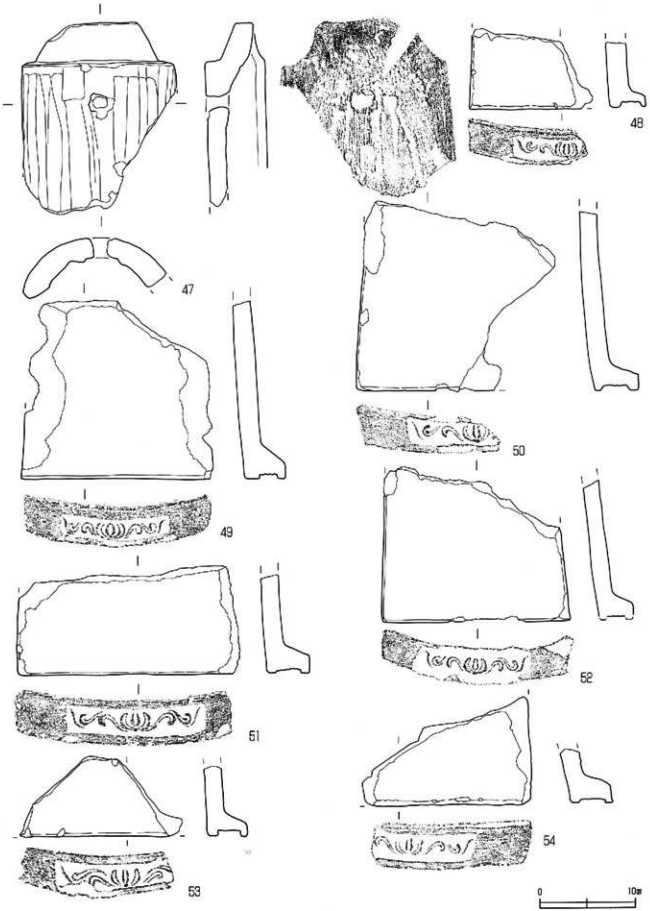


図71　出土遺物（5）

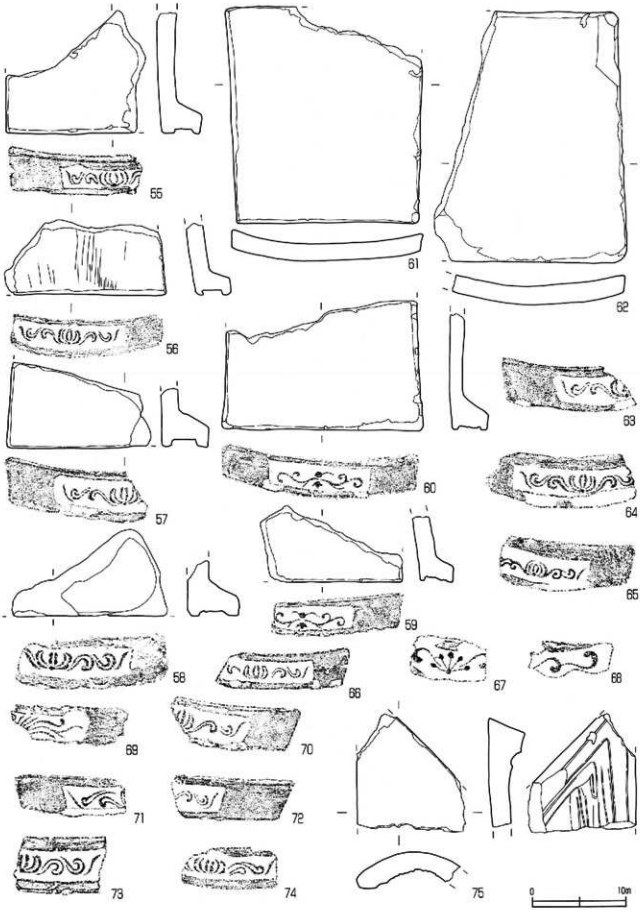


図72　出土遺物（6）

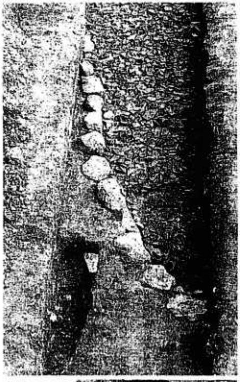
甲府城最大級の瓦溜め出土

舞鶴陸橋南詰めの県指定区域外

「柳沢御殿」建設で廃棄か
重臣浅野家の家紋入りも

甲府市教委が同市丸の内一丁目で進めている民間駐車場用地の試掘調査で、甲府城としては最大級の瓦溜（かわらだ）めが出土した。建物の取り壊しに伴い再利用できない瓦を廃棄した場所で、一六〇〇年に甲府城を完成させた豊臣家重臣の家紋瓦も見つかった。出土した瓦の中には江戸時代中期のものも含まれていることから、築城期以降に整備された大型建物に使用し、柳沢時代の御殿建設に伴い捨てられた可能性が高い。

試掘場所は鉄工運所有地で舞鶴陸橋南詰めの東側。県指定区域外だが、駐車場建設に伴う試掘調査で、柳沢時代（一七〇四－二四年）に屋形曲輪（くるわ）と呼ばれた場所から大量の瓦が出土した。一九九〇年に始まった県教委の発掘調査で瓦溜めは十数カ所見つかっているが「今回はこれまでの規模をしのぐ大きさ」（同教委）という。



㊤多数の瓦が出土した甲府城最大級の瓦溜め㊦甲府城を完成させた浅野家の家紋「違い鷹ノ羽」が入った瓦も見つかった＝いずれも甲府市丸の内1丁目

甲府城は、明治以降、周辺の大半が埋め立てられたため、指定区域外については、北口で出土した石垣以外に、当時の様子を伝える考古資料は少ない。

同教委によると、瓦層は深さ約九十㌢の地点から出土。これまでに約二・六㌧の平瓦が確認された。豊臣家の重臣・浅野家の家紋である「違い鷹ノ羽」が入った直径約十六㌢の軒丸瓦も見つかった。天守台付近から一九九七年に出土した直径約四十㌢の「違い鷹ノ羽」が入った大型円形飾り瓦の一部とみられる瓦片もあった。同瓦は御殿建築など大型建物に使われたとする説が有力だ。

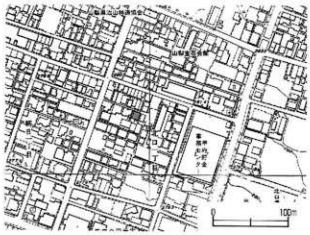
同曲輪には十八世紀初頭、甲府藩主となり甲府城を再整備した柳沢吉保が、壮大な御殿群を造営したが、一七二七年の火災で焼失。柳沢時代以前の江戸時代前期に当たる寛文期（一六六一－七二年）には、長さ約五七・六㍍に及ぶ長屋番所などがあったとされる。

市教委や県埋蔵文化財センターなどは①築城期の古い段階の瓦が含まれている②火災に遭った痕跡がなく、焼土も確認できない③大型円形飾り瓦が特殊建築物にしか使われない－ことなどから、柳沢時代に造営した御殿に使われた瓦を後年捨てたのでなく、築城期から江戸時代中期までの大型建物に使われた瓦を、柳沢時代に御殿を建設するため破棄した可能性が高いとみている。今後、遺物の精査を行い、破棄した時期や建物の特定を進めていく。

『山梨日日新聞』平成11年１月18日付紙面（33面）より転載

（山梨日日新聞社提供。平成19年２月９日付にて使用許可済）

27　甲府城下町遺跡



調査位置　甲府市北口一丁目97
調査原因　個人住宅建設
対象面積　155.83㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年4月16日～4月20日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

調査地点は甲府城の北西に位置し、近世柳沢時代に拡張された武家屋敷の一角に所在する。中世武田氏統治時代には、城下町の南端付近にあたると考えられている地域になる。

建築予定地の中央に2×2mの試掘グリッドを設定し調査を実施した。

地表から約20cmの深さまで既存建物の解体による撹乱を受けていたが、それより下層には中世から近世の遺物包含層が残されていた。遺物包含層には焼土と炭化物が多く含まれていた。

地表下約60cmで土坑が3基重複するような形で確認できた。調査の結果、堆積する土壌に差が認められないため、ひとつの土坑として完掘した。

出土遺物

土坑の確認面で出土した瀬戸美濃系陶器皿のほか、中世から近世にかけての土器・陶器がある。瀬戸美濃系陶器皿は大窯期に作成されたものだが、小片のため細かい年代決定は困難である。他には擂鉢、土鍋の破片が出土している。

ま と め

今回の調査により、JR中央線付近を境に北側では、中世の武田城下町のうえに近世の甲府城下町が展開した様相が確認できたことは成果である。近世城下町の整備に伴い中世城下町は“破壊”されたと思われていたが、丁寧な調査を心がけることにより、今後その実体が明らかになると思われる。

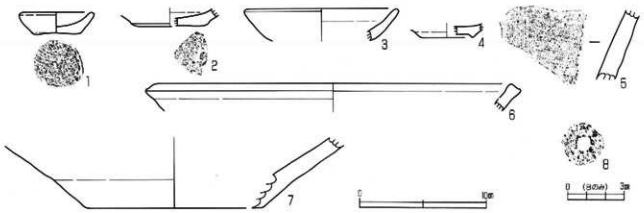
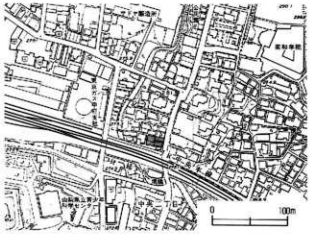


図73　出土遺物

28　甲府城下町遺跡

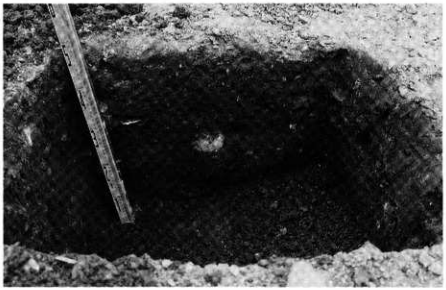


調査位置　甲府市愛宕町66
調査原因　個人住宅建設
対象面積　319.81㎡
調査面積　2㎡
調査期間　平成10年7月30日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

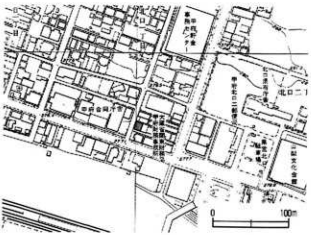
甲府城下町のうち、横近習町から愛宕町に至る通りの西側に位置し、標高は258mを測る。敷地西側及びJR中央線を挟んで南側には藤川が流れるため、河川敷面からの比高差は5mを測る。個人住宅建設に伴い1m×1mの試掘溝2ヶ所を設定し調査を行ったが、地表下30cmまでは瓦礫を含む茶褐色土層、その下、－70cmまで小礫混じりの暗赤褐色土層で、地山に至る。全体が客土で遺構・遺物等は一切確認されなかった。

調査地点



調査状況

29　甲府城下町遺跡



調査位置　甲府市北口一丁目16
調査原因　個人住宅建設
対象面積　116.89㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年８月25日～８月28日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

甲府城下町の橋小路に面したこの位置は、甲府城の北西部、標高258mを測る。敷地中の北東部分に２ｍ×２ｍの試掘溝を設定し人力により－120cmまで掘り下げ、地山に達した。地山までの中間層は、Ⅰ撹乱を受けている瓦礫層（60cm）、Ⅱ赤色粒子を多量に含む明茶褐色土層（15cm部分的にではあるが撹乱がこの層にまで及ぶ）、Ⅲ粘性・しまりともに強い黒色土層（40cm）で、地山は黄褐色を呈し多量の拳大礫が多量に混入するため確認は容易であり、上部には極薄く灰白色砂が堆積していた。また遺物として、地山に至る掘り下げ過程で、土師器の小破片及び年代不明の陶器小破片がそれぞれ１点ずつ検出された。

遺構としては地山面で、幅40cm深さ10cmほどの溝状遺構が確認された。この溝状遺構は東壁際から南西方向に延びるもので、覆土中には多量の拳大の礫を含んでいた。なお、遺物は伴出しなかった。

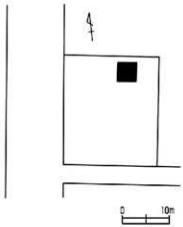


図74　試掘坑配置図

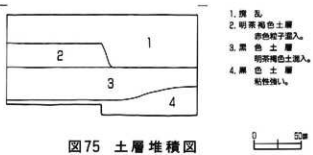
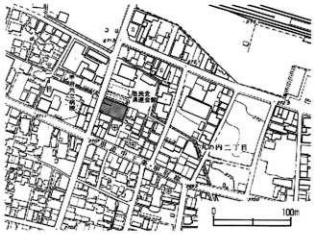


図75　土層堆積図

30　甲府城下町遺跡

調査位置　甲府市丸の内二丁目108-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　745.74㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年８月31日～９月11日
調査担当　伊藤正幸



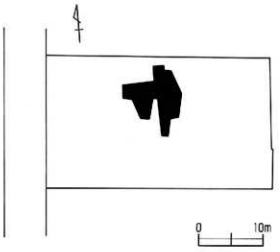


図76　試掘坑配置図

調査の概要

甲府城内城から西へ200mほど離れた二の堀に外接する本調査地は、標高280mほどに位置する。調査は当初２m×２mの調査グリッドを設定して行ったが、従来の土地区画を示唆させる溝跡及び井戸跡等が確認されたため、調査地を拡張して継続した。地山確認面まで110～150cmほどだが、上部には全体的に50cmほど砕石が敷かれている。またグリッド南壁は地山まで礫が投げ込まれていた。

調査成果

溝状遺構は－60～－80cmの深さで確認された。寝かせた２本の丸太の上に割り石を配置したものである。調査グリッドを南北に延長したが、８mほど確認した。南端北端ともに撹乱に至り破壊されていたが調査地南側の土地区画の延長線に一致するものであるため近代以降の溝跡と思われる。

井戸跡は南部の撹乱により一部破壊されていたが、－130～－150cmの地山面を掘り込み作られた方形のプランを示す。内部は井戸枠に使われたと思われる丸太、加工痕が認められる木杭４本及び自然石が雑然と入り込み、廃棄された様相を呈する。内部を－200cmまで掘り下げたが、多数の陶磁器破片が確認されている。

出土遺物は井戸覆土中からの陶磁器をはじめ、煙管・鉄丸釘などが検出した。

図77　土層柱状図

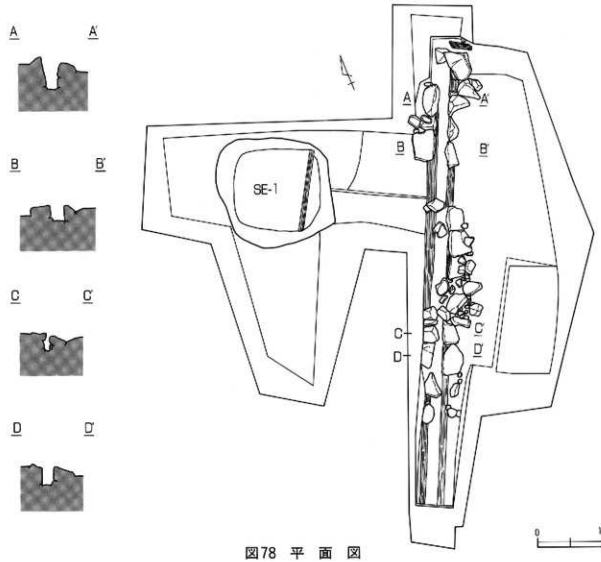


図78 平 面 図

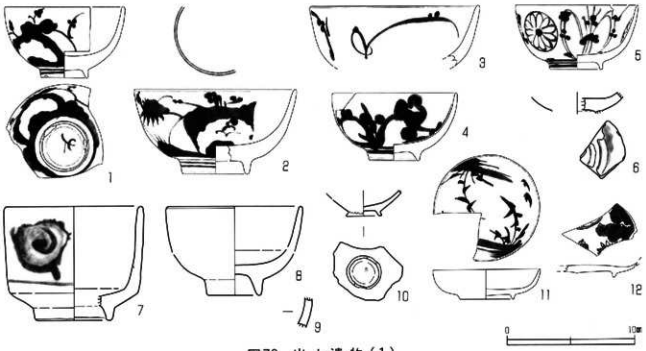


図79 出土遺物(1)

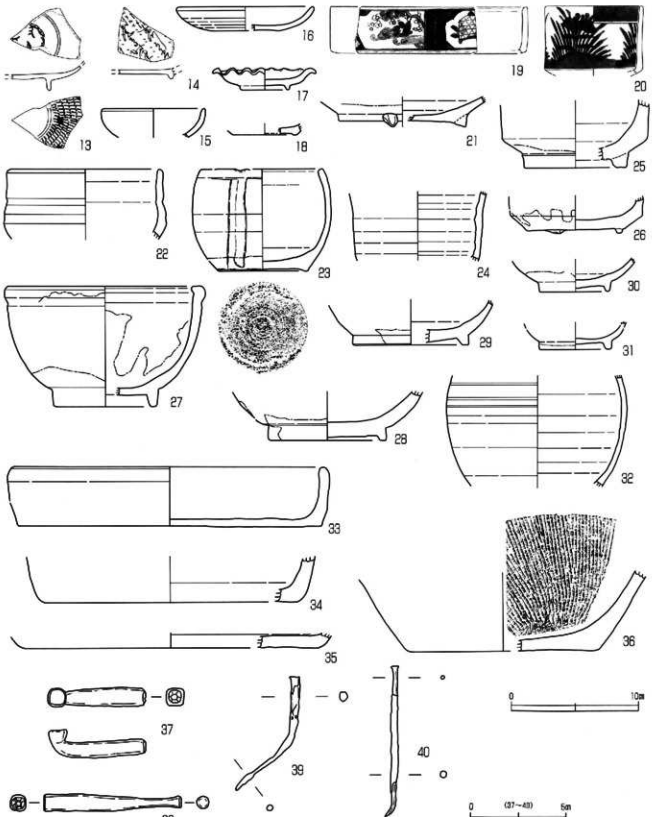
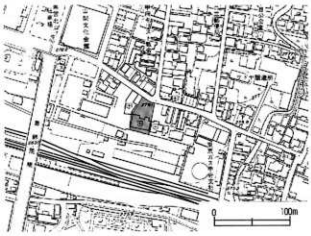

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
0
10cm
0
(37~43)
5cm

図80　出土遺物（2）

31　甲府城下町遺跡



調査位置　甲府市北口三丁目1-1
調査原因　診療所増築
対象面積　1181.47㎡
調査面積　2.25㎡
調査期間　平成11年３月12日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

調査区は、相川扇状地扇端部標高279ｍに位置し、近世の古絵図から甲府城お花畑曲輪北側の広小路部分に相当する。

調査の概要

調査区域内に1.5m四方のグリッドを設定し、地表下約0.5ｍまで掘削を行った。しかし隣接する鉄筋造りの建物及び配管により撹乱を受けており、遺構・遺物ともに確認されなかった。

32　甲府城下町遺跡

調査位置　甲府市丸の内一丁目226,239,240
調査原因　道路建設
対象面積　638㎡
調査面積　70㎡
調査期間　平成11年３月18日～３月26日
調査担当　佐々木　満

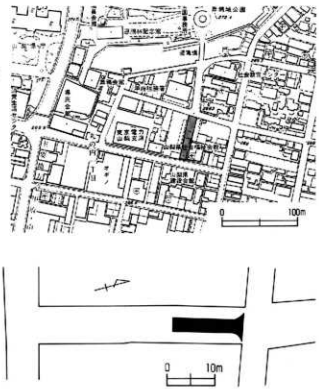


図81　試掘坑配置図

調査の概要

本地区は、甲府城鍛冶曲輪南側の二の堀内の武家屋敷地に位置する。市道改良工事に伴う試掘調査であったが、甲府城下町遺跡を周知の埋蔵文化財包蔵地として設定した年度であり、関係部局との連絡調整が不十分で、道路側溝については着工済みとなったため、車道予定地のみ緊急で確認を行った。南北に細長い調査対象区に対して南北にトレンチを３箇所入れて確認を行ったが、南側は鉄筋コンクリート建物の基礎等により深く撹乱されていた。しかし、北側は遺構面が残されており、溝跡などの遺構が確認されたため、調査範囲を北側一帯に絞り込んだが、包含層はほとんどなく、遺構密度も薄いと判断し、そのまま範囲を拡張して約70㎡の確認調査を実施した。

検出遺構

調査区内では、溝跡５条、土坑１基、建物跡１棟、ピットなどが検出されている。溝跡はすべて南北方向であり、１号溝跡は砂層の堆積も認められたことから、常時ではないにしても一定の流水があったものと考えられ、幕末から明治期の遺物が多数出土した。２号溝跡は、覆土に炭化物や焼土を多数含んでいたことから火災によって廃絶したものと思われる。遺物の年代からみると、享和３年（1803）の火災以降に埋没した溝跡と考えられる。３～５号溝跡は、掘り込みが浅く不整形な溝跡であり、４号溝跡は南北に分断された形で検出された。

また、木杭を３本打ち込んだ浅いピット状の遺構が検出されたが、調査当初から建物に関連する遺構であることは疑いなかったが、用途については定かではなかった。しかし、黒色粘性土の軟弱な地山上に遺構が展開するという立地環境と、全国的な事例やその後の周辺調査によって、この杭列が建物礎石の沈下防止用の地盤改良材として打ち込まれたものであることが判明した。よって、時期的には不明であるが、これらの木杭列は建物跡と考えられ、時期的には２～５号溝跡と重複関係にあることから、重複のない１号溝跡と併行する遺構である可能性がある。１号土坑は、中央部が掘り込まれており、床面に凹凸がみられ、形状から判断すると植栽痕と考えられる。

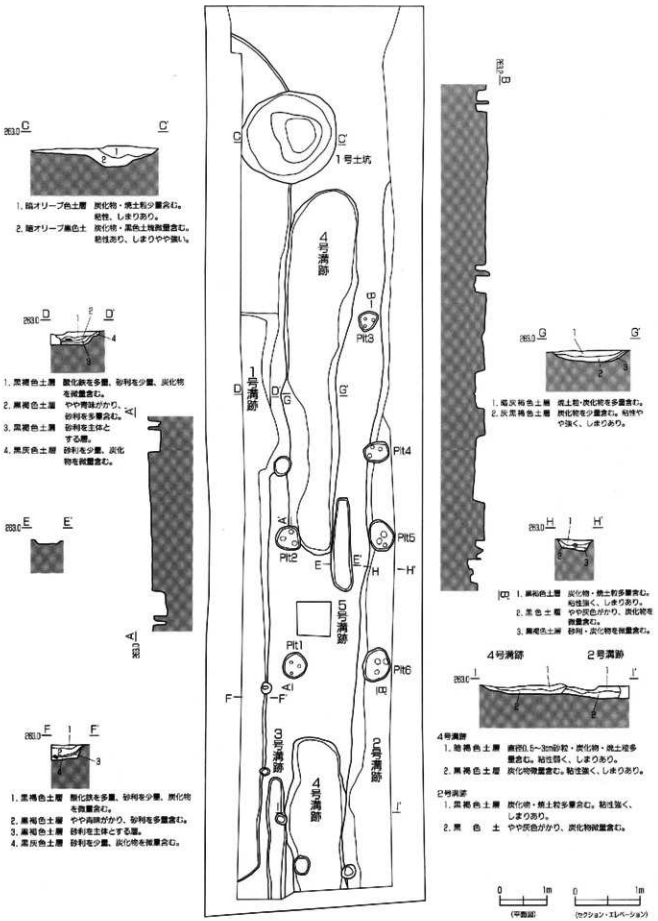

263.0 C C'
1. 暗オリーブ色土層 炭化物・焼土粒少量含む。粘性、しまりあり。
2. 暗オリーブ黒色土 炭化物・黒色土塊微量含む。粘性あり、しまりやや強い。
263.0 D D'
1. 黒褐色土層 酸化鉄を多量、砂利を少量、炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土層 やや青味がかり、砂利を多量含む。
3. 黒褐色土層 砂利を主体とする層。
4. 黒灰色土層 砂利を少量、炭化物を微量含む。
263.0 E E'
263.0 F F'
1. 黒褐色土層 酸化鉄を多量、砂利を少量、炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土層 やや青味がかり、砂利を多量含む。
3. 黒褐色土層 砂利を主体とする層。
4. 黒灰色土層 砂利を少量、炭化物を微量含む。
1号土坑
4号溝跡
1号溝跡
Pit3
Pit4
Pit5
Pit2
Pit1
Pit6
5号溝跡
3号溝跡
2号溝跡
263.0 G G'
1. 焼灰褐色土層 焼土粒・炭化物を多量含む。
2. 灰黒褐色土層 炭化物を少量含む。粘性やや強く、しまりあり。
263.0 H H'
1. 黒褐色土層 炭化物・焼土粒多量含む。粘性強く、しまりあり。
2. 黒色土層 やや灰色がかり、炭化物を微量含む。
3. 黒褐色土層 砂利・炭化物を微量含む。
4号溝跡 2号溝跡
263.0 I I'
4号溝跡
1. 暗褐色土層 直径0.5~3cm砂粒・炭化物・焼土塊多量含む。粘性弱く、しまりあり。
2. 黒褐色土層 炭化物微量含む。粘性強く、しまりあり。
2号溝跡
1. 黒褐色土層 炭化物・焼土粒多量含む。粘性強く、しまりあり。
2. 黒色土 やや灰色がかり、炭化物微量含む。
0 1m (平面図)
0 1m (セクション・エレベーション)

図82 平面図

出土遺物

1号溝跡からは最も多くの遺物が出土しているが、土器・陶磁器のほか、木製品や溶融した鉄塊、鍋か釜の鋳型のような特殊なものも出土した。また、23・24は古代の土師器であり、平安末期の一条荘に関連する遺物であると考えられ、今後付近の調査では注意が必要であろう。しかし、中世の遺物は皆無であり、一蓮寺門前町との関連は今回の調査では確認できなかった。

火災後に埋没したと考えられる2号溝跡は、17世紀後半から19世紀前半まで幅広い年代の遺物が出土しており、陶磁器の質は比較的良質なものがみられる。火災による二次被熱は少なく、図化したものの中では37のみである。4号溝跡からも18世紀中葉から19世紀前半の遺物がまとまって出土している。

ま と め

柳沢吉保が甲斐を拝領した際の藩政を記録した柳沢文庫所蔵の『楽只堂年録』の宝永2年（1705）甲府城絵図によると、調査区周辺は西側が近藤図書、東側が平野源左衛門の屋敷地として描かれている。同時期に描かれた柳沢文庫所蔵の『甲府城下絵図』によると、平野氏の屋敷地の下にもう1区画描かれており、3区画であったことがわかる。坂田邦夫氏所蔵の元文3年（1738）の『甲府城下町絵図』では、柳沢氏の大和郡山転封後の様子が描かれており、近藤図書の屋敷地は空白となり、平野氏の後には大河内氏、その南側に間宮氏が記載されている。同じく坂田氏所蔵の嘉永2年（1849）『懐宝甲府絵図』では、3区画から倍の6区画の屋敷地に分割されている。

本地点はちょうど近藤図書の屋敷区画と、他の2区画の境界線付近に位置すると考えられ、検出された1・2号溝は、屋敷境の区画溝であると考えられる。出土遺物からみて1号溝跡は最も新しい遺構であり、6区画に細分された段階の区画であると考えられる。2号溝跡はその前段階の3区画段階の区画と考えられるが、3区画から6区画へと分割された契機の一つに火災による区画整理があった可能性も考えられる。

また、遺構は確認されなかったが、平安期の遺物が出土し、中世に帰属する遺物群が皆無であったことは、この一帯の土地利用を探る上で一つの手掛りとなると考えられる。平安期の遺物は、文献に登場する一条荘の成立に関わる遺物であり、付近に集落の存在を予感させる。反対に中世遺物がないという事実は、一蓮寺の寺域と門前町の範囲を探る上での判断材料になるものと考える。

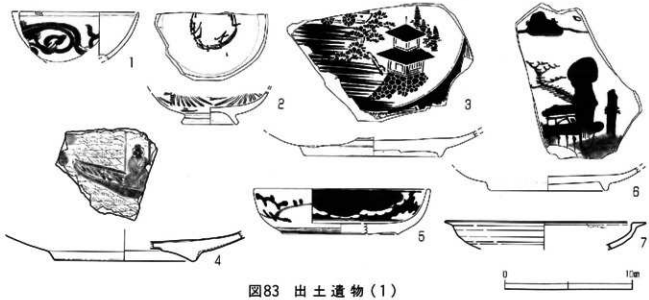


図83 出土遺物（1）

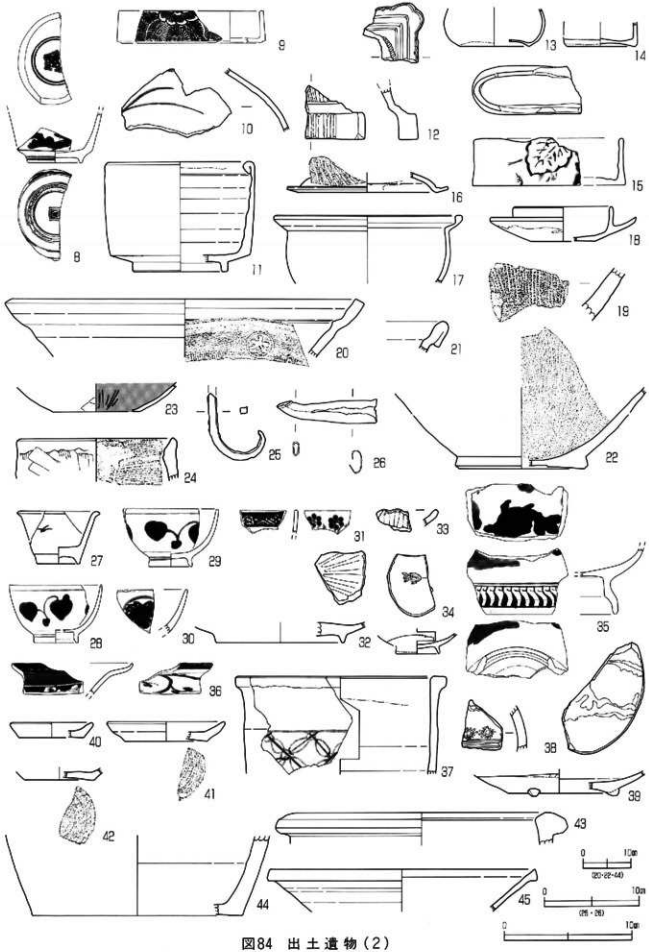


図84 出土遺物(2)

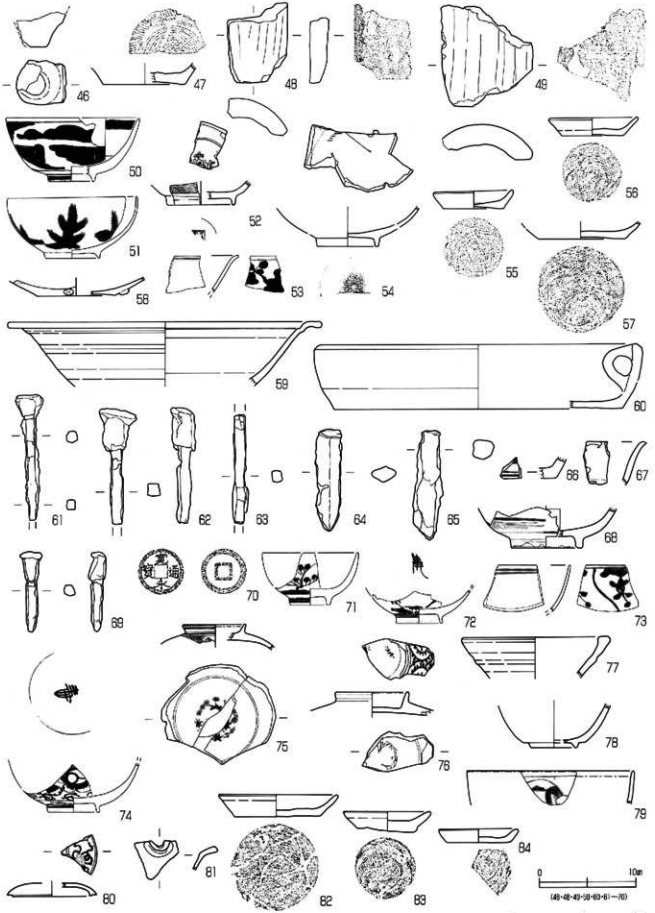
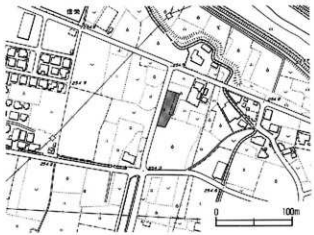

46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
0 10cm
(46・48・49・50・53・61～70)
0 10cm

図85　出土遺物（3）

33　外河原ヂクヤ遺跡



調査位置　甲府市増坪町445-5他
調査原因　店舗建設
対象面積　407.59㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成11年1月18日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

外河原ヂクヤ遺跡は濁川右岸の氾濫原上に位置し、標高は255mを測る。店舗新築に伴い2m×2mの試掘溝1箇所を設定し、人力により確認調査を実施した。全体的には砂の堆積で、－60から90cmまで部分的に撹乱を受けていた。1m掘り下げると細粒砂層となり、さらに－130cmで酸化鉄分の多い粗砂層に至る。混入も含めて、遺構・遺物等は一切確認されなかった。

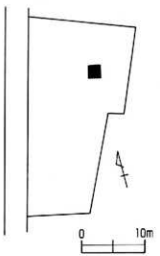
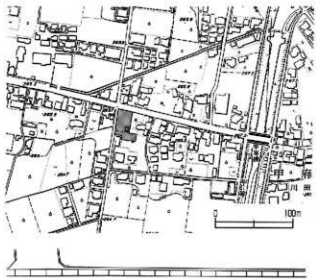


図86　試掘坑配置図

34　外中代遺跡

調査位置　甲府市川田町字正里742他
調査原因　共同住宅建設
対象面積　841.14㎡
調査面積　50㎡
調査期間　平成11年３月１日～３月８日
調査担当　佐々木　満



調査の概要

本地区は、外中代遺跡の包蔵地範囲の隣接地であったが、街道に面し、武田信虎の川田館跡から直線で約300m南に位置したことから遺跡範囲の確認と地形の把握を目的として、試掘調査を実施した。

調査区は、トレンチ２箇所とグリッド３箇所を設定して掘削した。南北に長い調査区の北側に設定したトレンチ１及びグリッド１では、２～３mまで掘削したが、すべて洪水による堆積と考えられる砂層で覆われており、安定した土壌は確認できなかった。

トレンチ２及びグリッド２・３からは、地表下１m付近で灰色がかった黒色の安定した土壌が検出された。トレンチ２からは、西側に面を有した玉石による７段の石積みを検出している。よって、石積みから西側は、地形が大きく落ち込んでいたものと考えられる。グリッド３からは、河原石を並べた石列とともに、東壁際で礎石と考えられる２石の平石を検出した。遺構はいずれも砂礫層に覆われており、遺物の多くはトレンチ２、グリッド２・３の黒色土上から出土した。年代的には江戸末期から明治期の遺物である。

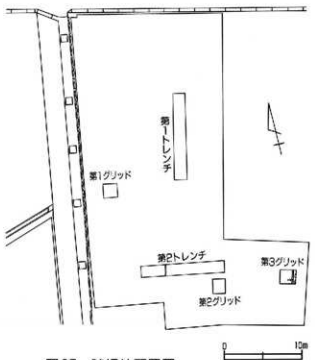


図87　試掘坑配置図

ま　と　め

検出された屋敷地は、共伴遺物の年代からみて幕末から明治期に使用されたと考えられるが、遺構検出面から現地表下までの間はすべて洪水による砂礫層であるため、遺物の最新年代で明治期になって発生した洪水によって埋没したと考えられる。明治期で最も大きな被害が発生したのは明治40年（1907）の大洪水であり、聞き取り調査でも明治40年の洪水で地形が変わったとの証言を得たことから、調査成果と齟齬はないものと考えられる。

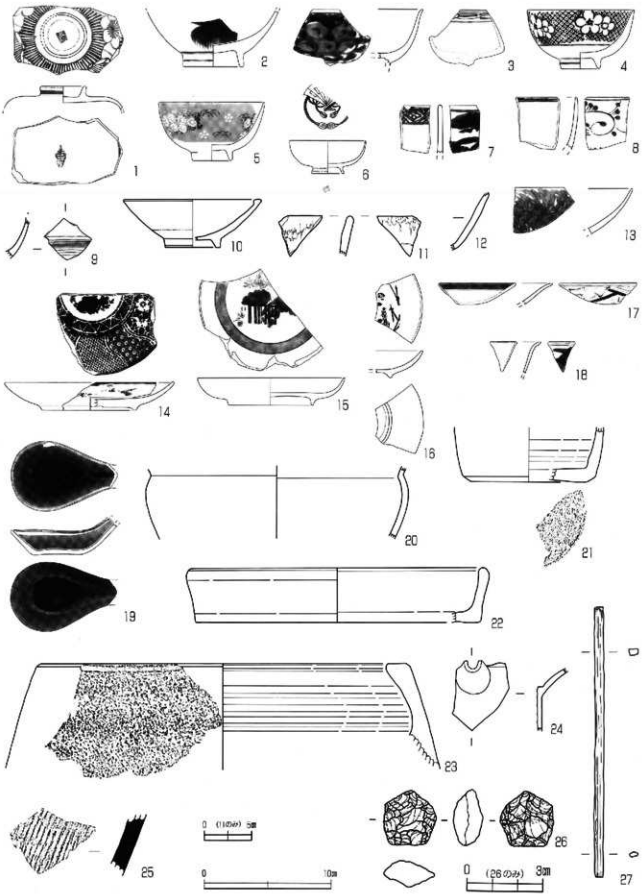

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
0 (1/2のみ) 3cm
0 10cm
0 (26のみ) 3cm

図88 出土遺物

35　土尻遺跡

調査位置　甲府市下小河原町字橋詰35-5他
調査原因　道路建設
対象面積　970㎡
調査面積　125㎡
調査期間　平成11年２月15日～２月17日
調査担当　佐々木　満

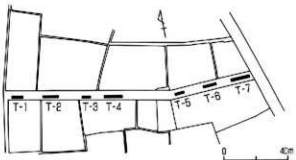


図89　試掘坑配置図

調査の概要

市道建設に伴い、予定路線沿いに７箇所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。トレンチは対象地に合わせ任意に設定し、西から東へ１～７まで番号を付した。第１～３トレンチは、遺物も数点出土したのみで、最上層の水田層以下は洪水による粗粒砂層とシルト層が確認されたのみであった。第１トレンチ西端を2.5mまで掘削したところ、粗粒砂層の堆積が確認された。

第４・５トレンチから安定した土層が確認され、土器類とともに溶けた鉄塊が多数出土したが、湧水により明確に遺構を確認できなかった。第５トレンチからピット状の落ち込みが断面で確認されたが、遺物包含層より層位的に高く、明確に遺構であるか定かではなかった。

第６・７トレンチから西側トレンチ同様に粗粒砂層が確認されたため、一部を2.5mまで掘り下げたが、特別な変化は見られなかった。この時点で調査を終了し、埋め戻しを行った。

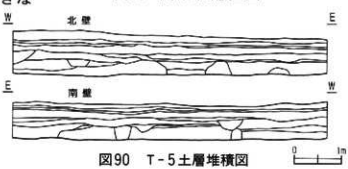


図90　T-5土層堆積図

ま　と　め

本調査の北側一帯は、「鍛冶屋敷」の字名が残り、出土した鉄滓は、鍛冶屋の存在を裏付ける物証となる。残念ながら、検出面の確認と遺物の正確な出土層位や位置を把握できなかったため正確性を欠くが、多くの鉄滓は15世紀段階の遺物と共伴することから、本地区周辺に中世の鍛冶集団が存在した可能性も考えられる。

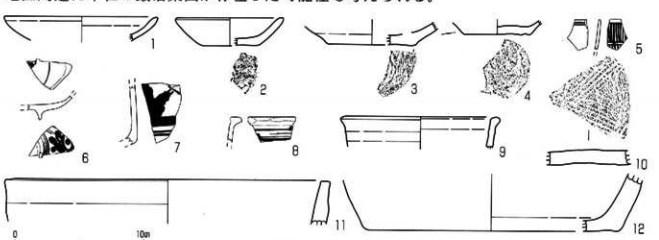


図91　出土遺物

36　中道西遺跡

調査位置　甲府市岩窪町大道西地内他
調査原因　宅地造成
対象面積　5186.11㎡
調査面積　250㎡
調査期間　平成10年11月30日～12月22日
調査担当　伊藤正幸

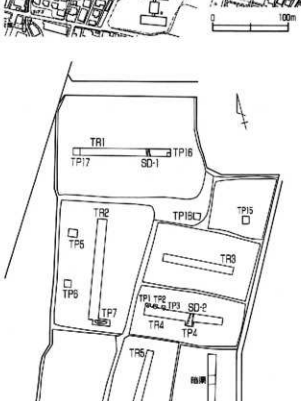


図92　試掘坑配置図

遺跡の概要

中道西遺跡は古墳時代の散布地として周知されている遺跡である。相川扇状地の東端部は愛宕山及び鰯ヶ崎に接し、円光院、大泉寺をはじめ武田信玄公火葬塚、河尻塚など、武田氏に係る史跡が多い。今回遺跡範囲を含む5186.11㎡の土地で宅地造成の計画が出されたため、計画地全体を対象に、埋蔵文化財の範囲確認を含めて試掘調査を実施した。

調査の概要

今回の調査地は標高320～324mを測る南向きの緩斜面で、水田９区画、畑１区画、雑種地１区画の計11区画である。調査は区画毎に幅２mの試掘溝（トレンチ：ＴＲ）を設定して行い、溝掘りが困難な場合及び調査の追加・拡張は２m×２mの調査グリッド（ＴＰ）によった。

試掘溝の状況

ＴＲ１　標高323.675m。東西に29mで設定。深さ80cmで地山に至る。やや東寄りから南北方向の溝跡１条を検出した。西端及び東端を地山からさらに50cmほど掘り下げたが、変化はなかった。

ＴＲ２　標高322.686m。中道西遺跡を含む水田で、南北に30mで設定。深さ40cmで地山に至る。全体的に礫が重畳しているが、南端部分に地山を掘り込む黒色土の落ち込みが確認できたため東側に幅1.5mで５m延長する。北側が不明確であるが、深さ30cmほどの土壙を確認した。

試掘溝西側にさらに２m四方の調査グリッド（ＴＰ５及びＴＰ６）を設定し地山まで掘り下げたが、一抱えほどの礫が検出された以外は遺構・遺物等は確認できなかった。

ＴＲ３　標高321.811m。長さ21mの試掘溝を東西に設定し掘り下げたが、湧水面が高く遺構・遺物の検出には至らなかった。

ＴＲ４　標高321.432m。東西に23.6mの試掘溝を設定して調査を行った。地山は礫が多く水位も高かったが、溝跡１条及び小竪穴（ピット）３基を確認した。溝跡は石組みの水路で、試掘溝を南へ拡張（ＴＰ４）したところ内部に石を充填していたため、水田に伴う暗渠の可能性が高い。

ＴＲ５　標高321.157m。南北方向へ18mの試掘溝を設定した。地山直上に黄色粗粒砂が認められたが、その面を除去すると人頭大前後の礫を多量に含む地山になる。遺構・遺物等は確認されなかった。

ＴＲ６　標高320.629m。南北に17mの試掘溝を設定し調査した。中央部に東西に幅３mの暗渠が確認できたほかは礫が重畳していた。遺構・遺物は確認できなかった。

ＴＲ７　標高320.529m。東西方向に13mの試掘溝を設定し調査した。－30cmで地山に至る。礫が重畳していて、遺構・遺物は確認できなかった。

ＴＲ８　標高319.766m。東西に長さ23mで試掘溝を設定した。深さ30cmで礫が重畳する暗黄褐色の地山に至る。水の湧出が多く、遺構遺物は確認されなかった。試掘溝の一部を拡張（ＴＰ９）すると共に、試掘溝南側に調査グリッド（ＴＰ８）を設定したが、変化はなかった。

ＴＰ11～14　ＴＲ７西側の２枚の雑種地にそれぞれ２個の調査グリッドを設定した。ＴＰ12は水位が高く調査できなかったが、ＴＰ14中から溝状遺構とそれに伴い遺物が２点検出できた。

ＴＰ15・ＴＰ18　ＴＲ３の北側の雑種地内にＴＰ15を、その西側の畑にＴＰ18をそれぞれ設定した。標高はＴＰ15の雑種地で321.950mを測る。ＴＰ15は－60cmまで、ＴＰ18は－80cmまで掘り下げたが、遺構・遺物とも検出できなかった。

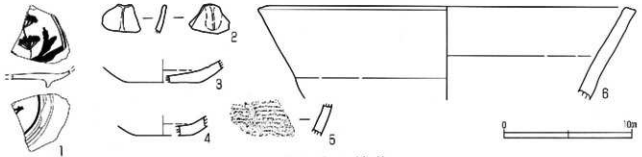
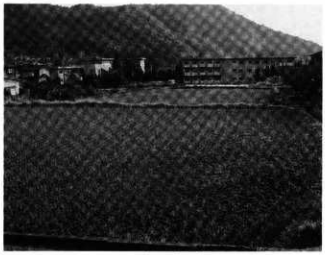


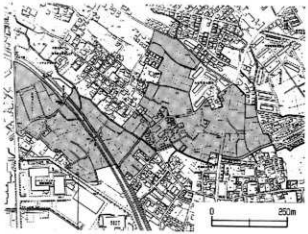
図93　出土遺物



調査地点

調査状況（TR4）

37　西耕地遺跡

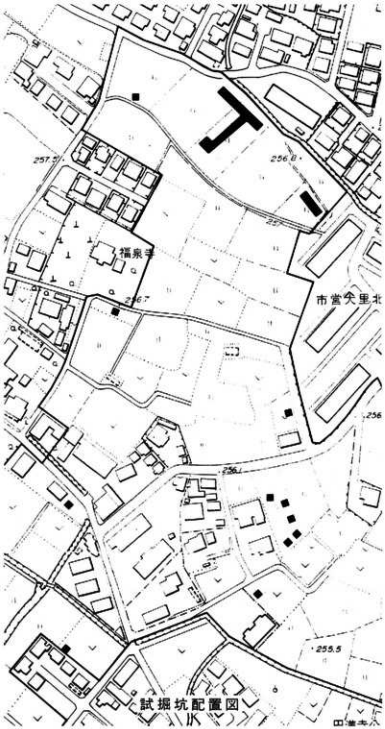


調査位置　甲府市大里町地内
調査原因　区画整理事業
対象面積　18.8ha
調査面積　152㎡
調査期間　平成10年３月１日～３月23日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

大里町区画整理事務組合により実施が計画された地区区画整理事業に伴って、事業用地内には福泉寺を中心とした大北耕地遺跡が含まれていた。大北耕地遺跡は中近世の包蔵地として周知されていたが、遺跡周辺地域にも範囲が拡がることが予想されたため、事業用地全体を対象に埋蔵文化財の確認調査を行うこととなった。調査対象面積は全体で18.8haに及ぶ。そのため事業者との協議の中で、平成10年度は大鎌田川北側を対象とし、152㎡の確認調査を土地所有者の協力を得る中で調査を実施した。

調査は２ｍ×２ｍの試掘溝（テストピット）による調査を基本とし、土地利用により広く面的な空閑地の場合には幅２ｍのトレンチ調査により実施した。平成10年度はテストピット11個、トレンチ総延長54mの調査を行った。



試掘坑配置図

テストピットの状況

ＴＰ２－１～２－５　全体的には砂を主体とする客土（コンクリート・アスファルト・礫が混入）が45cm～50cm持ち込まれていて、その下層から旧来の面になる。黒褐色土層（旧耕作土）・黄色褐色土層（旧水田床土）・暗灰褐色細粒砂層・白色細粒砂層・白色細粒砂層（拳大の礫が混入する）と続く。旧水田床土内から土師器・カ

ワラケ等が若干出土するが遺構は伴わない。白色細粒砂層上部に有機質の黒色土が入り込むテストピット（ＴＰ２－１・２－５）も確認できたが、特筆すべき状況はなかった。

ＴＰ３　耕作土(15cm)及び明褐色土(10cm)を除去すると拳大礫混じりの白色粗粒砂層に達する。この層が－100cmまで続くことを確認したが、遺構・遺物は検出しなかった。

ＴＰ４　耕作土(20cm)及び明褐色土(25cm)を除去すると白色粗粒砂層に至る。遺構・遺物は検出されなかった。

ＴＰ５　黄色山砂が－70cmまで盛り土されている。黄色粗粒砂層まで－170cmを測るが、－90cmの位置から有機質の黒色土層及び－120cmの位置から黄色褐色及び黒色土の混合土層がブロック状に認められた以外は土層に乱れた様子はなかった。

ＴＰ６　20～25cmの茶褐色土（耕作土）を除去すると、粘性・しまり共に弱い明茶褐色土層になる。さらに黒褐色土層(20cm)、暗黄褐色土層(20～30cm)となり、砂層に至る。砂層を掘り込んで褐色土を覆土とする溝状遺構が確認できた。上部の黒褐色土層は遺物包含層で、－105cmの位置から青磁片が、また－130cmの褐色土層からは土師破片が出土している。溝跡は－140cmの位置から、幅50cm深さ10cmの規模で、北壁中央から南東角まで、確認できたが、性格について把握するには至らなかった。

ＴＰ７　砂層直上(－50cm)まで撹乱されていたため埋め戻して終了した。

ＴＰ８　客土以下は土と細かい砂による自然堆積で、－60cmの黄褐色細粒砂層中に土壙が確認された。黒色土を覆土として、中世の遺物が若干確認された。

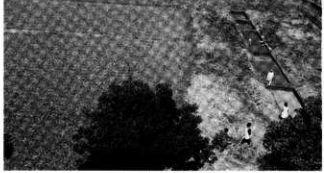
トレンチの状況

ＴＲ１中央部やや西寄りから流木が重畳している箇所が確認された。－30cmほどの位置から確認されたもので、両脇（東西方向）は緩やかな落ち込みが認められた。旧流路に伴うもので、流れによる流木かあるいは人的に投げ込まれたものかについては判断しかねるが、同様の流木群が中央やや東寄りからも検出されているので、水路の氾濫により流れ出たものと考えられる。

またＴＲ３中央部からは、－60cmの位置に、白色粗粒砂を掘り込むように溝状の落ち込みが確認できた。ＴＲ３は全体的に土師質土器や灰釉陶器の破片・木片などが検出され粗砂層を掘り込んで遺構を構築したとは考えにくく、自然の流路と思われる。

ＴＲ１東端部から竹管２本を利用した水路状の遺構が確認でき、これはＴＲ３拡張部に続いていく。Ｓ－30°－Ｅの方向で、－40cmの位置から検出されている。

ＴＲ４西半部分では、東西方向に溝跡が確認された。幅50cm深さ30cmほどで黄色細粒砂層を掘り込んで造られているが、溝内から遺物は検出されなかった。



調査状況

調査状況

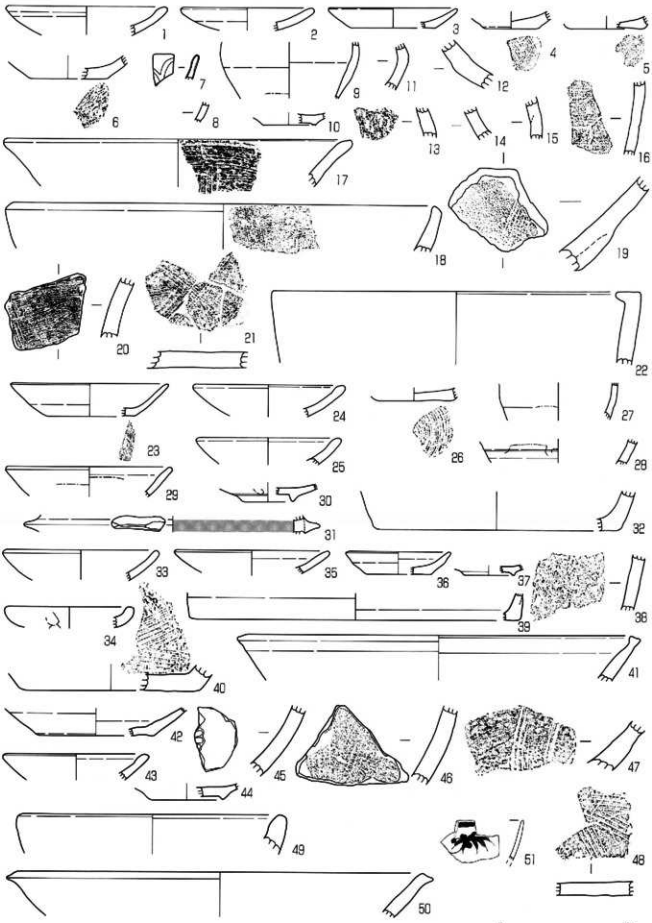

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
0
10cm

図94 出土遺物(1)

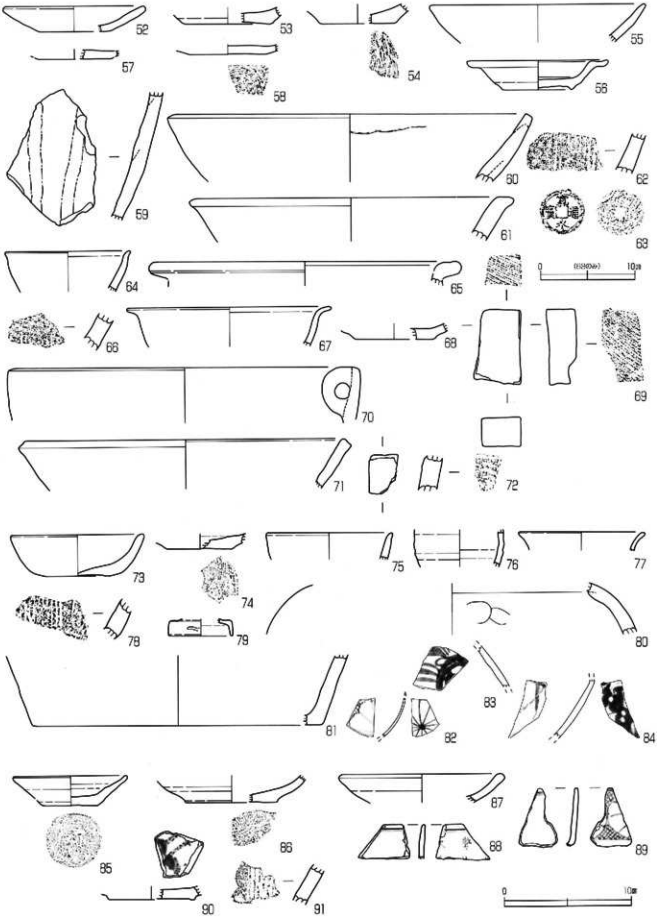
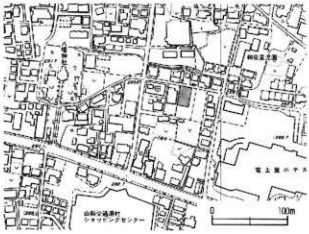

52
53
55
57
54
58
56
59
60
62
61
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
0
10cm

図95 出土遺物(2)

38　八幡東遺跡



調査位置　甲府市湯村三丁目1666-1,1686-1
調査原因　個人住宅建設
対象面積　238.27㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成11年３月４日～３月５日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

標高約291mに位置する弥生～古墳時代の遺跡である。周辺南西側には八幡神社、また北東側150mには県下２番目の規模を誇る横穴式石室を持つ、古墳時代後期６世紀後半の加牟那塚古墳など、古墳時代の遺跡が集中して存在する地域である。

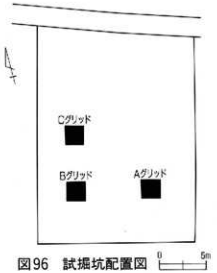


図96　試掘坑配置図

調査の概要

調査区域内に２m四方のグリッドを３ヶ所設定し、地表下約１mまで掘削を行った。遺物は出土したが遺構は未検出である。Aグリッドでは、地表下70cmに位置する第７層の明灰褐色土層内より瀬戸美濃系陶器と縄文時代中期の五領ヶ台式土器の小片が出土した。他のグリッドにおいても同一層から遺物が確認されている。Bグリッドの深さ１m地点からは荒川の沖積土と考えられる人頭大の礫が大量に確認されている。

図97　出土遺物

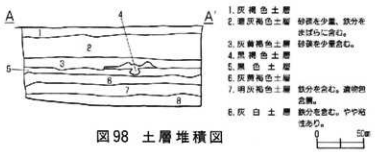
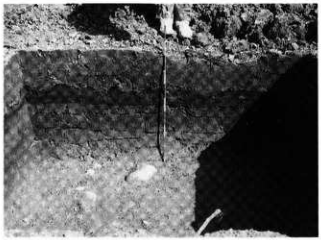


図98　土層堆積図

Bグリッド調査状況



Cグリッド調査状況

39　八幡東遺跡

調査位置　甲府市千塚三丁目2450-10
調査原因　個人住宅建設
対象面積　105.61㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成11年３月11日～３月17日
調査担当　鈴木由香

調査の概要

八幡東遺跡は甲府市北西部、金峰山に端を発する荒川扇状地上に位置し、標高約291mを測る。千塚八幡神社北側に隣接し、遺跡の北側には大型の横穴式石室を持つ県史跡加牟那塚古墳、北東に湯村山古墳群、東側に万寿森古墳が隣接する地域である。平成６・８年度に行われた遺跡北西に隣接する金塚西遺跡の調査では、縄文時代、古墳時代の土器片が数多く出土しており、周辺に集落が存在した可能性が示唆される。また、遺跡西側にかけては神田遺跡、塚本遺跡、音羽遺跡など縄文時代～平安時代の遺跡が存在する。

調査は２×２mのトレンチを２箇所設定し、土層観察を行いながら人力により掘り下げた（図99）。

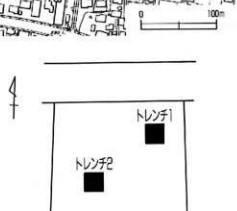


図99　試掘坑配置図

遺　　構（図100）

地表下30～40cmは撹乱を受けていたが、トレンチ１の５層目で石列を確認したためサブトレンチを入れて掘り下げた。石は加工されており、時期は明治～昭和期にかけてのものと考えられるが詳細は不明である。サブトレンチを掘り下げ、砂質の白色土層が30cm程続いたことから、これを地山とした。トレンチ２も同様の土層で止め、調査を終了した。

遺　　物（図101）

縄文時代中期後半、古墳～平安時代の破片が約55点出土し、７点を図示した。１は瀬戸系陶器の破片であるが、小片のため詳細は不明である。２・３はかわらけの底部で、糸切り後にナデ成形を行っているのかロクロによる回転糸切り痕は見られない。４は古墳時代と思われる破片であるが、小片のため器形は不明である。５は甕口縁部で、内面に横方向のハケが見られる。６は甕胴部の破片で、外面には縦方向のハケが見られる。５・６とも古墳時代に位置付けられる。７は縄文時代中期後半に位置付けられる深鉢胴部破片である。

ま と め

本地域におけるこれまでの遺跡分布調査[1]や試掘調査によって、縄文時代～平安時代の遺跡が存在することが示唆されており、何らかの遺構が検出されると予想されたが、確認には至らなかった。八幡東遺跡が位置する千塚地内は、『甲斐国志』に「城内ニ古塚多シ

因テ村名ヲ得ルト伝」や「無名ノ古塚多シ破壊シテ今分明ナラス蓋シ村名」との記述が見られ、塚が多い地域に由来していることが分かる。現在では消滅してしまった古墳も多いが、本遺跡から北東に位置する榎田遺跡では弥生時代後期、古墳時代前期・後期の住居跡や古墳時代前期の方形周溝墓が確認されており、この集団が周辺の古墳造営にかかわっていたと考えられている(2)。こうした事実や周辺の遺跡分布状況からも、今後の調査で八幡東遺跡周辺における集落の存在が明らかになる可能性が考えられ、期待されるところである。

註

(1)『甲府市遺跡地図』甲府市教育委員会　1992

(2)『榎田遺跡』山梨県教育委員会　山梨県住宅供給公社　1995

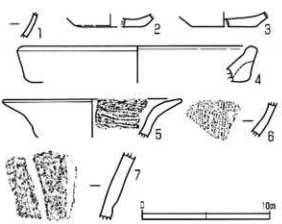


図101　出土遺物

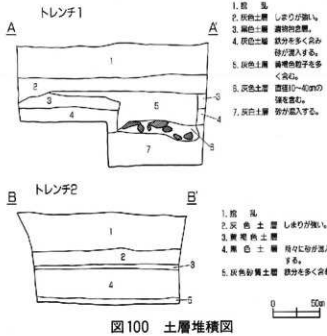
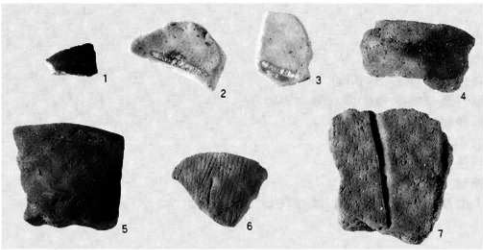
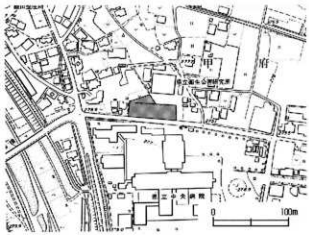


図100　土層堆積図



出　土　遺　物

40　富士見遺跡



調査位置　甲府市富士見一丁目1653-8他
調査原因　共同住宅建設
対象面積　1512.05㎡
調査面積　60㎡
調査期間　平成11年２月９日～２月26日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

富士見遺跡は荒川左岸の沖積地上に位置する古墳時代及び平安時代の遺跡として周知されている。荒川左岸は全体的には平坦地であるが詳細に観察すると部分的な微高地が確認でき、千塚地区から飯田地区にかけてこの微高地上に点々と、縄文時代からの遺跡が展開していることが遺跡地図から確認できる。

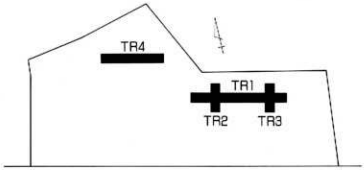


図102　試掘坑置配図

調査の概要

今回の調査地は富士見遺跡の中央部に位置し標高は277mを測る。敷地中央部に80cmほどの段差があり北側が高くなるほか、西から東に向かい若干傾斜した土地である。

調査は下段に３本（ＴＲ１～３）、上段に１本（ＴＲ４）の試掘溝を設定、重機にて砂層まで除去した後、下段の試掘溝内に調査グリッドを設定してその内部を掘り下げた。

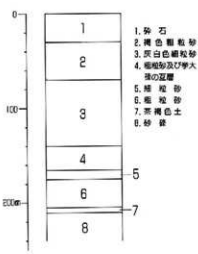


図103　土層柱状図

層　序

Ⅰ層　砕石層（30cm）
Ⅱ層　褐色粗砂層（40cm）
Ⅲ層　灰白色細粒砂層（70cm）
Ⅳ層　粗粒砂及び拳大の礫の互層（30cm）
Ⅴ層　細粒砂層（10cm）
Ⅵ層　粗粒砂層（25cm）
Ⅶ層　茶褐色土層（５cm）
Ⅷ層　砂礫層

このうちⅠ層及びⅡ層は下段には存在しなかった。

調査成果

下段の試掘溝ＴＲ１～３については、黄色及び白色の粗粒砂のみの堆積で、遺物は出土しなかった。一方上段の試掘溝ＴＲ４からは、畝状の遺構が確認されている。粗粒砂の上に茶褐色土層が乗るように、幅30cm、高さ10～15cmほどの畝が４条確認できた。なお遺物は出土しなかった。

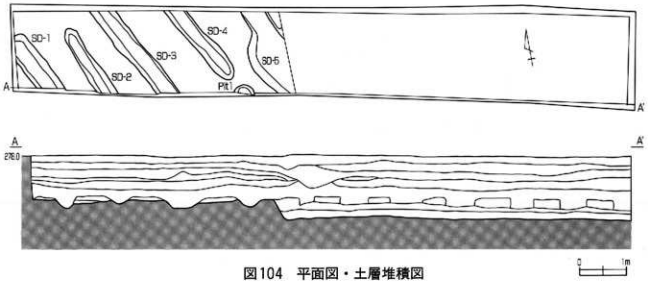
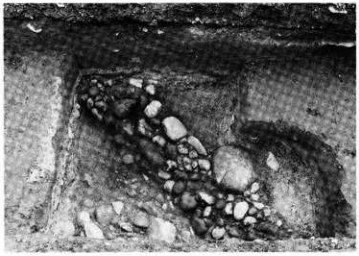
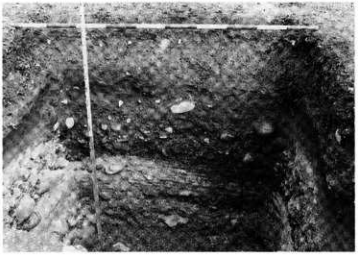


図104　平面図・土層堆積図

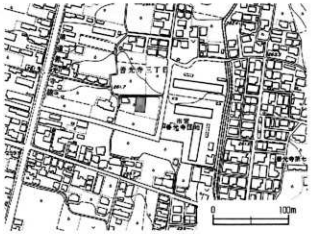


TR1 暗渠検出状況



TR3 調査状況

41　本郷遺跡



調査位置　甲府市善光寺三丁目1931
調査原因　個人住宅建設
対象面積　225.28㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年10月12日～10月13日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

本郷遺跡は高倉川扇状地の扇端部、標高261m前後の場所に立地する縄文時代及び古墳時代から中世に至る遺跡である。本調査地は本郷遺跡中央のやや西寄り、標高261mの場所に位置する。周辺部は善光寺団地をはじめとして宅地化が進行している地域であるが、本調査地の現状は畑地であった。

調査の概要

調査は試掘溝（2m×2m）1ヵ所を設定し人力により掘り下げた。－40cm程でやや粘性のある黒色土層（Ⅱ層）となり、さらに－70cm～－75cmで粘性の乏しい黒色土層（Ⅲ層）に達するが、この面が滞水層である。その後－100cmまで掘り下げたが、Ⅲ層が続いている。

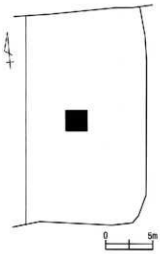


図105　試掘坑配置図

ま　と　め

遺構は検出されなかったが、耕作土直下からⅢ層まで、親指の腹程度の縄文土器（中期末）及び土師器の小破片が出土した。

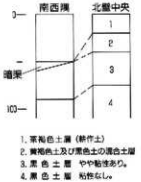
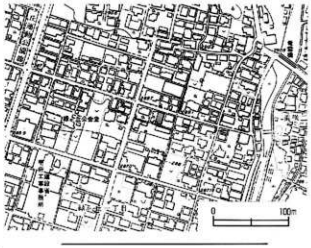


図106　土層柱状図

図107　出土遺物

42　緑ヶ丘一丁目遺跡



調査位置　甲府市緑が丘一丁目101-3
調査原因　個人住宅建設
対象面積　165.64㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年5月16日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

相川右岸に位置する。2×2mの試掘調査グリッドを設定し調査を行った。調査の結果、地表から40cm下層まで造成により盛土が施され、それより下層は自然堆積層であった。地表から90cm下層まで掘り下げ調査をしたが、遺構遺物ともに検出できなかった。

ま と め

緑ヶ丘一丁目遺跡は最近の調査により、古墳時代の拠点的な集落を形成していたことがわかりつつあり、今回の調査地点の北北西60mの付近の調査では竪穴住居跡や溝とともに古墳時代の土器が大量に出土している。

今回の調査地点は近代の造成のためか、自然堆積層まで造成が及んだものと考えられる。今後周辺の調査事例を重ねることにより、遺跡全体の性格・規模等が解明されることが望まれる。

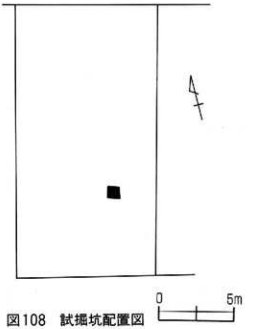
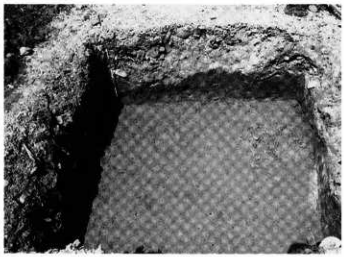


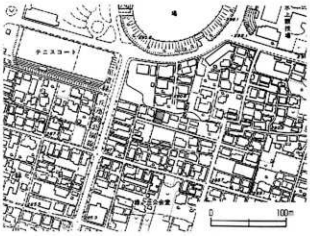
図108　試掘坑配置図

調　査　風　景



調　査　状　況

43　緑ヶ丘一丁目遺跡



調査位置　甲府市緑が丘二丁目138-7
調査原因　個人住宅建設
対象面積　280.84㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成10年９月25日～９月28日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

今回の調査地点は緑が丘一丁目の北方、標高290m程の住宅街に位置する。現状は砕石が敷かれた駐車場として利用されていたが、住宅建設に伴い試掘確認調査を実施した。

調査は２m×２mの試掘溝を敷地北側中央に１ヵ所設定し、砕石の除去を含めて人力で行った。砕石（10cm）を除去すると古い木材・コンクリート瓦礫等が上部に混入した粗粒砂層に至る。この粗粒砂層は－60cmから湧水が認められるが、さらに１m堆積していることが確認された。

遺構は確認できず、遺物として粗砂層上部の撹乱内から縄文土器の小破片１点が確認されるにとどまった。

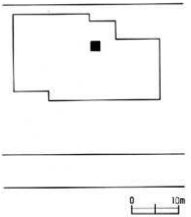
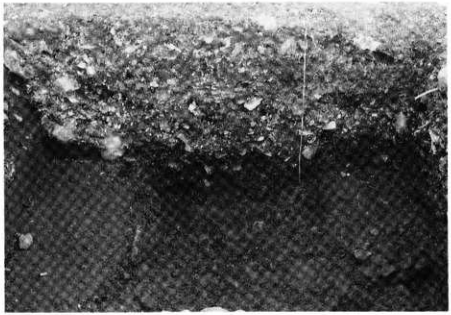


図109　試掘坑配置図



調　査　状　況

44　緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置　甲府市緑が丘二丁目1151-4
調査原因　個人住宅建設
対象面積　162.84㎡
調査面積　10㎡
調査期間　平成11年１月29日～２月３日
調査担当者　平塚洋一

調査の概要

調査は工事予定地の中央部に２×２ｍの試掘坑を設定して行った。また、土層の堆積状況を確認するため、南側に重機のバケット幅で深掘りをした。

地表から約20㎝下層の暗褐色の地層から連続してピットが３基検出でき、深掘り部分の断面にピットがもう１つ確認できた。そのため、南側に約２ｍ調査区を拡張した。

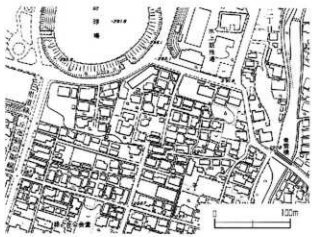
便宜的に南からピット１・２・３・４と番号を付した。ピットは略円形を呈し、うちピット２とピット３は重複関係にある。

遺　　物

ピット１から古墳時代の甕が出土している。また、有段口縁広口壺の口縁部、高坏の脚が出土していることから、古墳時代前期のものと判断できる

ま と め

緑が丘一丁目と二丁目で遺跡が分けられてはいるが、広範囲にわたって集落を営んでいた可能性もあり、周辺の調査例が増加することが期待される遺跡である。



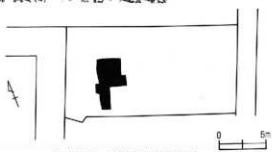


図110　試掘坑配置図

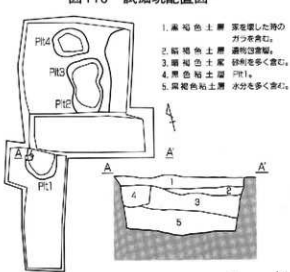
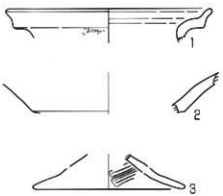


図111　平面図・土層堆積図



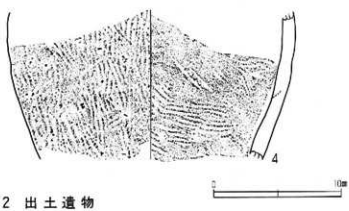
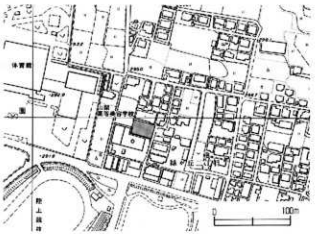


図112　出土遺物

45　緑ヶ丘二丁目遺跡



調査位置　甲府市緑が丘二丁目13-36
調査原因　会館増築
対象面積　193.5㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年10月19日～10月28日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

甲府市緑が丘スポーツ公園船出広場の北に位置し、標高293mを測る。調査地北側に古墳が存在していたことが知られているが、現在はその痕跡も消滅している。

調査は２m×２mの試掘溝を東西に２ヶ所設定し人力により掘り下げて、埋蔵文化財の有無を確認した。

西側の試掘溝は礫混じりの黄褐色及び黒色土を客土として、明黄褐色粘土層（旧水田床土）上110cmほど黒色粘土層（25cm）・黄色粗粒砂層と続く。黒色粘土層直上が湧水面となり、激しく水が湧き出した。

一方東側試掘溝では－100cmで床土を掘り抜くと青黒色粘土層・黄色細砂層・黄色粗粒砂層と続き、－150cm以下で黒色粘土層になる。両試掘溝とも遺物・遺構は検出されなかった。

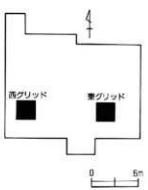


図113　試掘坑配置図

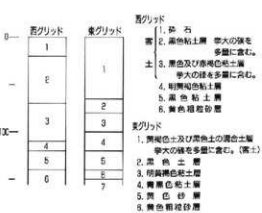
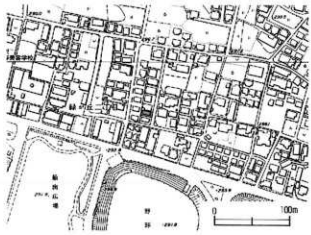


図114　土層柱状図

46　緑ヶ丘二丁目遺跡



調査位置　甲府市緑が丘二丁目833-4
調査原因　個人住宅建設
対象面積　146.63㎡
調査面積　40㎡
調査期間　平成10年11月13日～11月24日
調査担当者　平塚洋一

調査の概要

調査地点は、相川の右岸に位置する。周辺の調査事例から、出土遺物は多いものの遺構の検出は困難な遺跡であることが予想された。

当初、２×２ｍの試掘調査グリッドを設定し、地表から約30cm掘り下げて土層及び遺構の確認を行った。その結果、黒色粘土層から古墳時代の土器とともに溝跡が検出できた。そのため、試掘調査の範囲内で拡張し調査を継続した。

地表から約１ｍまで掘り下げたが、土層の変化もないまま土器は大量に出土していることから、複数の遺構が重複している可能性もある。

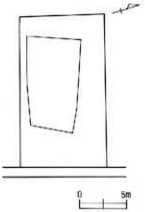


図115　試掘坑配置図

溝　　跡

南北方向で幅約40cmの溝跡がほぼ並行して６条、ピットが１基検出できた。確認できた順に、東からSD６・１・２・３・４・５とした。SD２とSD３は重複関係にあり、SD３がSD２に先行する。しかし、溝の規模・形状から大きな時間差は感じられない。

遺　　物

古墳時代前期から平安時代の土器が出土しているが、古墳時代後期のものが多い。９・13は古墳時代前期の壺・甕であ

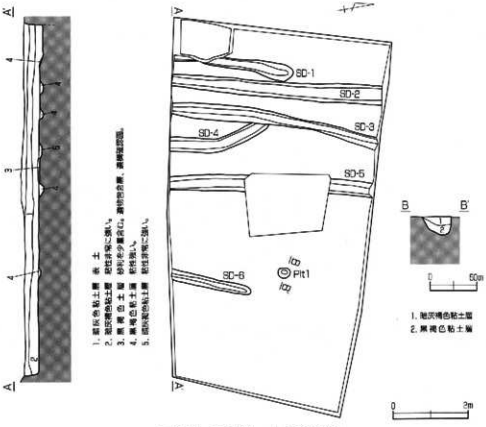


図116　平面図・土層堆積図

る。１は器台、２・３・４は高坏であり、坏部の下半部に稜を持つ。７は平安時代の坏の口縁部である。12は須恵器の甕と思われる。５は内外面ともに施釉された緑釉陶器皿、６も内外面ともに施釉された灰釉陶器皿である。

ま と め

緑ヶ丘二丁目遺跡は過去、何回か試掘調査のメスは入れられているが、その都度出土遺物は確認されるものの遺構まで調査された例が少ない遺跡である。今回の調査により南北方向の溝跡が複数確認されたことは成果であるが、その性格や用途などはいまだに不明である。今後の調査事例の増加を待って、遺跡の広がりや性格などの解明が望まれる。

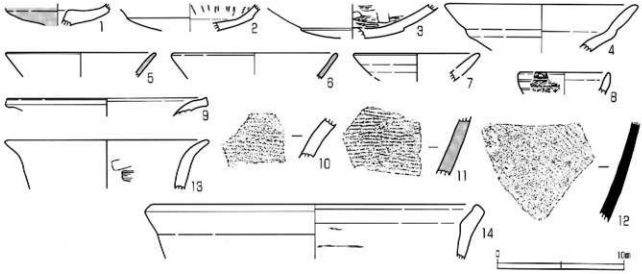
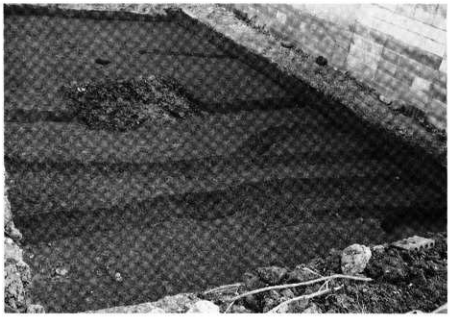
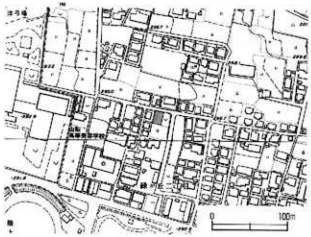


図117 出土遺物



調査状況

47　緑ヶ丘二丁目遺跡



調査位置　甲府市緑が丘二丁目2387-10
調査原因　個人住宅建設
対象面積　184.89㎡
調査面積　6.25㎡
調査期間　平成11年３月１日～３月２日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

当遺跡は縄文～平安時代にかけての散布地である。調査区は遺跡範囲北西側標高約296m地点に位置し、現状周辺は住宅地である。調査区東側に近接して和田無名墳が存在していたが、現在は開発により痕跡はない。調査区西側には南流する水路があり、その水路へむかい緩やかに傾斜する。

調査の概要

調査区域内北側に1.5m四方のAグリッド、南側に２m四方のBグリッドを設定し、人力で掘削を行った。両グリッドとも地表下80cmまでは近代の盛土層である。遺構は確認されてはいないが、両グリッドから遺物が出土している。１は古墳時代の坏底部であり、Bグリッドの地表下1.5mに位置する第７・８層内から出土した。Aグリッドからは土瓶口縁部が出土している。

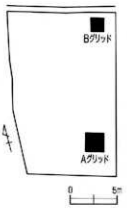


図118　試掘坑配置図

調　査　状　況

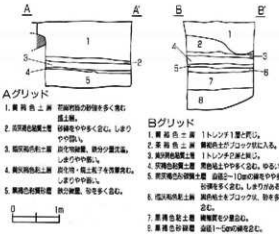


図119　土層堆積図

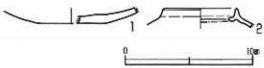
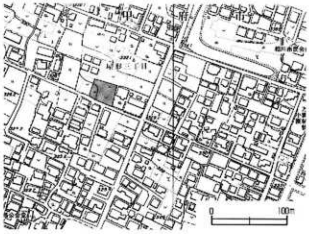


図120　出土遺物

48　峰本Ｂ遺跡



調査位置　甲府市屋形三丁目1600-1他
調査原因　個人住宅建設
対象面積　765.95㎡
調査面積　30㎡
調査期間　平成11年１月25日～１月29日
調査担当　伊藤正幸

遺跡の概要

峰本Ｂ遺跡は相川扇状地の中央部分に位置し、史跡武田氏館跡の南西、標高330m～340mに立地する。現在では武田城下町遺跡の範囲に含まれているが、昭和60年度の遺跡分布調査当時は、近世の遺物が採集されたため近世の遺跡として台帳に記載された。現状は荒地で、敷地中央を東西に、比高差0.5mほどの段差が認められる。

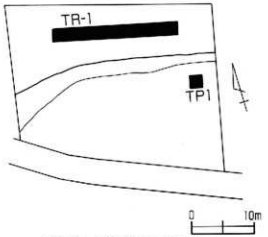
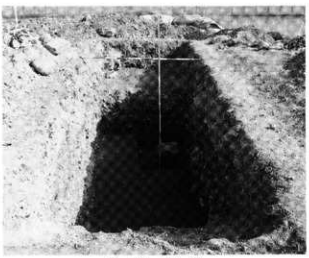


図121　試掘坑配置図

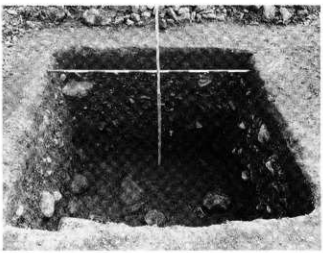
調査の概要

調査は敷地北側（段上）に、幅２m、長さ20mの試掘溝を設定し、重機により表面を除去した後人力で精査を行う予定であったが、表土部分は客土で、瓦礫・コンクリート塊が多量に埋まっていたため、東側５m部分だけが調査可能となり、やむを得ず南側（段下）にも東寄りに２m×２mの試掘溝を設定し、人力で掘り下げた。

双方とも瓦礫及び客土を除去すると赤褐色の面になり、この面が旧水田の床土にあたるものと解される。赤褐色土を除去すると黄褐色土になり、人頭大前後の礫が多量に混入している。－1.5mほど掘り下げると湧水面に至るが、礫混じりの黄褐色土はさらに続いていた。調査により遺構・遺物等は一切検出されなかった。

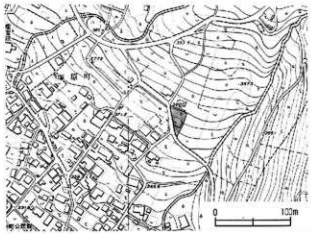


調　査　状　況



調　査　状　況

49　山路遺跡



調査位置　甲府市塚原町850-1他
調査原因　個人住宅建設
対象面積　499.95㎡
調査面積　8㎡
調査期間　平成10年９月28日～９月30日
調査担当　志村憲一

遺跡の概要

当遺跡は塚原地区に位置する鐘堂山の南麓斜面、恵運院の東側一帯に広がる平安時代の散布地である。調査区は、遺跡範囲の南西側、標高約280m地点に位置する傾斜地である。過去当遺跡における調査事例はなく、遺構等の確認はなされていない。

調査の概要

調査区域内南側に２m四方のグリッドを２ヶ所設定し掘削を行った。両グリッドとも60～70㎝で地山層となる。表土の第１層は黒褐色土の耕作層である。第２層は、砂礫を多く含む暗褐色土層である。地山層は砂礫質土となり湧水が多い。遺物は土器２点と陶器１点が出土したが、小片のため時期・産地などは不明である。

図123　出土遺物

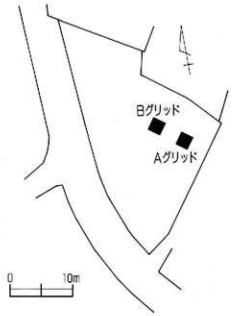


図122　グリッド配置図

グリッドA

グリッドB

50　横根セレモニーホール遺跡

調査位置　甲府市横根町字大畑705他
調査原因　建物建設
対象面積　9677.63㎡
調査面積　560.25㎡
調査期間　平成10年５月27日～６月４日
調査担当　伊藤正彦

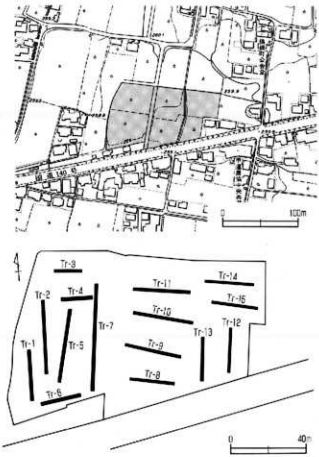


図124　試掘坑配置図

遺跡の概要

本遺跡は盆地北縁に位置し、背後に八人山・大蔵経寺山が連なる。八人山・大蔵経寺山間は、大山沢川による小扇状地が形成され、八人山の南麓、大山沢川右岸の扇端部に遺跡は立地する。調査地点は、標高約260mを測り、青梅街道（国道140号）に隣接する。近年開発が進み宅地・店舗が街道沿いに密集している。現況は畑地であった。

調査の概要

対象地に幅1.3m、深さ１mの試掘坑を任意に15本、延べ長さ430mにわたり設定し、重機・人力で掘り下げ遺構・遺物を確認した。各試掘坑とも、一部２～2.5mまで深堀りを行い、土層堆積を確認した。対象地全体にわたり土層に大きな変化はなく、粘質土あるいは砂質土の堆積が見られた。地表下1.8mから始良Ｔｎテフラを確認している。黒色粘質土に挟まれ均一な層厚で、ほぼ５cm程度の水平堆積であった。これまでも周辺地域で確認されており、沼や池といったある程度滞水した湿地に降灰し、降灰以前と以後も変わらず湿地の状態であったと分析・報告されている(1)。調査に際し、全ての試掘坑から遺構・遺物ともに確認できなかった。

註
(1) a 河西学「第Ⅵ章第１節　大坪遺跡のテフラ分析」『大坪遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
甲府市遺跡調査会他　1996
b 河西学「第10章第１節　大坪遺跡のテフラ」『大坪遺跡－平成12年度調査地点の報告－』
大坪遺跡発掘調査会他　2002

出土遺物観察表 (1)

（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量 (cm) 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
4	1	朝気遺跡	トレンチ2	土師器 高杯				脚部	内外面ナデ、外面赤彩	やや密	
5	1	朝気遺跡	北東グリッド	陶器 天目椀				体部		密	
5	2	朝気遺跡	北東グリッド	土師 かわらけ	(5.8)	1.3	(3.0)	口縁～底部	ロクロ成形	やや密、長石、金雲母	
5	3	朝気遺跡	北東グリッド	土師 かわらけ	(9.7)	1.9	(4.7)	口縁～底部	ロクロ成形	やや密、長石	
5	4	朝気遺跡	北東グリッド	土師 かわらけ	(9.8)			口縁～底部	ロクロ成形	やや密	
8	1	大坪遺跡	ＴＰ－２	土師器 坏			(6.0)	底部	ロクロ成形、内外面ナデ	やや密、長石	
8	2	大坪遺跡	ＴＰ－２	土師器 坏			(5.3)	底部	ロクロ成形、内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
8	3	大坪遺跡	ＴＰ－２	土師器 坏			(5.0)	体部～底部	ロクロ成形、内外面ナデ、外面ケズリ	やや密、長石	
11	1	落合氏館跡	Ａグリッド	縄文土器 深鉢				胴部		やや密、石英	
11	2	落合氏館跡	Ａグリッド	縄文土器 深鉢				胴部		やや粗、長石、石英	
										石英、金雲母	
11	3	落合氏館跡	Ｂグリッド	石器(加工痕がある剥片)	長2.44/幅1.48/厚0.68/重2.4g				黒曜石		
11	4	落合氏館跡	Ｂグリッド	土師器 甕	(17.0)			口縁部	内外面ヘラナデ	やや密、長石	
										石英、金雲母	
11	5	落合氏館跡	Ａグリッド	土師器 甕	(11.9)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石	
										石英、金雲母	
11	6	落合氏館跡	Ｂグリッド	土師器 甕			(3.6)	底部	外面ナデ、内面ナデ・指頭痕	やや密、長石	
										石英、金雲母	
11	7	落合氏館跡	Ｂグリッド	土師器 甕			4.3	底部	外面指頭痕・ナデ、内面ナデ	やや密、長石	
										石英、金雲母	
11	8	落合氏館跡	Ｂグリッド	土師器 甕			(2.8)	底部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
11	9	落合氏館跡	Ａグリッド	土師 かわらけ			(6.0)	底部	ロクロ成形	やや密、長石、金雲母	
14	1	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	小突起2ヶ、五類ヶ台Ⅱ式	やや粗、長石	
										石英、金雲母	
14	2	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	隆帯貼付、単節RL、曽利Ⅰ～Ⅱ式	やや粗、長石、石英	
14	3	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				把手	X字状把手、曽利式	やや粗、長石、石英	
										金雲母、赤色粒子	
14	4	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	地文条縄、隆帯区画、曽利Ⅲ式	やや粗	
14	5	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	条線、蛇行沈線、曽利Ⅲ式	やや粗、長石	
										石英、金雲母	
14	6	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	条線、曽利Ⅲ～Ⅳ式	やや粗、長石	
										石英、赤色粒子	
14	7	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	八の字文、曽利Ⅴ式	やや粗、長石、黒曜母	
14	8	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	綾杉文、地文縄文、曽利式	やや粗、長石、石英	
										黒曜母、赤色粒子	
14	9	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部		やや粗、長石、石英	
										金雲母、赤色粒子	
14	10	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	単節LR、中期末	やや粗、長石	
										石英、赤色粒子	
14	11	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	中期末～後期	やや粗、長石、石英	
										金雲母、赤色粒子	
14	12	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	単節LR、曽利式	やや粗、長石	
										石英、金雲母	
14	13	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				把手		やや粗、金雲母	
										石英、赤色粒子	
14	14	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	磨消し縄文、称名寺式	やや粗、長石	
										赤色粒子	
14	15	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	磨消し縄文、称名寺式	やや粗、長石	
										石英、赤色粒子	
14	16	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	磨消し縄文、称名寺式	やや粗、長石	
										石英、赤色粒子	
14	17	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	刺突文、称名寺～堀之内１式	やや密	
14	18	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	堀之内１式	やや粗	
14	19	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	磨消し縄文、赤彩、堀之内１式	やや粗、石英	
14	20	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				胴部	蛇行沈線、ミガキ、堀之内式	やや粗、長石、石英	
14	21	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	口縁部沈線、後期	やや粗、長石	
										石英、金雲母	
14	22	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢				口縁部	隆帯貼付、刺突文、堀之内Ⅱ式	やや粗、長石、石英	
14	23	吉沢Ａ遺跡	表採	縄文土器 深鉢			(9.0)	底部	ナデ	やや粗、長石、石英	
14	24	吉沢Ａ遺跡	表採	土器 かわらけ			(7.4)	底部	底部回転糸切り痕	やや粗、長石、石英	
14	25	吉沢Ａ遺跡	表採	石器 打製石斧	長13.4/幅6.3/厚2.6/重183.4g				粘板岩（ホルンフェルス化）		
16	1	甲府城跡	Ｇ－３	磁器 碗			4.2	体部～底部	染付、菊唐草、見込「寿」	密	
16	2	甲府城跡	Ｇ－３	磁器 碗				体部	染付	密	
16	3	甲府城跡	Ｇ－３	陶器 灰釉皿	(14.8)			口縁～体部		やや密	
16	4	甲府城跡	Ｇ－３	陶器 灰釉碗				口縁部		やや密	
16	5	甲府城跡	Ｇ－３	陶器 蜜水入れ				体部～底部	瀬戸美濃系、鉄釉	やや密	
17	6	甲府城跡	Ｇ－３	瓦 軒丸瓦	残径12.6/文様区径9.0				巴(左巻)・連珠		
17	7	甲府城跡	Ｇ－３	瓦 軒丸瓦	残径10.6				巴(左巻)・連珠		
17	8	甲府城跡	Ｇ－３	瓦 軒丸瓦	残径6.6				巴(左巻)・連珠		
17	9	甲府城跡	Ｇ－３	瓦 軒丸瓦	残径6.0				巴(左巻)・連珠		
17	10	甲府城跡	Ｇ－３	瓦 丸瓦	残長12.0/残幅6.2/残厚5.8				外面ヘラナデ、内面布目痕		

出土遺物観察表（2）

（　）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量(cm) 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
17	11	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長7.0/残幅5.9/残高5.9	外面ヘラナデ、内面布目痕	
17	12	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長14.5/残幅11.3/残高6.4	外面ヘラナデ、内面布目痕	
17	13	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長6.5/残幅8.7/残高6.0	外面ヘラナデ、内面布目痕	
17	14	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長9.2/残幅8.3/残高7.0	外面ヘラナデ、内面布目痕、穿孔あり	
17	15	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長11.6/残幅7.9/残高6.6	外面ヘラナデ、内面布目痕	
17	16	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長8.6/残幅7.7/残高5.6	外面ヘラナデ、内面布目痕	
17	17	甲府城跡	G－3	瓦 丸瓦					残長6.4/残幅7.6/残高6.0	外面ヘラナデ、内面指頭痕	
17	18	甲府城跡	G－3	石製品					長15.4/幅14.7/厚7.4/重2.6kg	加工痕あり、安山岩	
20	1	甲府城跡	試掘坑・祇	瓦 丸瓦					残長6.1/残幅4.7/残高4.5	外面ヘラナデ、内面布目痕	
22	1	甲府城跡	西トレンチ	磁器 碗				口縁部		肥前系染付	緻密
22	2	甲府城跡	東トレンチ	磁器 碗				口縁～体部		染付、蝋書草文	緻密
22	3	甲府城跡	東トレンチ	磁器 碗			3.6	体部～底部		内外面灰釉、体部下半無釉	密
22	4	甲府城跡	東トレンチ	磁器 皿	(23.9)			口縁～体部		染付	緻密
22	5	甲府城跡	東トレンチ	磁器 皿			4.3	底部		肥前系染付、見込五弁花、高台内二重角線巻	緻密
22	6	甲府城跡	東トレンチ	陶器 志野丸皿	(11.5)	2.7	6.5	口縁～底部		黒戸美濃系、底部トチン痕	密
22	7	甲府城跡	東トレンチ	磁器 向付	(10.8)			口縁～体部		肥前系染付	緻密
22	8	甲府城跡	中央トレンチ	磁器 香炉	(10.4)	7.3	(6.4)	口縁～底部		染付	緻密
22	9	甲府城跡	中央トレンチ	磁器 油壺				体部		肥前系染付	緻密
22	10	甲府城跡	東トレンチ	陶器 壺	(11.2)			口縁部		内外面鉄釉	やや粗
22	11	甲府城跡	東トレンチ	磁器 壺				体部			密
22	12	甲府城跡	中央トレンチ	陶器 擂鉢				体部			やや粗
22	13	甲府城跡	東トレンチ	陶器 擂鉢				体部		内外面鉄釉	やや粗
22	14	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦？	残高7.9/残幅5.7					違い鷹の羽	
22	16	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径13.7/文様区径10.4					三巴(左巻)・連珠	
22	16	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径11.0/文様区径5.6					巴(左巻)・連珠	
22	17	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径12.6/文様区径9.8					巴(左巻)・連珠	
22	18	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径7.5/文様区径5.8					巴(左巻)・連珠	
22	19	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径8.4/文様区径5.9					巴(左巻)・連珠	
22	20	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径8.2/文様区径4.8					巴(左巻)・連珠	
22	21	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径7.4/文様区径5.5					巴(左巻)・連珠	
22	22	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径6.7/文様区径4.5					巴(左巻)・連珠	
22	23	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径13.0/長11.2/幅13.2/文様区径10.2					巴(左巻)・連珠	
22	24	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径10.3/文様区径8.9					巴(左巻)・連珠	
22	25	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径11.0/文様区径9.3					巴(左巻)・連珠	
22	26	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径9.4/文様区径7.0					二巴(左巻)・連珠	
22	27	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径12.0/文様区径8.9					巴(左巻)・連珠	
22	28	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径8.0/文様区径6.0					巴(左巻)・連珠	
22	29	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径5.0/文様区径2.7					巴(左巻)・連珠	
22	30	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径4.6/文様区径2.8					巴(左巻)・連珠	
23	31	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長19.7/残幅8.7/残高5.8/玉縁長2.6					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	32	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	長25.9/幅12.7/高6.2/玉縁長2.6					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	33	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長15.8/残幅8.7/残高7.0/玉縁長3.5					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	34	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長10.6/残幅14.3/残高6.0/玉縁長2.8					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	35	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長11.0/残幅11.5/残高7.0/玉縁長2.0					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	36	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長13.8/残幅13.1/残高5.3/玉縁長2.7					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	37	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長10.2/残幅9.0/残高6.5/玉縁長2.5					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	38	甲府城跡	試掘坑・祇	瓦 丸瓦	残長11.2/残幅10.2/残高6.6/玉縁長2.6					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	39	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長8.7/残幅11.4/残高7.2/玉縁長3.0					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	40	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長7.5/残幅8.5					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	41	甲府城跡	試掘坑・祇	瓦 丸瓦	残長11.2/残幅9.4/残高6.5					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	42	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長8.2/残幅8.3/残高5.3					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	43	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長7.4/残幅8.4/残高5.6					外面ヘラナデ、内面布目痕、「○」の刻印あり	
23	44	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長13.0/残幅9.5					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	45	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長16.8/残幅11.8/残高6.2					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	46	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長14.8/残幅13.0/残高4.9					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	47	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長16.0/残幅11.0					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	48	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長16.3/残幅7.1/残高3.9					外面ヘラナデ、内面布目痕	
23	49	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長16.2/残幅8.2/残高5.6					外面ヘラナデ、内面布目痕	
25	50	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅10.2/瓦当厚残5.6						
25	51	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅15.0/瓦当厚残3.8						
25	52	甲府城跡	試掘坑・祇	瓦 軒平瓦	残幅8.2/瓦当厚残3.9						
25	53	甲府城跡	試掘坑・祇	瓦 軒平瓦	残幅8.1/瓦当厚残3.4						
25	54	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅8.2/瓦当厚残3.5						
25	55	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅5.9/瓦当厚残3.9						
25	56	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅11.4/瓦当厚残4.2						
25	57	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅11.8/瓦当厚残8.8						
25	58	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅6.3/瓦当厚残3.0						
25	59	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 平瓦	残長14.6/残幅15.3/残厚2.1						
25	60	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 平瓦	残長12.5/残幅8.1/残厚2.0						
25	61	甲府城跡	試掘坑一括	瓦	残長12.0/残幅9.1/残厚2.0						
25	62	甲府城跡	試掘坑一括	瓦	残長9.0/残幅13.5/残厚1.8						
25	63	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 輪違い瓦	長8.6/残幅8.0/高2.7/厚1.7						

出土遺物観察表（3）

（　）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm）			部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
					口径	器高	底径				
25	64	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 輪違い瓦	長9.6/残幅8.9/高3.5/厚1.7						
25	65	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 輪違い瓦	長10.0/残幅8.0/高3.9/厚2.0						
25	66	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 輪違い瓦	長9.0/残幅9.1/厚1.4						
25	67	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 輪違い瓦	残長6.5/残幅6.8/厚1.8						
27	1	小瀬氏館跡	試掘坑一括	磁器 碗				口縁部	瀬戸美濃系、摺絵、内面瓔珞文、外面微塵唐草	密	
27	2	小瀬氏館跡	試掘坑一括	磁器 碗				底部	瀬戸美濃系	密	
27	3	小瀬氏館跡	試掘坑一括	陶器	(9.8)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
27	4	小瀬氏館跡	試掘坑一括	土器					ロクロ成形、内面ナデ、指頭痕	やや密、長石、金雲母	
34	1	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	磁器 碗				口縁～底部	肥前系染付	緻密	
34	2	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	磁器 碗				口縁～体部	染付、鶴と亀甲文	緻密	
34	3	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	陶器 志野丸皿				口縁部	瀬戸美濃系、17世紀前半	密	
34	4	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	陶器 灰釉碗			(4.8)	底部	瀬戸美濃系、17世紀前半	密	
34	5	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	陶器 灰釉鉢				口縁部	瀬戸美濃系、17世紀後半	やや粗	
34	6	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	陶器 擂鉢				体部	瀬戸美濃系、内外面錆釉、17世紀後半	やや粗	
34	7	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	土器 かわらけ			(5.2)	底部		密、赤色粒子、金雲母	
34	8	塩部遺跡	SD-1, Tr-1	縄文土器 深鉢				体部	貼付文、曽利Ⅰ～Ⅱ	やや粗、赤色粒子 金雲母、石英	
34	9	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 小坏	5.6	3.1	2.0	口縁～底部	瀬戸美濃系、外面・底部陽刻、内面日章旗を印刷	緻密	完形
34	10	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 小坏				体部	肥前系染付	緻密	
34	11	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	陶器 鉄釉小坏				口縁部	瀬戸美濃系、17世紀後半	やや粗	
34	12	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 志野小坏			3.0	体部～底部	瀬戸美濃系、17世紀末～18世紀初	密	
34	13	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 小坏	(7.5)	2.0	(4.8)	口縁～底部	瀬戸美濃系、銅版転写	緻密	
34	14	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 碗	(8.4)	4.6	3.5	口縁～底部	肥前系染付、砂目高台、17世紀前半	緻密	
34	15	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、内面四方襷文、18世紀前半	緻密	
34	16	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、外面草花文、18世紀	緻密	
34	17	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、内面亀甲、外面唐草文、18世紀	緻密	
34	18	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、外面青海波文、18世紀	緻密	
34	19	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 碗				体部	肥前系染付、17世紀末～18世紀初	緻密	
34	20	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				底部	肥前系染付、高台内渦福？ 17世紀後半～18世紀初	緻密	
34	21	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗			4.0	体部～底部	肥前系染付、外面草花文、17世紀後半	緻密	
34	22	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				体部～底部	染付、焼継ぎ痕、18世紀後半	緻密	
34	23	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗			5.2	底部	瀬戸美濃系、内面飴釉、18世紀初	やや粗	
34	24	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 碗			(4.6)	底部	染付	緻密	
34	25	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 灰釉碗			(5.0)	底部	瀬戸美濃系、17世紀前半	やや密	
34	26	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 灰釉碗			(3.5)	底部	瀬戸美濃系、17世紀前半	密	
34	27	塩部遺跡	SD-2, Tr-2.3	磁器 碗	(11.1)			口縁～体部	染付、外面印花文	緻密	
34	28	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗	(11.5)			口縁～体部	瀬戸美濃系、銅版転写	緻密	
34	29	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 碗	(8.1)			口縁～体部	瀬戸美濃系染付	緻密	
34	30	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 碗	(11.4)	5.2	3.3	口縁～底部	染付、高台内「口泉」刻印	緻密	
34	31	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 小碗	8.4	4.8	2.9	口縁～底部	瀬戸美濃系、銅版転写	緻密	
34	32	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				体部	銅版転写	緻密	
34	33	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗				口縁部	銅版転写、外面一重網目文、近代	緻密	
35	34	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗	10.6	6.0	3.7	口縁～底部	瀬戸美濃系、銅版転写、近代	緻密	
35	35	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 碗			3.7	体部～底部	銅版転写、外面草樹文	緻密	
35	36	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	磁器 碗	(10.6)			口縁部	染付、外面草花文	緻密	
35	37	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 志野碗	(10.0)			口縁～体部	瀬戸美濃系、17世紀中	密	
35	38	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	磁器 碗				口縁部	染付、外面草花文？	緻密	
35	39	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 皿			(3.8)	底部	染付、高台内「大島」刻印	緻密	
35	40	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 小碗	7.2	3.5	2.8	口縁～底部	瀬戸美濃系染付、18世紀前半	緻密	
35	41	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	陶器 小碗			3.8	底部	瀬戸美濃系、内面飴釉、17世紀末～18世紀初	密	
35	42	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 蓋				体部	肥前系染付、18世紀前半	緻密	
35	43	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 合子	(5.5)	1.7	(6.1)	口縁～底部	肥前系染付、17世紀後半～18世紀	緻密	
35	44	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 皿				口縁部	瀬戸美濃系、銅版転写、外面微塵唐草	緻密	
35	45	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 皿	(5.0)			口縁～体部	肥前系染付、17世紀後半	緻密	
35	46	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	磁器 皿	(20.0)	3.3	(12.6)	口縁～底部	肥前系染付、焼継ぎ痕、墨弾き、17世紀中～ 内面草花文、外面唐草文	緻密	
35	47	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	磁器 皿	(15.4)	4.8	(10.6)	口縁～底部	肥前系青磁染付、18世紀前半	緻密	
35	48	塩部遺跡	SD-2, Tr-2.3	陶器 酒瓶			7.8	体部～底部	「五合入」銘	やや粗	
35	49	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	磁器 徳利			(5.9)	底部	高台内二重角「□山□」銘	緻密	
35	50	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 鉄釉花器			7.8	底部	瀬戸美濃系、17世紀末～18世紀初	密	
35	51	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 花器			4.5	体部～底部	瀬戸美濃系、内面・高台内長石釉、18世紀	密	
35	52	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 急須				注口部	瀬戸美濃系	密	
35	53	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 仏飯器			4.5	底部	瀬戸美濃系、外面灰釉、18世紀初	やや密	
35	54	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 灰釉鉢				体部	瀬戸美濃系、17世紀後半～18世紀初	やや粗	
35	55	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	土器 鍋				口縁部		やや密	
35	56	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	常滑 甕				肩部		やや粗	
35	57	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 灯明皿	(7.3)	1.3	(3.8)	口縁～底部	志戸呂、内外面錆釉、底部回転糸切り痕 17世紀後半～18世紀	密	
35	58	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 灯明皿	(6.6)	1.3	(3.2)	口縁～底部	瀬戸美濃系、内面・外面口縁部錆釉、18世紀前半	やや密	
35	59	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	陶器 擂鉢	(29.1)			口縁部	瀬戸美濃系、内外面錆釉、17世紀後半	やや粗	

出土遺物観察表（4）

（　）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量(cm) 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
35	60	塩部遺跡	SD-2, Tr-2	陶器 擂鉢				体部	瀬戸美濃系、内外面錆釉、18世紀初	やや粗	
35	61	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	土器 擂鉢				底部		やや粗、長石、石英	
35	62	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	陶器 擂鉢				体部	瀬戸美濃系、内外面錆釉、17世紀中	やや粗	
35	63	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	陶器 擂鉢				体部	瀬戸美濃系、内外面錆釉	やや粗	
35	64	塩部遺跡	SD-2, Tr-1	金属器 メダル	長4.00/幅3.61/厚0.55/重22.8g				表字「KEIO」、裏字「庭球人會豫撰會1933」		
35	65	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	ガラス製品	長1.85/幅2.0/厚0.35/重1.9g				おはじき？		
35	66	塩部遺跡	SD-2, Tr-3	ガラス製品	口径2.5/器高2.6/底径1.85/重17.3g				ミニチュア		
35	67	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	磁器 小坏				口縁～体部	肥前系染付	緻密	
35	68	塩部遺跡	SD-3, Tr-4	陶器 皿	(11.9)	2.5	7.1	口縁～底部		密	
35	69	塩部遺跡	SD-3, Tr-4	陶器 碗				体部	瀬戸美濃系、17世紀	やや密	
35	70	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	陶器 瓶			(9.0)	底部	17世紀前半	密	
35	71	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	土器 かわらけ				口縁部		やや密、金雲母 赤色粒子	
35	72	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	陶器 灯明皿	(7.6)	1.4	(3.5)	口縁～底部	志戸呂、内外面錆釉、17世紀後半～18世紀	密	
35	73	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	陶器 擂鉢					瀬戸美濃系、内外面錆釉、17世紀	やや粗	
35	74	塩部遺跡	SD-3, Tr-4	陶器 擂鉢				体部	瀬戸美濃系、内外面錆釉	やや密	
35	75	塩部遺跡	SD-3, Tr-3	土師器 壺				胴部		やや粗、長石 金雲母、赤色粒子	
35	76	塩部遺跡	SD-3, Tr-4	土器 内耳鍋				把手		やや粗、石英 金雲母、赤色粒子	
36	77	塩部遺跡	トレンチ	木製品 杭	長75.0/幅5.4/径3.8				丸木を加工		
36	78	塩部遺跡	トレンチ	木製品 杭	長56.2/幅3.4/径2.4				丸木を使用		
36	79	塩部遺跡	トレンチ	木製品 加工材	高56.2/幅3.2/厚3.0				角木を取水施設に転用、枘孔(方5mm)2箇所		
36	80	塩部遺跡	トレンチ	木製品 杭	長38.6/幅3.8/厚2.0				板材を転用		
36	81	塩部遺跡	トレンチ	木製品 加工材	長27.6/幅12.0/厚5.8				切断痕あり		
36	82	塩部遺跡	トレンチ	木製品 加工材	長34.4/幅12.0/厚8.2				枘(長4.4/幅8.8/厚5.8)あり、切断痕あり		
40	1	古宮遺跡	東トレンチ	縄文土器 深鉢				胴部	単節縄文、堀之内式	やや密	
40	2	古宮遺跡	西トレンチ	陶器 天目碗				体部	瀬戸美濃系、鉄釉、体部下半露胎	密	
40	3	古宮遺跡	西トレンチ	土器 かわらけ	(11.8)			口縁部	ロクロ成形	やや密	
40	4	古宮遺跡	西トレンチ	磁器 皿				底部	肥前系染付、外面唐草文	やや粗	
40	5	古宮遺跡	西トレンチ	磁器 急須				体部		やや密	
40	6	古宮遺跡	試掘坑一括	土製品 土馬	残長2.8/残高3.8/残幅2.8			後脚部	ナデ、指頭痕	密	
40	7	古宮遺跡	東トレンチ	石製品 砥石	長13.0/幅3.4/厚3.7/重181.7g				磨面2面、転用品か、粘板岩		
43	1	緑ヶ丘二丁目遺跡	試掘坑一括	陶器 常滑甕				口縁部		密、長石	
45	1	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－6	縄文土器 深鉢				胴部	隆帯貼付	やや密、長石、金雲母	
45	2	緑ヶ丘二丁目遺跡	試掘坑一括	土師器 坏	(11.8)			口縁～体部	内外面ナデ	やや密	
45	3	緑ヶ丘二丁目遺跡	試掘坑一括	灰釉陶器 碗			(6.0)	底部	ロクロ成形、付高台	やや密、長石	
45	4	緑ヶ丘二丁目遺跡	試掘坑一括	灰釉陶器 碗				底部	ロクロ成形、付高台	やや密、長石	
45	5	緑ヶ丘二丁目遺跡	試掘坑一括	須恵器 甕				口縁部	ロクロ成形	やや密	
45	6	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－5	須恵器 甕				頸部	外面叩き目、内面ナデ	やや密	
45	7	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－3	須恵器 甕				胴部	外面叩き目、内面ナデ	密、長石	
45	8	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－5	須恵器 壺				頸部	ロクロ成形	密、長石	
45	9	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－5	土師器 甕			(8.7)	底部	内外面ナデ、底部木葉痕	やや密、長石、金雲母	
45	10	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－4	土師器 甕	(26.0)			口縁部	内外面ナデ、ハケ	やや密、長石 石英、金雲母	
45	11	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－6	土師器 壺			(5.7)	底部	内外面ナデ、内面ヘラナデ・指頭痕	やや密、長石、石英	
45	12	緑ヶ丘二丁目遺跡	表採	土師器 高台付坏			6.5	胴部～底部	内外面ハケ	密	
45	13	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－3	陶器 天目碗				体部	瀬戸美濃系、鉄釉、体部下半露胎	やや密	
45	14	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－1	陶器 天目碗				体部	瀬戸美濃系、鉄釉	やや密	
45	15	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－3	磁器 青磁碗				底部		密	
45	16	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－3	磁器 碗	(10.2)			底部	染付	密	
45	17	緑ヶ丘二丁目遺跡	G－2	金属器 煙管	残長7.0/幅1.9/重10.1g			雁首			
48	1	南口B遺跡	トレンチ4	土師器 台付甕			(8.4)	脚部	外面ハケ、内面指ナデ	長石、石英、金雲母	
48	2	南口B遺跡	トレンチ2	土師器 器台	(7.8)			坏部～脚部	内外面ヘラミガキ、脚部穿孔、 内面指ナデ・ヘラナデ	長石、石英、金雲母	
48	3	南口B遺跡	トレンチ5	土師器 坏			(7.0)	体部～底部	内外面ロクロナデ	密、赤色粒子多量	
48	4	南口B遺跡	トレンチ4	土師器 甕				胴部	内外面ハケ	やや粗、長石、金雲母 石英、赤色粒子	
48	5	南口B遺跡	トレンチ2	須恵器 甕				胴部	外面叩き目、内面青海波文	密、長石	
48	6	南口B遺跡	トレンチ2	須恵器 甕				胴部	外面叩き目、内面青海波文	やや密、長石	
48	7	南口B遺跡	トレンチ5	陶器 常滑甕				胴部	内面ナデ	密、長石、石英	
48	8	南口B遺跡	トレンチ4	土器 かわらけ			(6.2)	底部	ロクロナデ、底部回転糸切り痕、煤付着	やや密、長石、金雲母 石英、赤色粒子	
48	9	南口B遺跡	トレンチ3	土器	(13.3)			口縁部	ロクロナデ	やや密、長石、金雲母	
48	10	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗	(10.2)			口縁～体部	肥前系染付、外面二重網目文	緻密	
48	11	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗	(8.7)			口縁～体部	肥前系染付	緻密	
48	12	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗			(4.6)	底部	肥前系染付	緻密	
48	13	南口B遺跡	トレンチ4	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、内面四方襷文、外面草花文	緻密	
48	14	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗	(10.0)			口縁部	瀬戸美濃系	緻密	
48	15	南口B遺跡	トレンチ4	磁器 碗				口縁部	瀬戸美濃系	緻密	
48	16	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗				口縁部	瀬戸美濃系、捺絵、内面瓔珞文、外面微塵唐草	緻密	

出土遺物観察表（5）

（ ）は推定値，残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm） 口径	胴高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
48	17	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗	10.8	4.0	4.0			緻密	完形
48	18	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 皿				底部	肥前系染付，内面四方襷文，外面唐草文	緻密	
48	19	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 皿				底部	肥前系染付	緻密	
48	20	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 碗				底部	肥前系染付，高台内竜文	緻密	
48	21	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 皿				底部	瀬戸美濃系，施釉	緻密	
48	22	南口B遺跡	トレンチ4	磁器 蓋				身受部	瀬戸美濃系	緻密	
48	23	南口B遺跡	トレンチ2	磁器 香炉				胴部	外面青磁釉，内面染付	緻密	
48	24	南口B遺跡	トレンチ2	陶器 擂鉢	(30.2)			口縁部	ロクロ成形，外面鉄釉	やや密，長石	
48	25	南口B遺跡	トレンチ1	陶器 壺			(6.4)	底部	瀬戸美濃系	密	
48	26	南口B遺跡	トレンチ1	陶器		(9.0)		口縁部	瀬戸美濃系	密	
48	27	南口B遺跡	トレンチ2	木製品 下駄	長22.5/幅10.2/厚3.1				連歯，磨耗		略完形
48	28	南口B遺跡	トレンチ2	木製品 栓	径9.8/幅1.5/径0.8～1.4						完形
48	29	南口B遺跡	トレンチ2	木製品 栓	高2.5/上幅2.8/下幅2.3						完形
50	1	山之神遺跡	試掘坑一括	磁器 皿				底部	肥前系染付，内面唐草文	緻密	
50	2	山之神遺跡	試掘坑一括	白磁 皿				体部		密	
50	3	山之神遺跡	試掘坑一括	陶器 碗			(5.1)	底部		密	
50	4	山之神遺跡	試掘坑一括	陶器 鉢			(8.9)	底部	瀬戸美濃系	やや密	
50	5	山之神遺跡	試掘坑一括	陶器 鉢			(11.8)	底部	瀬戸美濃系	やや密	
54	1	榎田遺跡	試掘坑一括	土師器 壺			(6.8)	底部	内外面ハケ後ナデ	やや密，長石，金雲母	
54	2	榎田遺跡	試掘坑一括	土師器 壺				体部	内外面ハケ	やや密，長石，金雲母	
57	1	大坪遺跡	ＳＸ－１	土師器 坏	(12.4)			口縁～体部	内外面ヘラミガキ	密，金雲母，赤色粒子	
57	2	大坪遺跡	西トレンチ	土師器 坏	(14.0)	(3.2)	(4.0)	口縁～底部	内面指頭痕	密，赤色粒子多量	
57	3	大坪遺跡	1-1グリッド	土師器 坏			(12.0)	底部	内面放射状暗文，外面ロクロナデ 底縁ヘラケズリ後ヘラミガキ	密，金雲母，長石 赤色粒子	
57	4	大坪遺跡	2-2グリッド	土師器 坏	12.9	5.5	7.7	口縁～底部	内面放射状暗文，外面ロクロナデ	緻密，赤色粒子	略完形
57	5	大坪遺跡	1-1グリッド	土師器 坏			(8.0)	底部	内面放射状暗文，外面ロクロナデ	緻密	
57	6	大坪遺跡	2-2グリッド	土師器 坏	(15.5)	3.6		口縁～底部	内外面ロクロナデ	密	
57	7	大坪遺跡	ＳＸ－１	土師器 坏	(10.8)			口縁～体部	内外面ロクロナデ，外面体部下半ヘラケズリ	密，赤色粒子	
57	8	大坪遺跡	1-2グリッド	土師器 坏	(14.6)			口縁～体部	内外面ロクロナデ，内面黒色処理	密，砂粒，赤色粒子	
57	9	大坪遺跡	2-1グリッド	土師器 坏	(13.6)			口縁～体部	内外面ロクロナデ	密，砂粒，赤色粒子	
57	10	大坪遺跡	1-2グリッド	土師器 坏	(13.6)			口縁部	内外面ロクロナデ	やや粗，赤色粒子	11と同一個体
57	11	大坪遺跡	1-2グリッド	土師器 坏			(6.8)	底部	内外面ロクロナデ	やや粗，赤色粒子	10と同一個体
57	12	大坪遺跡	2-1グリッド	土師器 坏			(5.4)	底部	底部回転糸切り痕	密	
57	13	大坪遺跡	2-1グリッド	土師器 坏			(5.6)	底部	底部回転糸切り痕	密	
57	14	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 皿	11.6	2.7	5.7	口縁～底部	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り痕	密，赤色粒子	
57	15	大坪遺跡	ＴＰ－２	土師器 皿	(9.3)			口縁～体部	内外面ナデ，外面体部下半ヘラケズリ	密，赤色粒子	
57	16	大坪遺跡	西トレンチ	土師器 高坏	(12.8)			坏部	内外面ナデ，内面指頭痕	密，長石，赤色粒子	
57	17	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 甕	(20.0)			口縁～胴部	口縁部内面ヨコナデ，胴部内外面ハケ目	長石，石英，赤色粒子	
57	18	大坪遺跡	ＳＸ－１	土師器 甕	(23.5)			口縁～胴部	口縁部ヨコナデ，胴部内外面ハケ目	やや粗，砂粒	
57	19	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 甕	(24.4)			口縁～胴部	口縁部外面ロクロナデ，内外面ハケ目 胴部内外面ハケ目	やや密，長石 金雲母，赤色粒子	
57	20	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 甕	(25.0)			口縁～胴部	口縁部外面ハケ後ロクロナデ，内面ハケ目 胴部内外面ハケ目	やや粗，長石 金雲母，赤色粒子	
57	21	大坪遺跡	2-3グリッド	土師器 甕				胴部	外面叩き目，内面指頭痕	長石，砂粒，赤色粒子	
58	22	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 甕	(10.2)	7.8	3.4	口縁～底部	外面胴下半ヘラケズリ，二次焼成	やや粗，砂粒多い	
58	23	大坪遺跡	2-3グリッド	土師器 壺			(9.0)	底部	内外面ハケ目	やや粗，長石，赤色粒子	
58	24	大坪遺跡	2-2グリッド	土師器 壺			(9.0)	底部	底部木葉痕	やや粗，長石 石英，赤色粒子	
58	25	大坪遺跡	2-3グリッド	土師器 壺			(8.0)	底部	外面ヘラケズリ，内面ハケ目，底部木葉痕	やや粗，砂粒	
58	26	大坪遺跡	2-1グリッド	土師器 羽釜				口縁部	内面ハケ目	やや粗，砂粒	
58	27	大坪遺跡	1-3グリッド	土師器 鍔付鍋				鍔部	外面指頭痕，内面ハケ目	やや粗，砂粒	
58	28	大坪遺跡	西トレンチ	手捏ミ鉢	7.0	5.6	6.1	口縁～底部	外面ナデ・指頭痕，内面指頭痕	長石，石英，金雲母	
58	29	大坪遺跡	2-2グリッド	須恵器 蓋	(18.0)	(2.0)		身受部	ロクロナデ	緻密	
58	30	大坪遺跡	1-3グリッド	須恵器 蓋	(16.0)	(1.5)		身受部	ロクロナデ	緻密	
58	31	大坪遺跡	1-3グリッド	須恵器 蓋	(11.8)			身受部	ロクロナデ	緻密	
58	32	大坪遺跡	2-3グリッド	須恵器 蓋					ロクロナデ	緻密，長石，黒色粒子	
58	33	大坪遺跡	2-5グリッド	須恵器 坏	(10.4)			口縁部	ロクロナデ	緻密	
58	34	大坪遺跡	2-5グリッド	須恵器 坏			(5.0)	底部	ロクロナデ	緻密	
58	35	大坪遺跡	2-3グリッド	須恵器 坏			(6.0)	底部	ロクロナデ，底部糸切り後ヘラケズリ	緻密，長石，石英	
58	36	大坪遺跡	2-3グリッド	須恵器 長頸壺	(10.0)			口縁部	ロクロナデ	緻密，長石 石英，黒色粒子	
58	37	大坪遺跡	1-2グリッド	須恵器 長頸壺	(11.0)			口縁部	ロクロナデ	緻密	
58	38	大坪遺跡	ＳＸ－１	須恵器 長頸壺	(12.0)			口縁部	ロクロナデ	緻密	
58	39	大坪遺跡	ＳＸ－１	須恵器 甕	(8.0)			口縁部	ロクロナデ	緻密	
58	40	大坪遺跡	1-2グリッド	須恵器 甕	(28.0)			口縁部	ロクロナデ，内面ヘラナデ	やや密，長石，石英	
58	41	大坪遺跡	1-2グリッド	須恵器 甕				胴部	外面叩き目	緻密，長石，黒色粒子	
58	42	大坪遺跡	西トレンチ	須恵器 甕				胴部	外面櫛歯状工具による刺突文	緻密	
58	43	大坪遺跡	1-3グリッド	須恵器 甕				胴部	外面叩き目，内面寄目痕	緻密	

出土遺物観察表（6）

（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm） 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
58	44	大坪遺跡	1-3グリッド	須恵器 甕				胴部	外面叩き目	緻密、長石、石英	
58	45	大坪遺跡	1-3グリッド	須恵器 甕				胴部	ロクロナデ	緻密	
58	46	大坪遺跡	ＳＸ－１	須恵器 壺			(3.0)	底部	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	緻密、長石、雲母	
58	47	大坪遺跡	21グリッド	緑釉陶器 皿				口縁部	ロクロナデ	緻密	
58	48	大坪遺跡	2-2グリッド	灰釉陶器 皿				胴部	ロクロナデ	緻密	
58	49	大坪遺跡	ＴＰ－２	灰釉陶器 碗			(7.0)	底部	ロクロナデ	緻密	
58	50	大坪遺跡	2-3グリッド	瓦 平瓦	残長5.3/残幅7.2/残厚1.7				外面叩き目、内面布目痕		
63	1	上河原遺跡	試掘坑一括	磁器 香炉				底部		緻密	
63	2	上河原遺跡	試掘坑一括	磁器 皿			3.4	底部	外面唐草文	緻密	
65	1	甲府城跡	試掘坑一括	陶器 擂鉢	(30.0)			口縁部	内外面施釉	緻密	
65	2	甲府城跡	試掘坑一括	陶器 碗				体部	染付	緻密	
65	3	甲府城跡	試掘坑一括	土器 焼塩壺				体部		やや粗	
65	4	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 鬼瓦	残長10.2/残幅9.6/残厚5.6				桐紋か？		
65	5	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 鬼瓦	残長9.0/残幅10.5/残厚3.1				桐紋か？、宿め穴（径８㎜）あり		
67	6	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径13.2/文様区径10.2				違い鷹の羽		
67	7	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径12.5/文様区径10.1				違い鷹の羽		
67	8	甲府城跡	試掘坑一括	瓦	残径11.0						
67	9	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.5/文様区径9.6				三巴(左巻)・連珠		
67	10	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.4/文様区径9.0				三巴(左巻)・連珠		
67	11	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.5/文様区径9.7				三巴(左巻)・連珠		
67	12	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.1/文様区径9.1				三巴(左巻)・連珠		
67	13	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.6/文様区径9.4				三巴(左巻)・連珠		
67	14	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.5/文様区径8.9				三巴(左巻)・連珠		
67	15	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径14.2/文様区径9.8				三巴(左巻)・連珠		
67	16	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.6/文様区径9.6				三巴(左巻)・連珠		
67	17	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.6/文様区径9.3				三巴(左巻)・連珠		
67	18	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.0/文様区径9.6				三巴(左巻)・連珠		
67	19	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.5/文様区径9.2				三巴(左巻)・連珠		
67	20	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.3/文様区径9.4				三巴(左巻)・連珠		
67	21	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.2/文様区径9.5				三巴(左巻)・連珠		
67	22	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径14.0/文様区径9.4				三巴(左巻)・連珠		
67	23	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.5/文様区径9.8				三巴(左巻)・連珠		
67	24	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.6/文様区径9.8				三巴(左巻)・連珠		
67	25	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径16.0/文様区径11.3				三巴(左巻)・連珠15		
67	26	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.1/文様区径9.1				三巴(左巻)・連珠		
67	27	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径14.0/文様区径10.0				三巴(左巻)・連珠		
68	28	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残径14.6				三巴(左巻)・連珠		
68	29	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.6/文様区径9.8				三巴(右巻)・連珠		
68	30	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.0/文様区径10.4				三巴(右巻)・連珠		
68	31	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.0/文様区径10.1				三巴(右巻)・連珠		
68	32	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.2/文様区径9.6				三巴(右巻)・連珠		
68	33	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径16.0/文様区径11.2				三巴(右巻)・連珠		
68	34	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径13.0/文様区径9.7				三巴(右巻)・連珠		
68	35	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	径12.8/文様区径9.8				三巴(右巻)・連珠		
68	36	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	長27.3/幅13.8/瓦当厚2.1/玉縁長3.3				三巴(左巻)・連珠、宿め穴(径1.9cm)あり 外面ヘラナデ、内面布目痕		
68	37	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長13.1/幅16.3/瓦当厚2.4				三巴(右巻)・連珠、外面ヘラナデ		
68	38	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長18.5/幅14.0/瓦当厚1.5				三巴(左巻)・連珠		
69	39	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長19.7/幅14.3/瓦当厚2.3				三巴(左巻)・連珠、外面ヘラナデ、内面布目痕		
69	40	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長10.9/幅14.3/瓦当厚2.3				三巴(左巻)・連珠、外面ヘラナデ		
69	41	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長12.3/幅17.5/瓦当厚3.3				三巴(左巻)・連珠、外面ヘラナデ		
69	42	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長11.6/幅13.7/瓦当厚2.5				三巴(右巻)・連珠、外面ヘラナデ、内面布目痕		
70	43	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長10.5/幅16.3/瓦当厚2.4				三巴(右巻)・連珠、外面ヘラナデ		
70	44	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒丸瓦	残長11.4/幅14.2/瓦当厚2.5				三巴(左巻)・連珠、外面ヘラナデ		
70	45	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	長31.2/残幅14.5/高7.3/玉縁長3.8				外面ヘラナデ、内面布目痕		
70	46	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長18.9/残幅14.7/高6.9/玉縁長3.3				外面ヘラナデ、内面布目痕、雷め穴(径1.4cm)あり		
71	47	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 丸瓦	残長20.2/残幅16.1/高6.3/玉縁長3.9				外面ヘラナデ、内面布目痕、雷め穴(径1.1cm)あり		
71	48	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅13.0/残長8.7/文様区画残幅8.0/瓦当厚3.6/厚2.0						
71	49	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残20.0/残長18.9/文様区画残幅10.4/瓦当厚4.1/厚1.8						
71	50	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅21.0/残長20.2/文様区画残幅9.6/瓦当厚4.3/厚1.8						
71	51	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅23.3/残長11.5/文様区画残幅14.6/瓦当厚4.1/厚1.9						
71	52	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	幅19.8/残長16.4/文様区画残幅12.3/瓦当厚3.2/厚1.7						
71	53	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅17.0/残長8.5/文様区画残幅12.2/瓦当厚4.1/厚1.8						
71	54	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅17.7/残長11.3/文様区画残幅10.7/瓦当厚4.1/厚1.8						
72	55	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅14.0/残長13.0/文様区画残幅8.6/瓦当厚3.8/厚2.0						
72	56	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅16.8/残長7.9/文様区画残幅11.7/瓦当厚3.8/厚1.7						
72	57	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅15.3/残長9.1/文様区画残幅9.8/瓦当厚4.7/厚1.8						
72	58	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅16.4/残長9.3/文様区画残幅11.0/瓦当厚5.0/厚2.3						
72	59	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅14.1/残長8.1/文様区画残幅8.5/瓦当厚3.4/厚1.9						
72	60	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	幅21.3/残長13.7/文様区画残幅10.8/瓦当厚3.7/厚1.5						
72	61	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	幅20.8/長23.1/厚1.8						

出土遺物観察表（7）

（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm）口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
72	62	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	残幅20.2/長26.6/厚1.8						
72	63	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅7.2/瓦当厚4.6						
72	64	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅12.8/瓦当厚5.2						
72	65	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅9.5/瓦当厚5.2						
72	66	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅9.6/瓦当厚3.6						
72	67	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅7.5/瓦当厚4.4						
72	68	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅8.2/瓦当厚3.8						
72	69	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅8.2/瓦当厚3.8						
72	70	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅8.4/瓦当厚4.8						
72	71	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅6.2/瓦当厚4.3						
72	72	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅5.8/瓦当厚4.2						
72	73	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅8.8/瓦当厚5.8						
72	74	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 軒平瓦	文様区画残幅10.0/瓦当厚4.4						
72	75	甲府城跡	試掘坑一括	瓦 隅丸瓦	残長12.0/残幅11.0/厚2.0						
73	1	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	土器 かわらけ	5.5	1.6	3.4	口縁～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	密、長石、金雲母	
73	2	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	土器 かわらけ			(5.2)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	密、長石、金雲母	
73	3	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	土器 かわらけ	(11.8)			口縁部	ロクロ成形	密、長石、金雲母	
73	4	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	陶器 皿			(4.0)	底部	内外灰釉、付高台	密	
73	5	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目5条	やや密、金雲母 長石、赤色粒子	
73	6	甲府城下町遺跡	試掘坑一括	土器 擂鉢	(28.0)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
73	7	甲府城下町遺跡	SK－1	土器 擂鉢			(14.0)	体部	内外面ナデ	密、長石、金雲母	
73	8	甲府城下町遺跡	SK－1	銭貨	径2.27/孔径0.72/厚0.12/重1.4g				磨耗著しい		
79	1	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗	(9.5)	5.6	3.8	口縁～底部	染付、肥前(波佐見)、外面梅文、高台内記号あり	密	
79	2	甲府城下町遺跡	一括	陶器 碗	(12.7)	6.7	(5.2)	口縁～底部	肥前(波佐見)系染付、外面梅文	密	
79	3	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗	(13.4)			口縁～体部	肥前(波佐見)系染付、外面草花文	密	
79	4	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗	9.7	5.3	4.0	口縁～底部	肥前(波佐見)系染付、外面梅文	密	略完形
79	5	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗	9.7	5.0	4.2	口縁～底部	肥前(波佐見)系染付、外面菊花・草花文	密	
79	6	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗				底部	肥前系染付	密	
79	7	甲府城下町遺跡	SE	陶器 碗	(10.7)	9.0	(5.8)	口縁～底部	砂敷焼成	密	
79	8	甲府城下町遺跡	一括	陶器 碗	(10.4)	7.0	(4.2)	口縁～底部		やや密	
79	9	甲府城下町遺跡	SE	陶器 天目碗				体部		やや密	
79	10	甲府城下町遺跡	SE	磁器 小坏			(2.8)	底部	染付	密	
79	11	甲府城下町遺跡	SE	磁器 皿	8.4	2.4	4.2	口縁～底部	肥前系染付、内面草花文	緻密	略完形
79	12	甲府城下町遺跡	一括	磁器 皿				底部	肥前系染付、内面草花文	緻密	
80	13	甲府城下町遺跡	一括	磁器 皿				底部	描絵、外面微塵唐草文、見込松竹梅文	緻密	
80	14	甲府城下町遺跡	一括	磁器 皿				底部	染付	緻密	
80	15	甲府城下町遺跡	SE	陶器 灰釉皿	(7.9)			口縁部		やや密	
80	16	甲府城下町遺跡	SE	陶器 皿	(10.4)	1.9	(5.2)	口縁～底部	ロクロ成形	密	
80	17	甲府城下町遺跡	SE	陶器 灰釉菊皿	(7.2)	1.7	(3.7)	口縁～底部	型打成形	やや密	
80	18	甲府城下町遺跡	SE	磁器 鉄釉皿			(5.0)	底部		やや密	
80	19	甲府城下町遺跡	一括	磁器 段重	(15.4)	3.7	(15.2)	口縁～底部	色絵	密	
80	20	甲府城下町遺跡	SE	磁器 湯呑碗	(7.8)			口縁～体部	肥前系染付、外面菖蒲文、内面四方襷文	密	
80	21	甲府城下町遺跡	SE	陶器 鉄釉皿			(8.9)	底部		密	
80	22	甲府城下町遺跡	SE	陶器 灰釉碗	(11.6)			口縁～体部	ロクロ成形	やや密	
80	23	甲府城下町遺跡	SE	陶器 灰釉火入	(9.4)	8.1	7.0	口縁～底部		やや密	
80	24	甲府城下町遺跡	SE	陶器 瓶				体部	ロクロ成形、外面灰釉	やや密	
80	25	甲府城下町遺跡	一括	陶器			(8.0)	底部	ロクロ成形	やや粗	
80	26	甲府城下町遺跡	SE	陶器 香炉			(7.9)	底部	ロクロ成形	やや密	
80	27	甲府城下町遺跡	SE	陶器 片口	(15.2)	9.5	(7.9)	口縁～底部	ロクロ成形	やや密	
80	28	甲府城下町遺跡	一括	陶器 片口			(9.1)	底部	ロクロ成形	やや密	
80	29	甲府城下町遺跡	SE	陶器 片口			(9.0)	底部	ロクロ成形	密	
80	30	甲府城下町遺跡	SE	陶器 灰釉碗			(5.4)	底部	ロクロ成形	やや密	
80	31	甲府城下町遺跡	SE	磁器 神酒徳利			(5.6)	底部	染付、砂目高台	密	
80	32	甲府城下町遺跡	SE	磁器 壺				胴部	ロクロ成形	密	
80	33	甲府城下町遺跡	SE	土器 焙烙	24.3	4.7	23.7	口縁～底部	内面ナデ、二次被熱、スス付着	やや密、長石 石英、金雲母	
80	34	甲府城下町遺跡	SE	土器 焙烙			(19.8)	底部	外面ナデ、内面ロクロナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
80	35	甲府城下町遺跡	SE	土器 焙烙			(23.2)	底部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
80	36	甲府城下町遺跡	一括	陶器 擂鉢			(14.7)	底部	外面ナデ、櫛目10条	やや密、長石	
80	37	甲府城下町遺跡	一括	金属器 煙管	残長5.1/幅1.5/重16.7g			雁首			
80	38	甲府城下町遺跡	一括	金属器 煙管	残長7.3/幅0.9/重11.4g			吸口			
80	39	甲府城下町遺跡	一括	金属器 丸釘	残長6.7/幅0.5/重3.4g						
80	40	甲府城下町遺跡	一括	金属器 丸釘	残長8.0/幅0.3/重4.2g						
83	1	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 碗	(9.9)			口縁～体部	染付	緻密	
83	2	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 碗			4.1	底部	染付、見込み松竹梅文	緻密	
83	3	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 大皿			(10.5)	底部	染付、楼閣文	緻密	
83	4	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 青磁大皿			(10.6)	底部	内外面・底部施釉、蛇の目高台	密	
83	5	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 皿	13.6	3.6	9.1	口縁～底部	染付、外面唐草文、蛇の目高台	緻密	

出土遺物観察表（8）

（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・部種	法量 (cm) 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
83	6	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 大皿			9.1	底部	染付、楼閣文	緻密	
83	7	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 皿	(15.6)			口縁～体部	瀬戸美濃系、見込み輪	緻密	
84	8	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 碗			4.2	底部	染付、外面草花文、見込みこんにゃく五弁花 底裏二重角満福、砂目高台	緻密	
84	9	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 段重	(10.9)	2.6	(10.8)	口縁～底部	染付、雷紋	緻密	
84	10	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 急須				口縁～体部	瀬戸美濃系	やや粗	
84	11	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 香炉	(10.8)	8.7	7.3	口縁～底部	瀬戸美濃系、外面灰釉	やや密、石英、長石	
84	12	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 蓋か						密	
84	13	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 小壺			(3.4)	底部		緻密	
84	14	甲府城下町遺跡	1号溝	磁器 施利			5.4	底部	染付	緻密	
84	15	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 鬢水入れ				口縁～底部	瀬戸美濃系、灰釉掛釉	やや密	
84	16	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 行平蓋	(12.6)			体部	外面トビカンナ、内面鉄釉	密	
84	17	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 土鍋	(14.7)			口縁～体部	内外面鉄釉	やや密	
84	18	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 灯明皿	(11.3)	2.8	(5.0)	口縁～底部	瀬戸美濃系、内面・外面口縁部鉄釉	密	
84	19	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 碗か				体部	瀬戸美濃系、内外面鉄釉	やや粗	
84	20	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 碗か	(36.0)			口縁～体部	瀬戸美濃系、内外面鉄釉	やや粗	
84	21	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 擂鉢				口縁部	瀬戸美濃系、内外面鉄釉	やや粗	
84	22	甲府城下町遺跡	1号溝	陶器 擂鉢			13.0	体部～底部	瀬戸美濃系、外面灰釉、蛇の目高台	やや粗	
84	23	甲府城下町遺跡	1号溝	土師器 坏			(8.0)	底部	外底ケズリ、内面放射状暗文・黒色処理	密、赤色粒子	
84	24	甲府城下町遺跡	1号溝	土師器 甕	(11.8)			口縁部	外面ハケ後ナデ、内面ハケ	やや粗、石英 長石、金雲母	
84	25	甲府城下町遺跡	1号溝	金属器 釘	残長3.60/幅0.36/厚0.32/重3.3g						
84	26	甲府城下町遺跡	1号溝	金属器 煙管	残長5.30/幅1.27/厚0.65/重4.5g						
84	27	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 小坏	(6.0)	4.2	3.4	口縁～底部	染付、砂目高台	緻密	
84	28	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 碗	(7.2)	4.6	(3.3)	口縁～底部	染付	緻密	
84	29	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 碗	(7.2)	4.6	3.3	口縁～底部	染付	緻密	
84	30	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 碗				口縁部	染付、こんにゃく印判	緻密	
84	31	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 碗				口縁部	染付、外面草花文、内面四方襷文	緻密	
84	32	甲府城下町遺跡	2号溝	石器 皿			(10.1)	底部	研ぎ成形	緻密	
84	33	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 輪花皿				口縁部	瀬戸美濃系、内外面鉄釉	やや密	
84	34	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 皿			3.2	底部	染付	緻密	
84	35	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器				底部	染付	緻密	
84	36	甲府城下町遺跡	2号溝	磁器 皿				口縁部	染付、外面唐草文、内面草花文	緻密	
84	37	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 香炉	(16.3)			口縁～体部	瀬戸美濃系、鉄釉、外面・内面口縁部施釉	やや粗	
84	38	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 緑釉施掛				体部	瀬戸美濃系、印花文	やや粗	
84	39	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 土瓶			(8.0)	底部	内外面鉄釉、外面下半無釉	密	
84	40	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 かわらけ	(6.3)	1.2	(5.0)	口縁～底部	底部回転糸切り後ナデ	やや粗、赤色粒子 金雲母、長石	
84	41	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 かわらけ	(9.0)	1.5	(6.4)	口縁～底部	底部回転糸切り	やや密、赤色粒子 金雲母、長石	
84	42	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 かわらけ			(5.6)	底部	底部回転糸切り	やや粗、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
84	43	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 甕	(26.2)			口縁部	口縁部スス付着	やや粗、赤色粒子 金雲母、長石	
84	44	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 甕			(22.0)	底部		やや粗、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
84	45	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 鉢	(20.8)			口縁～体部	瀬戸美濃系	やや粗	
85	46	甲府城下町遺跡	2号溝	土器 火鉢？				脚部		やや粗、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	47	甲府城下町遺跡	2号溝	陶器 擂鉢			6.4	底部	瀬戸美濃系、内外面鉄釉	粗	
85	48	甲府城下町遺跡	2号溝	瓦 丸瓦	残長8.3/残幅6.7/高2.1				外面ヘラナデ、内面布目痕		
85	49	甲府城下町遺跡	2号溝	瓦 丸瓦	残長10.7/残幅9.7/高2.2				外面ヘラナデ、内面布目痕		
85	50	甲府城下町遺跡	4号溝	磁器 碗	(10.3)	5.0	3.5	口縁～底部	染付	緻密	
85	51	甲府城下町遺跡	4号溝	磁器 碗	10.0	4.8	4.1	口縁～底部	染付、若松文、こんにゃく印判	緻密	
85	52	甲府城下町遺跡	4号溝	磁器 碗			(5.2)	底部	肥前系染付、見込み五弁花、底裏銘	緻密	
85	53	甲府城下町遺跡	4号溝	磁器 碗				口縁部	染付、外面草花文	緻密	
85	54	甲府城下町遺跡	4号溝	陶器 灰釉碗			4.8	体部～底部	瀬戸美濃系、底裏印あり	やや密	
85	55	甲府城下町遺跡	4号溝	土器 かわらけ	6.1	1.4	4.8	口縁～底部		やや粗、金雲母 長石、石英	
85	56	甲府城下町遺跡	4号溝	土器 かわらけ	6.7	1.4	4.7	口縁～底部	底部回転糸切り痕	やや密、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	57	甲府城下町遺跡	4号溝	土器 かわらけ			6.7	底部	底部回転糸切り痕	やや密、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	58	甲府城下町遺跡	4号溝	陶器 土瓶			(6.0)	底部	内外面灰釉、外面下半無釉	密	
85	59	甲府城下町遺跡	4号溝	陶器 灰釉鉢	(32.5)			口縁～体部	瀬戸美濃系	粗	
85	60	甲府城下町遺跡	4号溝	土器 焙烙鍋	(33.0)	6.8	(30.2)	口縁～底部		やや粗、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	61	甲府城下町遺跡	4号溝	金属器 釘	残長6.70/幅0.53/厚0.60/重5.9g						
85	62	甲府城下町遺跡	4号溝	金属器 釘	残長6.17/幅0.66/厚0.65/重8.7g						
85	63	甲府城下町遺跡	4号溝	金属器 釘	残長5.76/幅0.52/厚0.55/重4.3g						
85	64	甲府城下町遺跡	4号溝	金属器 楔？	長5.45/幅1.25/厚0.76/重7.5g						

出土遺物観察表（9）

（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm）			部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
					口径	器高	底径				
85	66	甲府城下町遺跡	4号溝	金属器 釘	残長5.83/幅1.1/厚1.05/重17.5g						
85	66	甲府城下町遺跡	5号溝	磁器 香炉？				脚部	染付	密	
85	67	甲府城下町遺跡	1号土坑	磁器 小坏				口縁～体部	染付	緻密	
85	68	甲府城下町遺跡	1号土坑	磁器 碗			5.4	体部～底部	染付	密	
85	69	甲府城下町遺跡	1号土坑	金属器 釘	残長4.24/幅0.55/厚0.55/重3.2g						
85	70	甲府城下町遺跡	1号土坑	銭貨	径2.43/孔径0.60/厚0.11/重2.2g				寛永通宝		
85	71	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗	(7.5)	4.2	2.9	口縁～底部	染付	緻密	
85	72	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗			3.5	底部	染付、外面平花文、見込み寿文	緻密	
85	73	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗				口縁部	染付、外面草花文	緻密	
85	74	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗			3.8	底部	染付、見込み寿文	緻密	
85	75	甲府城下町遺跡	一括	磁器 皿			5.0	底部	染付、外面草花文、見込み松竹梅文	緻密	
85	76	甲府城下町遺跡	一括	磁器 蓋	つまみ径5.6			頂部	染付、外面蝋抜草、内面松竹梅文 朱字の書き込みあり	緻密	
85	77	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗	(11.3)			口縁～体部	瀬戸美濃系、内外面灰釉	密	
85	78	甲府城下町遺跡	一括	磁器 碗			(3.6)	体部～底部	瀬戸美濃系、内外面灰釉	密	
85	79	甲府城下町遺跡	一括	磁器 段重	(13.0)			口縁部	染付	緻密	
85	80	甲府城下町遺跡	一括	磁器 蓋	(6.2)			体部	染付	緻密	
85	81	甲府城下町遺跡	一括	陶器 片口				口縁部	瀬戸美濃系、内外面灰釉	密	
85	82	甲府城下町遺跡	一括	土器 かわらけ	9.2	1.7	6.7	口縁～底部	染付、外面草花文、内面松竹梅文 底部回転糸切り後ヘラナデ	緻密 やや密、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	83	甲府城下町遺跡	一括	土器 かわらけ	6.6	1.5	4.6	口縁～底部	底部回転糸切り痕	やや密、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
85	84	甲府城下町遺跡	一括	土器 かわらけ	6.2	1.1	5.0	口縁～底部	底部回転糸切り後ヘラナデ	やや密、赤色粒子 金雲母、長石、石英	
88	1	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 瓶	把手径3.6			把手～体部	染付、外面梅花文、内面「寿」字	緻密	
88	2	外中代遺跡	-括	磁器 碗			4.8	底部	染付	緻密	
88	3	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 碗				口縁部	染付	緻密	
88	4	外中代遺跡	一括	磁器 碗	8.2	4.6	3.0	口縁～底部	福助、外面梅花文	緻密	完形
88	5	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 碗	8.3	4.6	3.0	口縁～底部		緻密	
88	6	外中代遺跡	グリッド3	磁器 碗	5.9	2.6	2.4	口縁～底部	印判、福文	緻密	
88	7	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 碗				口縁～体部	肥前系染付、外面松樹文、内面四方草	緻密	
88	8	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 碗				口縁～体部	染付、外面草花文	緻密	
88	9	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 碗				体部	染付	緻密	
88	10	外中代遺跡	トレンチ2	陶器 灰釉碗	(10.7)	3.8	(4.3)	口縁～底部	瀬戸美濃系	密	
88	11	外中代遺跡	-括	陶器 尾呂茶碗				口縁部	天目	密	
88	12	外中代遺跡	トレンチ2	陶器 碗				口縁～体部	瀬戸美濃系	緻密	
88	13	外中代遺跡	グリッド3	陶器 碗				口縁部	瀬戸美濃系	緻密	
88	14	外中代遺跡	一括	磁器 皿	(13.2)	2.2	(7.3)	口縁～底部	瀬戸美濃系染錦	緻密	
88	15	外中代遺跡	一括	磁器 皿	(11.6)	2.2	(6.7)	口縁～底部		緻密	
88	16	外中代遺跡	グリッド2	磁器 皿				口縁～底部	瀬戸美濃系染錦	緻密	
88	17	外中代遺跡	グリッド2	磁器 皿				口縁部	肥前系染付	緻密	
88	18	外中代遺跡	トレンチ2	磁器 小坏				口縁～体部	肥前系染付	緻密	
88	19	外中代遺跡	グリッド2	陶器 建築					内面竜文	密	
88	20	外中代遺跡	グリッド3	陶器 鉄釉壺				体部	瀬戸美濃系	緻密	
88	21	外中代遺跡	一括	土器 鉢			(9.0)	底部	ロクロ成形、瓦質	やや粗、金雲母	
88	22	外中代遺跡	グリッド3	土器 焙烙	(23.0)	4.3	(22.5)	口縁～底部	内外面ロクロナデ	やや粗、金雲母	
88	23	外中代遺跡	トレンチ1	土器 火鉢	(28.5)			口縁～体部	内外面ロクロナデ、瓦質	長石、石英、金雲母	
88	24	外中代遺跡	トレンチ2	陶器 片口				注口部		緻密	
88	25	外中代遺跡	トレンチ2	須恵器 甕				胴部	外面叩き目	密、長石	
88	26	外中代遺跡	一括	石製	長2.15/幅2.05/厚1.12/重5.0g				水晶		
88	27	外中代遺跡	-括	木製品 箸	長21.3/厚0.5/幅0.7						
91	1	上尾遺跡	一括	土器 かわらけ	(11.9)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石、金雲母	
91	2	上尾遺跡	トレンチ5	土器 かわらけ	(8.3)	2.2	(4.4)	口縁～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、長石	
91	3	上尾遺跡	トレンチ3	土器 かわらけ			(6.9)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、長石 石英、金雲母	
91	4	上尾遺跡	トレンチ5	土器 かわらけ			(5.2)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、長石、金雲母	
91	5	上尾遺跡	トレンチ1	磁器 碗				口縁部	肥前系染付、外面唐手文	緻密	
91	6	上尾遺跡	トレンチ1	磁器 皿				底部	瀬戸美濃系	緻密	
91	7	上尾遺跡	一括	磁器 碗				体部	肥前系染付	緻密	
91	8	上尾遺跡	一括	磁器				口縁部	肥前系染付	緻密	
91	9	上尾遺跡	トレンチ6	陶器 香炉	(11.9)			口縁部		やや密	
91	10	上尾遺跡	トレンチ5	土器 焙烙				底部	糸切6条	やや密、長石、金雲母	
91	11	上尾遺跡	トレンチ5	土器 内耳鍋	(24.0)			口縁部	内外面ロクロナデ	やや密、長石、金雲母	
91	12	上尾遺跡	トレンチ5	土器 内耳鍋			(19.7)	底部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
93	1	中道西遺跡	-括	磁器 皿				底部	肥前系染付	緻密	
93	2	中道西遺跡	-括	青磁 皿				口縁部		緻密	
93	3	中道西遺跡	SD－3	土器 かわらけ			(5.8)	底部	ロクロ成形、瓦質化	やや密、長石	4と同一個体
93	4	中道西遺跡	SD－3	土器 かわらけ			(4.5)	底部	ロクロ成形、瓦質化	やや密、長石	3と同一個体
93	5	中道西遺跡	トレンチ2	土器 壺				胴部	内面ナデ、外面ハケ	やや密、長石	

出土遺物観察表（10）

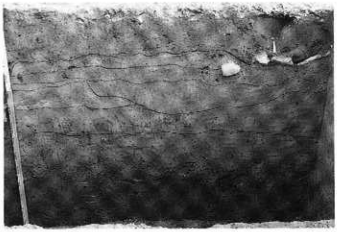
（ ）は推定値、残は残存部数値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量(cm) 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
93	6	中道西遺跡	一括	土器 鉢	(28.4)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	1	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ	(12.4)			口縁部	ロクロ成形	やや粗、長石、金雲母	
94	2	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ	(10.2)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
94	3	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ	(10.0)	1.6	(6.6)	口縁〜底部	内外面ナデ	やや粗、長石、金雲母	
94	4	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ			(4.0)	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや密、長石	
94	5	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ			(5.8)	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや粗、長石、金雲母	
94	6	西新地遺跡	Tr1−1	土器 かわらけ			(6.0)	底部	内外面ナデ	やや粗	
94	7	西新地遺跡	Tr1−1	青磁 碗				口縁部	鎬蓮弁文	やや粗	
94	8	西新地遺跡	Tr1−1	陶器 天目茶碗				体部		やや密	
94	9	西新地遺跡	Tr1−1	陶器 天目茶碗				体部	体部下半露胎	やや密、長石、石英	
94	10	西新地遺跡	Tr1−1	陶器 灰釉皿			(4.2)	底部	付高台	やや密	
94	11	西新地遺跡	Tr1−1	常滑 甕				胴部	内外面ナデ、自然釉	やや粗、長石	
94	12	西新地遺跡	Tr1−1	常滑 甕				胴部	ロクロ成形	やや粗、長石	
94	13	西新地遺跡	Tr1−1	常滑 甕				胴部	ロクロ成形、印き目、内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
94	14	西新地遺跡	Tr1−1	常滑 甕				胴部	ロクロ成形、自然釉	やや粗	
94	15	西新地遺跡	Tr1−1	陶器 甕				胴部	内外面ナデ、輪積痕	やや密、長石	
94	16	西新地遺跡	Tr1-1, Tr1-2	陶器 甕				胴部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	17	西新地遺跡	Tr1−1	土器 擂鉢	(27.0)			口縁部	ロクロ成形、櫛目4条	やや粗、長石	
94	18	西新地遺跡	Tr1−1	土器 擂鉢	(16.5)			口縁部	ロクロ成形、櫛目8条	やや粗、長石	
94	19	西新地遺跡	Tr1−1	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、輪積痕、櫛目7条	やや密、長石、石英	
94	20	西新地遺跡	Tr1−1	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ	やや密、長石	
94	21	西新地遺跡	Tr1−1	土器 擂鉢				底部	櫛目8条	やや粗、長石 石英、金雲母	
94	22	西新地遺跡	Tr1−1	土器 火鉢	(28.8)			口縁部	ロクロ成形	やや粗、長石	
94	23	西新地遺跡	Tr1−2	土師器 坏	(12.2)	2.6	(6.9)	口縁〜底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや粗	
94	24	西新地遺跡	Tr1−2	土器 かわらけ	(11.8)			口縁〜体部	ロクロ成形	やや粗、長石、石英	
94	25	西新地遺跡	Tr1−2	土器 かわらけ	(11.0)			口縁〜体部	内外面ナデ	やや粗、長石	
94	26	西新地遺跡	Tr1−2	土器 かわらけ			(5.5)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや粗、長石	
94	27	西新地遺跡	Tr1−2	陶器 天目茶碗				体部	体部下半露胎	やや密	
94	28	西新地遺跡	Tr1−2	陶器 碗				体部	ロクロ成形	やや粗	
94	29	西新地遺跡	Tr1−2	陶器 皿	(12.8)			口縁部	ロクロ成形、内外面口縁部施釉	やや密	
94	30	西新地遺跡	Tr1−2	陶器 皿			(4.0)	底部	ロクロ成形、付高台	やや密	
94	31	西新地遺跡	Tr1−2	土器 鍋				把手	ナデ、内面黒色	やや粗、長石、金雲母	
94	32	西新地遺跡	Tr1−2	土器 鍋			(18.2)	底部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
94	33	西新地遺跡	Tr2	土器 かわらけ	(11.8)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	34	西新地遺跡	Tr2	土器 皿	(9.8)			口縁部	内外面ナデ、外面指頭痕	やや密、長石、石英	
94	35	西新地遺跡	Tr2	土器 かわらけ	(12.0)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	36	西新地遺跡	Tr2	土器 かわらけ	(8.0)	1.8	(5.0)	口縁〜底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや密	
94	37	西新地遺跡	Tr2	陶器 灰釉皿			(4.0)	底部	付高台	やや密	
94	38	西新地遺跡	Tr2	常滑 甕				胴部	内外面ナデ	やや密、長石	
94	39	西新地遺跡	Tr2	土器 鍋			(25.6)	底部	内外面ナデ	やや密、長石	
94	40	西新地遺跡	Tr2	土器 擂鉢			(13.2)	底部	内外面ナデ、櫛目9条	やや密、長石、金雲母	
94	41	西新地遺跡	Tr2	土器 鉢	(30.2)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	42	西新地遺跡	Tr3	土器 かわらけ			(9.0)	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや密、長石	
94	43	西新地遺跡	Tr3	土器 かわらけ	(11.0)			口縁部	ロクロ成形	やや粗、長石、金雲母	
94	44	西新地遺跡	Tr3	陶器 灰釉皿			(5.8)	底部	ロクロ成形、印花文、付高台	やや密	
94	45	西新地遺跡	Tr3	土器 鉢				体部	内外面ナデ	やや密、長石	
94	46	西新地遺跡	Tr3	陶器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目5条	やや密、長石	
94	47	西新地遺跡	Tr3	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目9条、指頭痕	やや密、長石、金雲母	
94	48	西新地遺跡	Tr3	土器 擂鉢				底部	櫛目5条	やや密、長石	
94	49	西新地遺跡	Tr3	土器 焙烙？	(20.4)			口縁部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや密、長石、金雲母	
94	50	西新地遺跡	Tr3	土器 焙烙？	(32.0)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
94	51	西新地遺跡	Tr3	磁器 碗				口縁部	染付	緻密	
96	52	西新地遺跡	Tr4	土器 かわらけ	(10.9)	2.0	(5.5)	口縁〜底部	ロクロ成形	やや密、長石、石英	
95	53	西新地遺跡	Tr4	土器 かわらけ			(6.8)	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕	やや密、長石、金雲母	
95	54	西新地遺跡	Tr4	土器 かわらけ			(5.8)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、長石	
95	55	西新地遺跡	Tr4	陶器 碗	(16.9)			口縁部	ロクロ成形	密、長石	
95	56	西新地遺跡	Tr4	陶器 灰釉折縁皿	(11.0)	2.3	(5.4)	口縁〜底部	ロクロ成形、付高台	密	
95	57	西新地遺跡	Tr4	陶器 皿			(5.8)	底部	ロクロ成形	密	
95	58	西新地遺跡	Tr4	陶器 皿			(6.2)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	密、金雲母	
95	59	西新地遺跡	Tr4	常滑 甕				胴部	内外面ナデ、輪積痕	やや密、長石	
95	60	西新地遺跡	Tr4	土器 鉢				口縁部	瓦質化、内外面ナデ、輪積痕	やや密、長石	
95	61	西新地遺跡	Tr4	土器 鉢	(25.7)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
95	62	西新地遺跡	Tr4	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目10条	やや粗、長石、金雲母	
95	63	西新地遺跡	Tr4	銭貨	径2.44/孔径0.53/厚0.25/重2.9g				寛永通宝		
95	64	西新地遺跡	TP2−2	陶器 天目茶碗	(9.8)			口縁部		やや密	
95	65	西新地遺跡	TP2−3	土器 甕	(23.7)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、石英	
95	66	西新地遺跡	TP2−4	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目8条	やや密、長石	
95	67	西新地遺跡	TP2−5	陶器 碗	(15.8)			口縁部		密	
95	68	西新地遺跡	TP2−5	土器 かわらけ			(6.0)	底部	ロクロ成形	やや密	

出土遺物観察表（11）

（　）は推定値、残は残存部数値

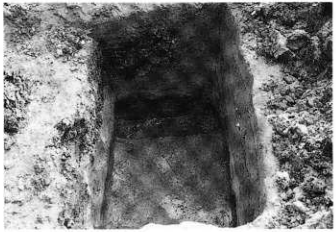
図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量（cm） 口径	器高	底径	部位	観察所見（成形・調整・文様・時代等）	胎土	備考
95	69	西耕地遺跡	TP2－5	石製品 砥石	残長5.9/幅3.5/厚2.4/重78.7g						
95	70	西耕地遺跡	TP7	土器 内耳鍋	(26.7)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
95	71	西耕地遺跡	TP7	土師 鍋	(26.0)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
95	72	西耕地遺跡	TP7	瓦 平瓦	厚1.4				内面布目痕		
95	73	西耕地遺跡	TP8	土師 かわらけ	(10.4)	3.3	(5.2)	口縁～底部	内外面ナデ	やや密、長石 金雲母、赤色粒子	
95	74	西耕地遺跡	TP8	土師 かわらけ			(5.2)	底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、金雲母	
95	75	西耕地遺跡	TP8	陶器 碗	(10.8)			口縁部		やや密	
95	76	西耕地遺跡	TP8	陶器 碗				体部	ロクロ成形	密	
95	77	西耕地遺跡	TP8	陶器 瓶	(10.0)			口縁部	内面長石釉、外面鉄釉	密	
95	78	西耕地遺跡	TP8	土器 擂鉢				体部	内外面ナデ、櫛目10条	やや密、長石、金雲母	
95	79	西耕地遺跡	TP8	陶器 盤	(5.0)			体部		密	
95	80	西耕地遺跡	TP8	常滑 壺				胴部	内面ナデ、輪積痕、指頭痕	やや密	
95	81	西耕地遺跡	TP8	土器 鍋			(22.7)	底部	内外面ナデ、外面スス付着	密、長石、金雲母	
95	82	西耕地遺跡	TP8	磁器 碗				体部	染付	緻密	
95	83	西耕地遺跡	TP8	磁器 瓶				体部	染付	緻密	
95	84	西耕地遺跡	TP8	磁器 碗				体部	染付、焼離ぎ痕	緻密	
95	85	西耕地遺跡	大釈地1441	土器 かわらけ	8.7	2.4	4.4	口縁～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや粗、金雲母	
95	86	西耕地遺跡	大釈地1441	土器 かわらけ			7.3	体部～底部	ロクロ成形、底部回転糸切り痕	やや密、金雲母	
95	87	西耕地遺跡	大釈地1441	土器 かわらけ	(12.5)			口縁～体部		やや密	
95	88	西耕地遺跡	大釈地1441	磁器 碗				口縁部	染付	緻密	
95	89	西耕地遺跡	大釈地1441	磁器 碗				口縁部	染付	緻密	
95	90	西耕地遺跡	大釈地1441	陶器 志野皿			(6.7)	底部	瀬戸美濃系、鉄釉	やや粗	
95	91	西耕地遺跡	大釈地1441	土器 擂鉢				体部		やや密、長石、赤色粒子	
97	1	八幡東遺跡	Aグリッド	陶器 黒釉碗				体部	瀬戸美濃系	密	
97	2	八幡東遺跡	Aグリッド	縄文土器 深鉢				胴部	五領ヶ台式	やや密、長石	
101	1	八幡東遺跡	トレンチ1	陶器 天目碗				体部	瀬戸美濃系	密、長石	
101	2	八幡東遺跡	トレンチ2	土器 かわらけ			(4.8)	底部	ロクロ成形、内外面ナデ	やや密、長石 赤色粒子	
101	3	八幡東遺跡	トレンチ2	土器 かわらけ			(5.0)	底部	ロクロ成形、内外面ナデ	やや密、長石	
101	4	八幡東遺跡	トレンチ2	土師器 壺	(18.2)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
101	5	八幡東遺跡	トレンチ2	土師器 甕	(14.0)			口縁部	内面ハケ、外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
101	6	八幡東遺跡	トレンチ2	土師器 甕				胴部	内面ナデ、外面ハケ	やや密	
101	7	八幡東遺跡	トレンチ2	縄文土器 深鉢				胴部		やや密、長石 石英、金雲母	
107	1	本郷遺跡	一括	土師器 甕				口縁部	内面ハケ	やや密、長石、金雲母	
107	2	本郷遺跡	一括	土師器 甕				胴部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
107	3	本郷遺跡	一括	土師器 壺				胴部	内外面ハケ・ナデ	やや密、長石 赤色粒子	
107	4	本郷遺跡	一括	土師器 甕				胴部	内面ナデ、外面ハケ、五貨化	やや密	
112	1	緑ヶ丘一丁目遺跡	ピット	土師器 甕	(15.8)			口縁部	S字甕、口縁部内外面ナデ、外面ハケ	やや密、長石 石英、金雲母	
112	2	緑ヶ丘一丁目遺跡	ピット2	土師器 壺				頸部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
112	3	緑ヶ丘一丁目遺跡	ピット1	土師器 高坏			(11.7)	脚部	内面ハケ、外面ナデ	やや密、長石	
112	4	緑ヶ丘一丁目遺跡	ピット1	土器 壺				胴部	内面ナデ、輪積痕、外面ハケ	やや密、長石 石英、金雲母	
117	1	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 器台				体部	外面ナデ、内面ミガキ・赤彩	やや密、長石	
117	2	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 高坏				体部	外面ナデ、内面ミガキ	やや密、長石	
117	3	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 高坏				体部	外面ナデ、内面ハケ後ナデ	やや密	
117	4	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 高坏	(11.8)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石	
117	5	緑ヶ丘二丁目遺跡	SD－4	緑釉陶器 碗	(11.8)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
117	6	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	灰釉陶器 碗	(12.9)			口縁部	ロクロ成形	やや密、長石	
117	7	緑ヶ丘二丁目遺跡	ピット1	土師器 坏	(10.8)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石、金雲母	
117	8	緑ヶ丘二丁目遺跡	SD－6	土器	(7.0)			口縁部	外面爪痕2条、爪形文	やや密、長石	
117	9	緑ヶ丘二丁目遺跡	SD－3	土師器 壺	(15.8)			口縁部	内外面ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
117	10	緑ヶ丘二丁目遺跡	SD－2	土師器 壺				胴部	内外面ハケ	やや密、長石 石英、金雲母	
117	11	緑ヶ丘二丁目遺跡	SD－3	灰釉陶器 壺				胴部	外面ハケ、内面ナデ	やや密、長石	
117	12	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	須恵器 甕				胴部	外面叩き目、内面ナデ、瓦質化	やや密	
117	13	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 甕	(12.0)			口縁部	外面ナデ、内面ハケ後ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
117	14	緑ヶ丘二丁目遺跡	一括	土師器 甕	(25.7)			口縁部	外面ナデ、内面ハケ後ナデ	やや密、長石 石英、金雲母	
120	1	緑ヶ丘二丁目遺跡	Aグリッド	土師器 坏			(5.0)	底部	内外面ナデ	やや密	
120	2	緑ヶ丘二丁目遺跡	Bグリッド	陶器 土瓶	(5.6)			口縁部	内面鉄釉、外面緑釉	やや密	
123	1	山路遺跡	一括	土師器 甕				口縁部		やや密、長石、金雲母	
123	2	山路遺跡	一括	陶器 碗				口縁部		密	



1 朝気遺跡（調査状況）

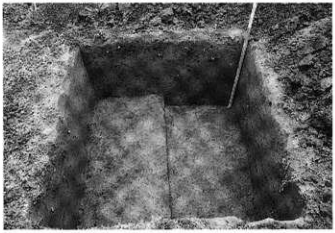
4 大坪遺跡（調査地点）

5 落合氏館跡

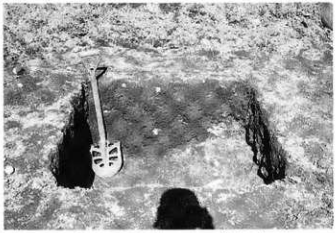


4 大坪遺跡（TP-1 調査状況）

5 落合氏館跡（調査状況）



5 落合氏館跡（TP-B 調査状況）



6 吉沢A遺跡（TP-1 調査状況）

6 吉沢A遺跡（TP-2 調査状況）

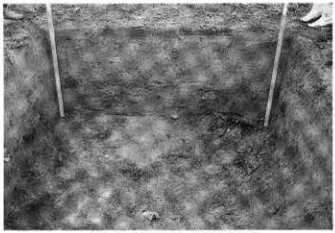
7 甲府城跡（調査状況）

7 甲府城跡（G－1調査状況）

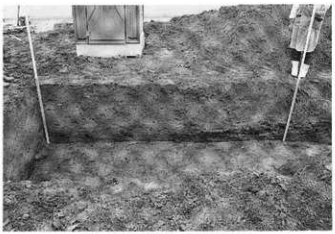
7 甲府城跡（G－2調査状況）

8 甲府城跡（石垣検出状況）

10 小瀬氏館跡（調査地点）



10 小瀬氏館跡（調査状況）

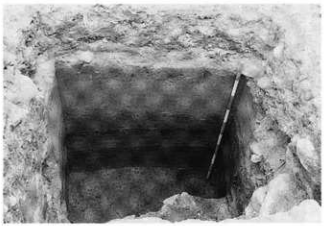


10 小瀬氏館跡（調査地点）

12 八幡神社遺跡（G－1調査状況）

17 山之神遺跡(調査地点)

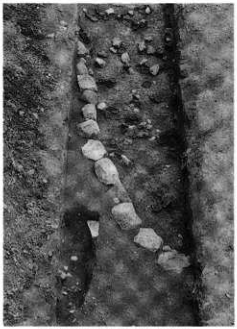
17 山之神遺跡(調査状況)



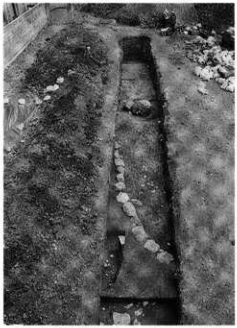
19 朝気遺跡(TP-1 調査状況)

19 朝気遺跡(TP-2 調査状況)

26 甲府城跡(調査状況)



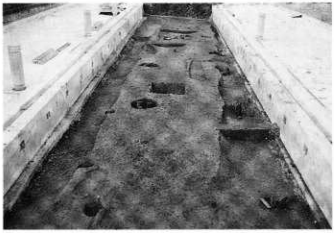
26 甲府城跡(調査状況)



26 甲府城跡(トレンチ完掘状況)

27 甲府城下町遺跡（調査状況）

27 甲府城下町遺跡（遺物出土状況）



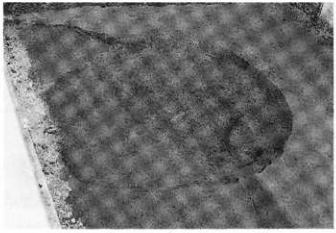
32 甲府城下町遺跡

32 甲府城下町遺跡（SD-1 遺物出土状況）

32 甲府城下町遺跡（SD-1 遺物出土状況）

32 甲府城下町遺跡（SD-1 土層堆積、遺物出土状況）

32 甲府城下町遺跡（SD-4 遺物出土状況）



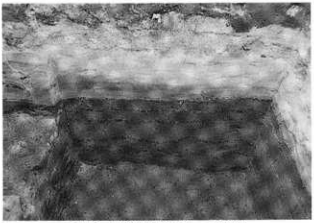
32 甲府城下町遺跡（1 号土坑）

32 甲府城下町遺跡(1号Pit)

32 甲府城下町遺跡(調査状況)

34 外中代遺跡(調査地点)

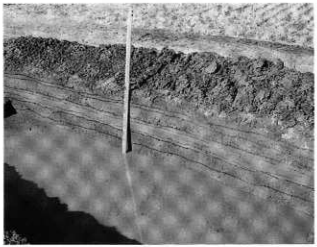
34 外中代遺跡(石積み検出状況)



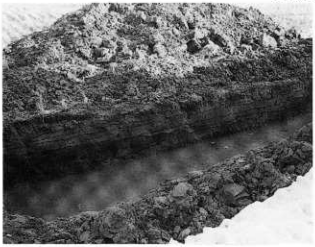
34 外中代遺跡(グリッド2)

34 外中代遺跡(石列、礎石検出状況)

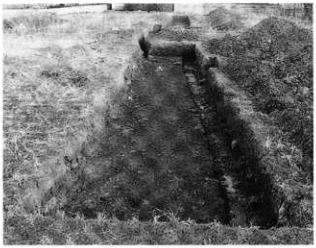
35 土尻遺跡(調査地点)



35 土尻遺跡(第4トレンチ)



35 土尻遺跡(第5トレンチ)

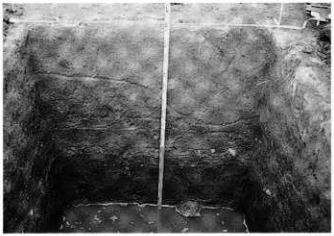


36 中道西遺跡(調査状況)

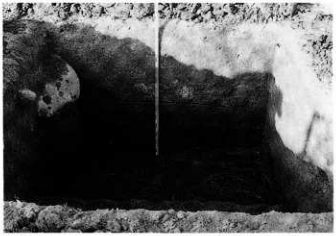
36 中道西遺跡(調査状況)

44 緑ヶ丘一丁目遺跡(Pit1)

44 緑ヶ丘一丁目遺跡(調査状況)



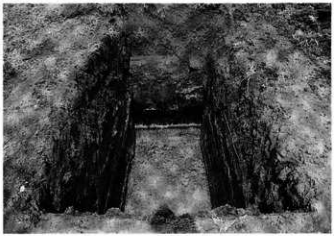
47 緑ヶ丘二丁目遺跡（Aグリッド）



47 緑ヶ丘二丁目遺跡（Bグリッド）

50 横根セレモニーホール遺跡（調査状況）

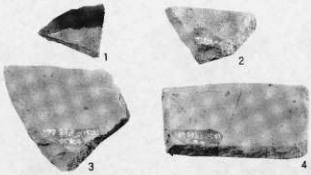
50 横根セレモニーホール遺跡（Tr−7）



50 横根セレモニーホール遺跡（Tr−8）

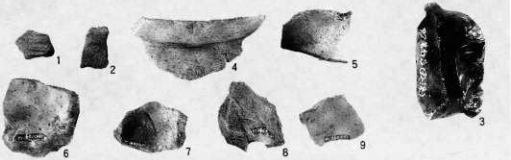
1 朝気遺跡

2 朝気遺跡

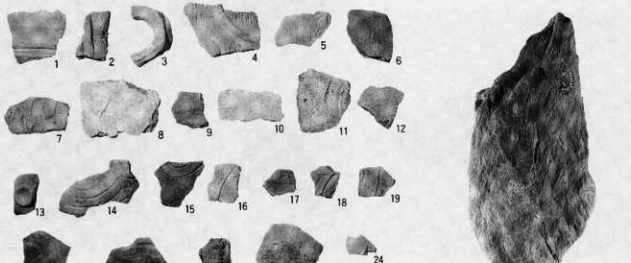


4 大坪遺跡

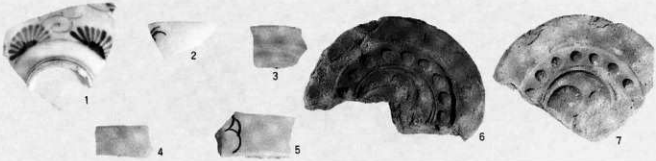
5 落合氏館跡



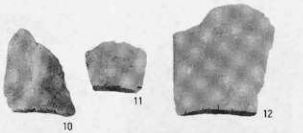
6 吉沢A遺跡

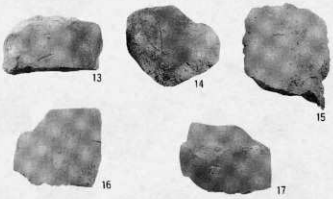


7 甲府城跡



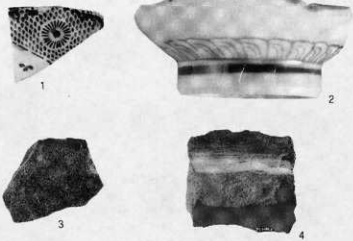
7 甲府城跡



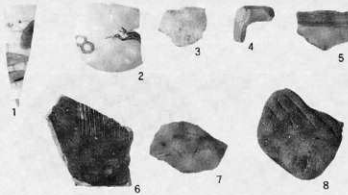


8 甲府城跡

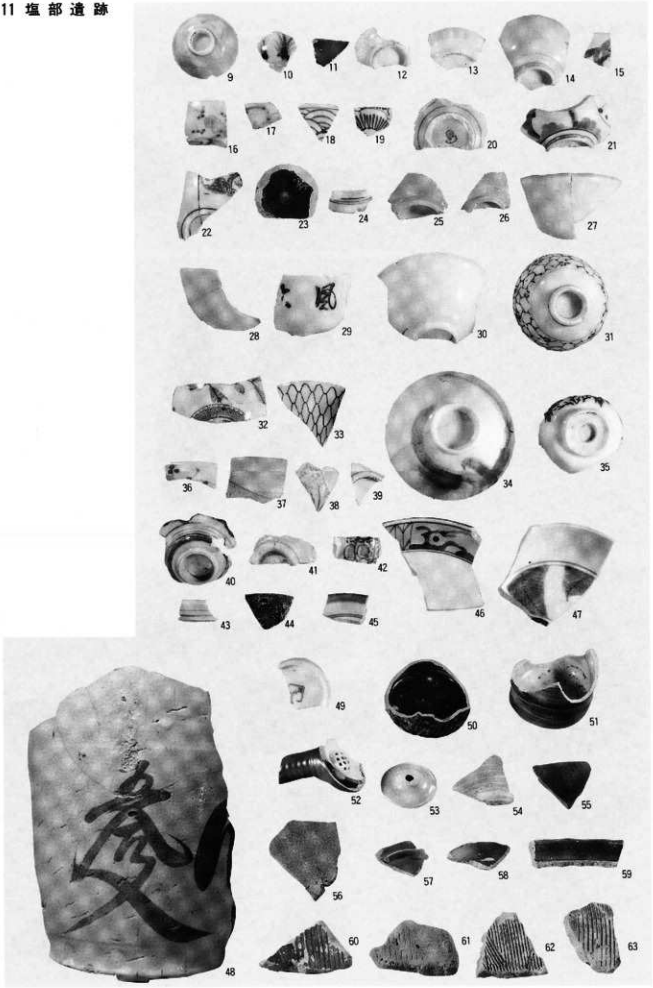
10 小瀬氏館跡



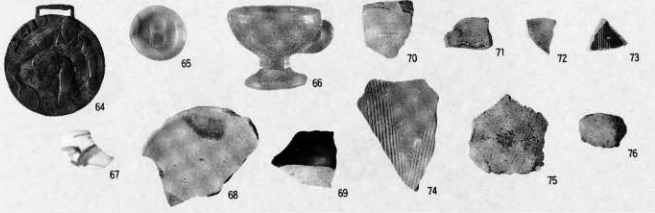
11 塩部遺跡



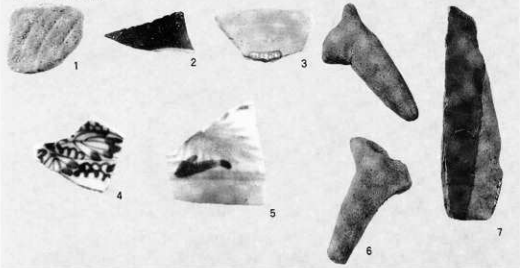
11 塩部遺跡


9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63

11 塩部遺跡

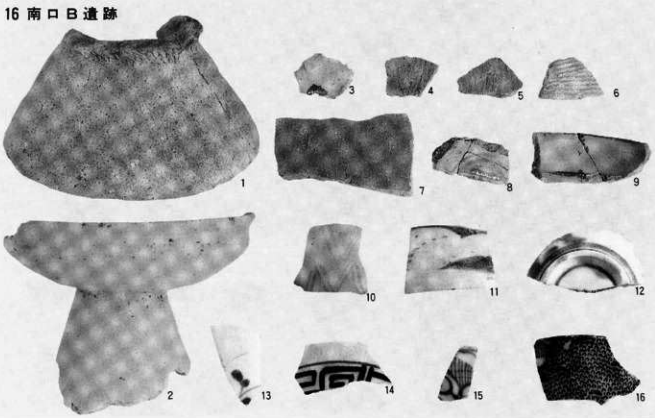


13 古宮遺跡



14 緑ヶ丘二丁目遺跡

16 南口B遺跡



16 南口B遺跡

17

18

19

20

21

22

23

24

27

28

29

25

26

17 山之神遺跡

1

2

4

3

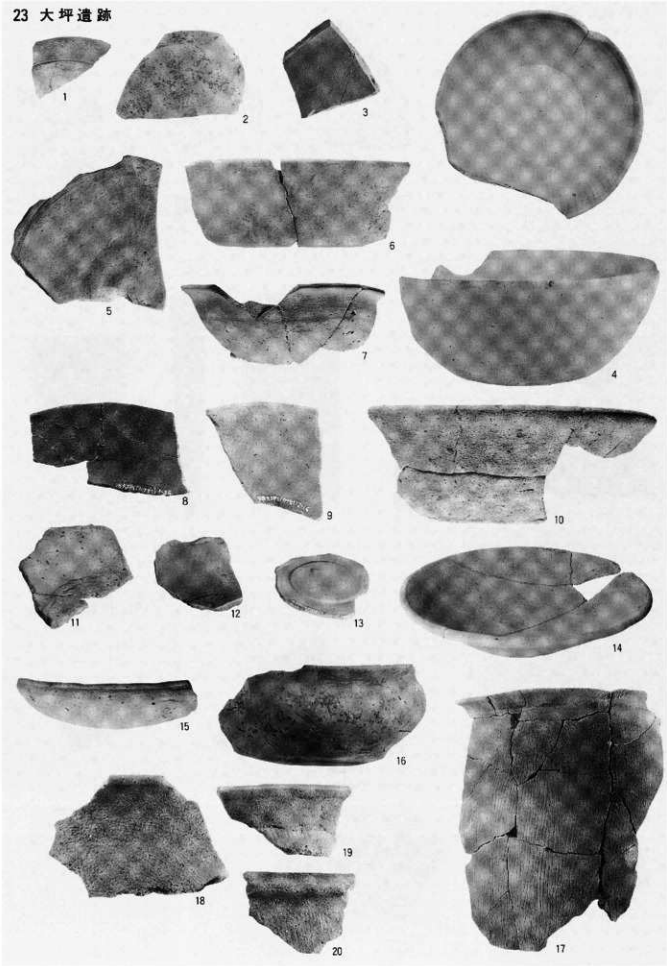
5

21 榎田遺跡

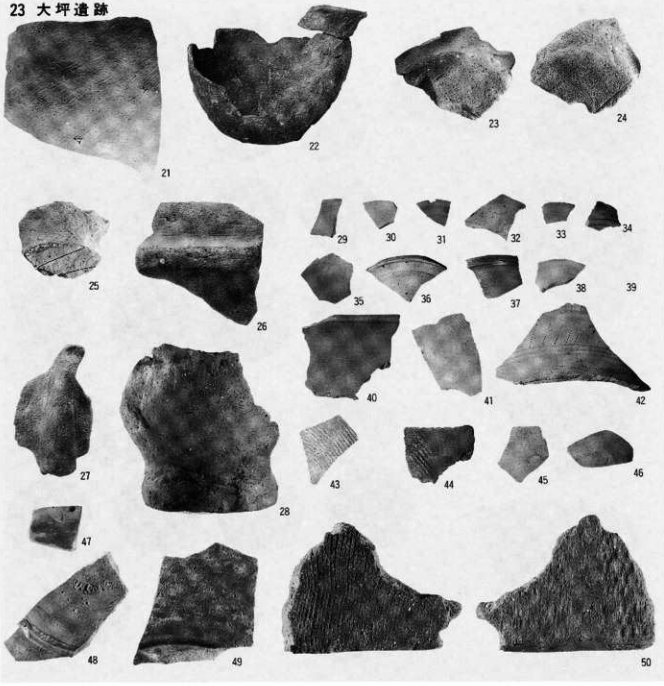
1

2

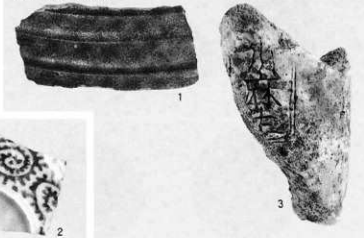
23 大坪遺跡



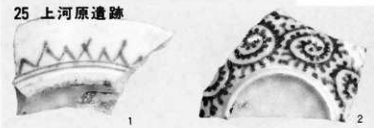
23 大坪遺跡



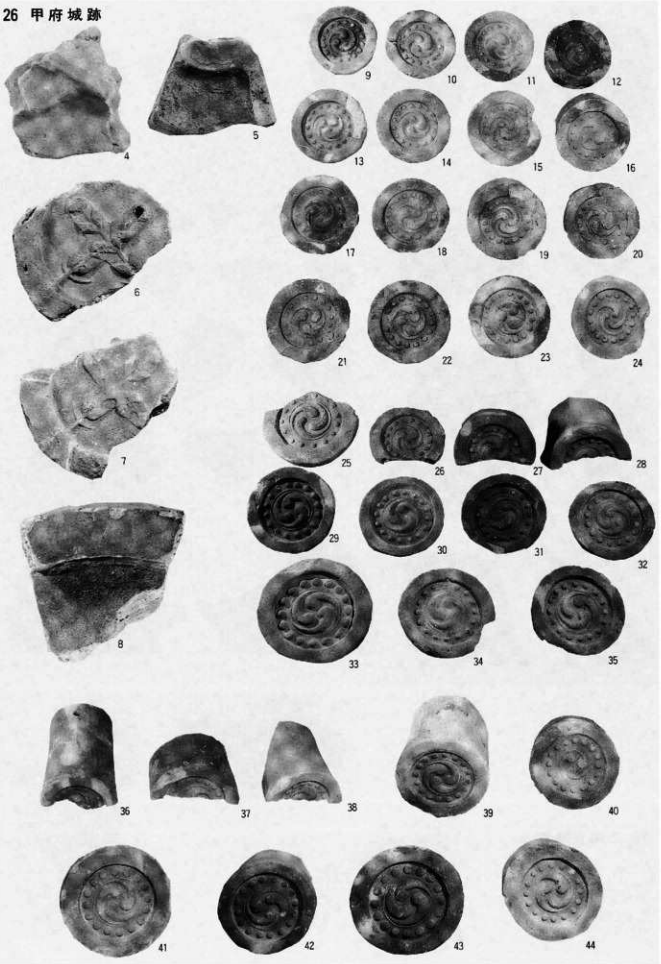
26 甲府城跡



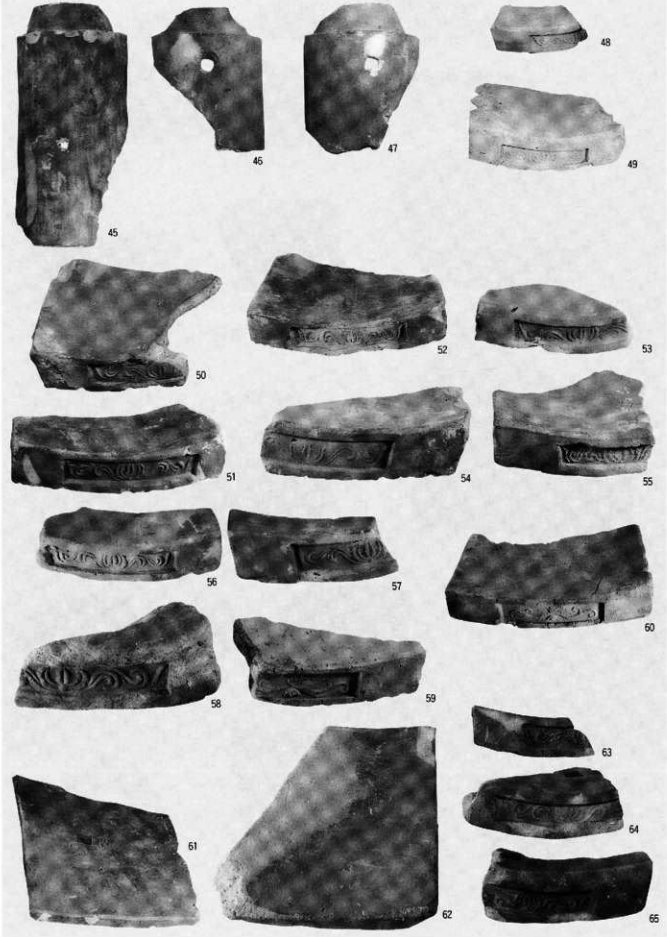
25 上河原遺跡



26 甲府城跡


4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

26 甲府城跡



26 甲府城跡

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

27 甲府城下町遺跡

1

2

3

4

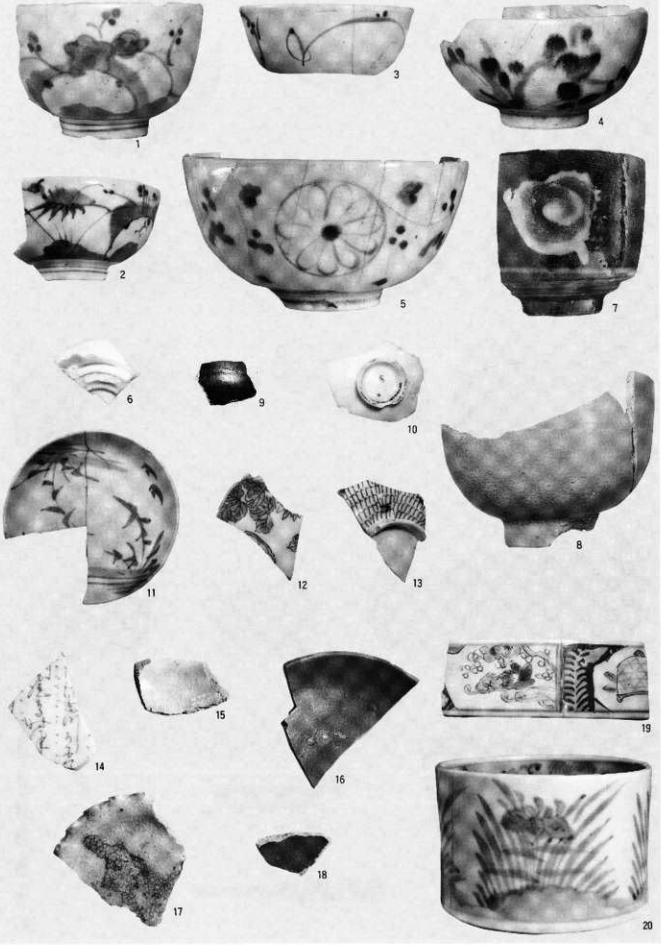
6

5

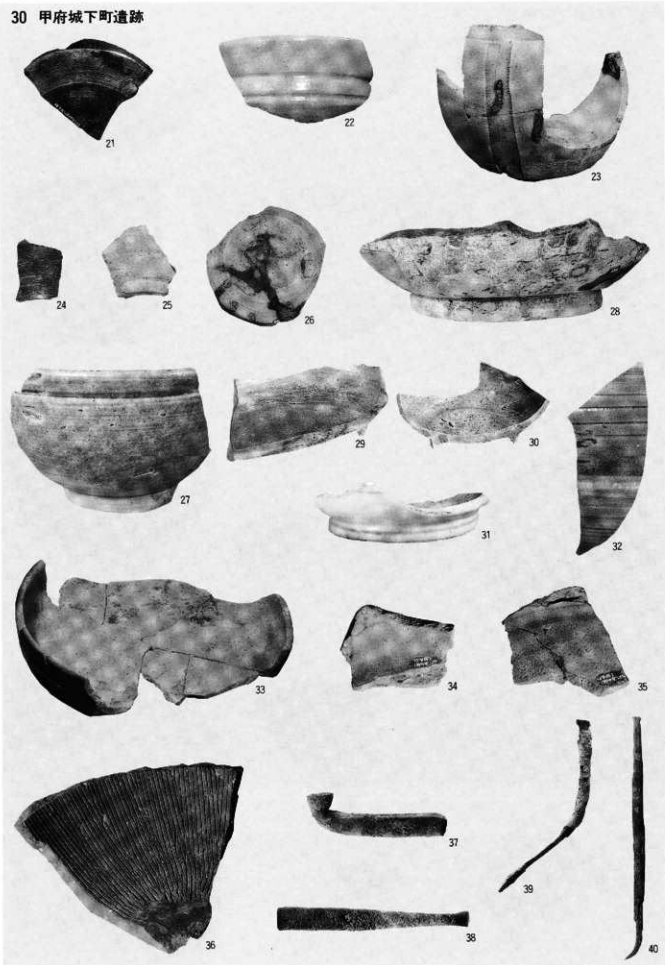
7

8

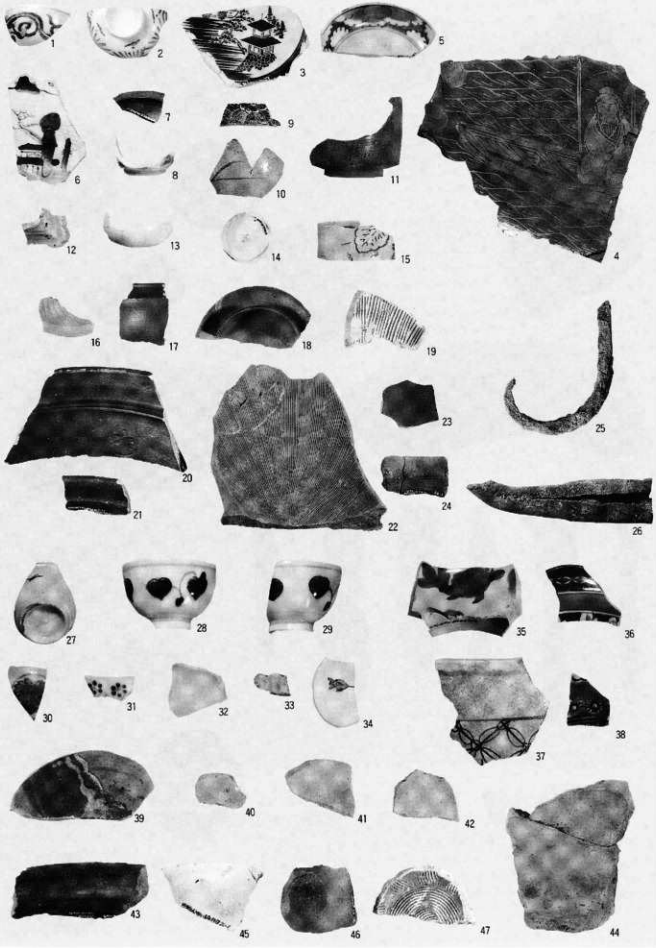
30 甲府城下町遺跡



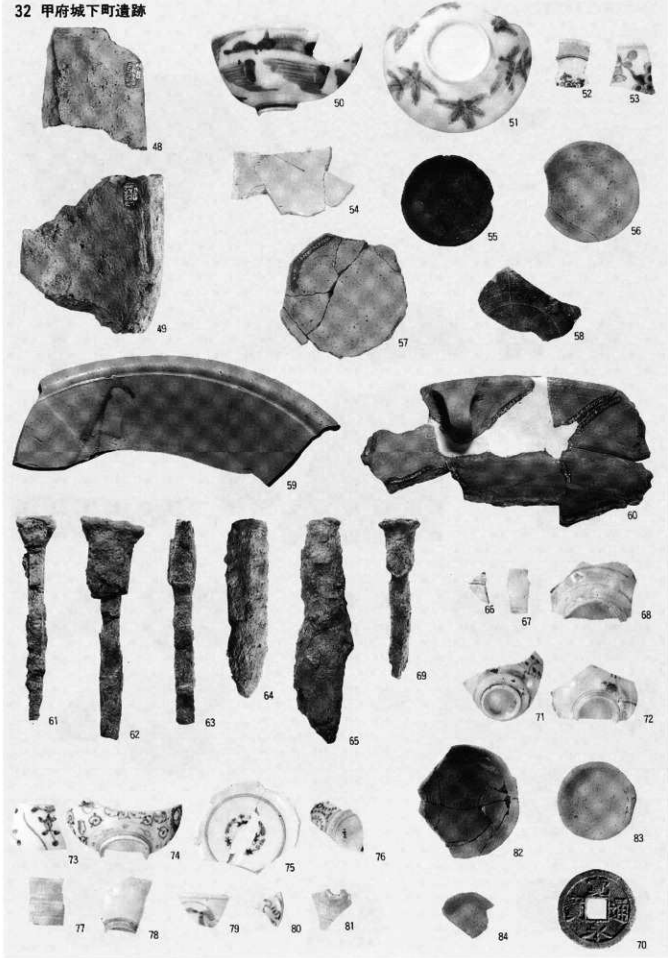
30 甲府城下町遺跡



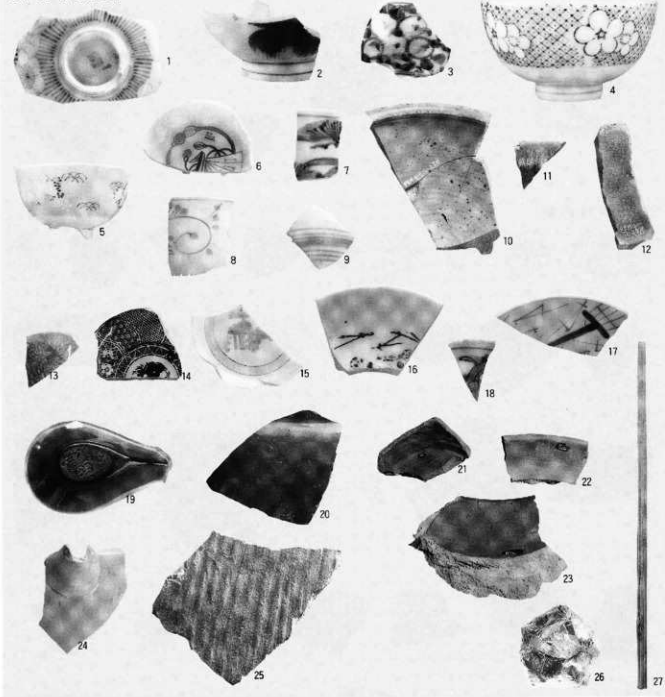
32 甲府城下町遺跡


1
2
3
5
6
7
9
8
10
11
4
12
13
14
15
16
17
18
19
20
23
25
21
22
24
26
27
28
29
35
36
30
31
32
33
34
37
38
39
40
41
42
43
45
46
47
44

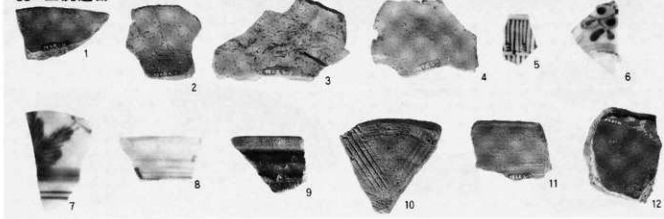
32 甲府城下町遺跡


48
50
51
52
53
54
55
56
49
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
71
72
73
74
75
76
82
83
77
78
79
80
81
84
70

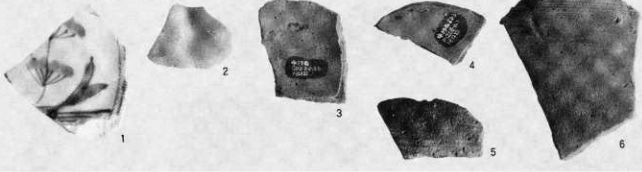
34 外中代遺跡



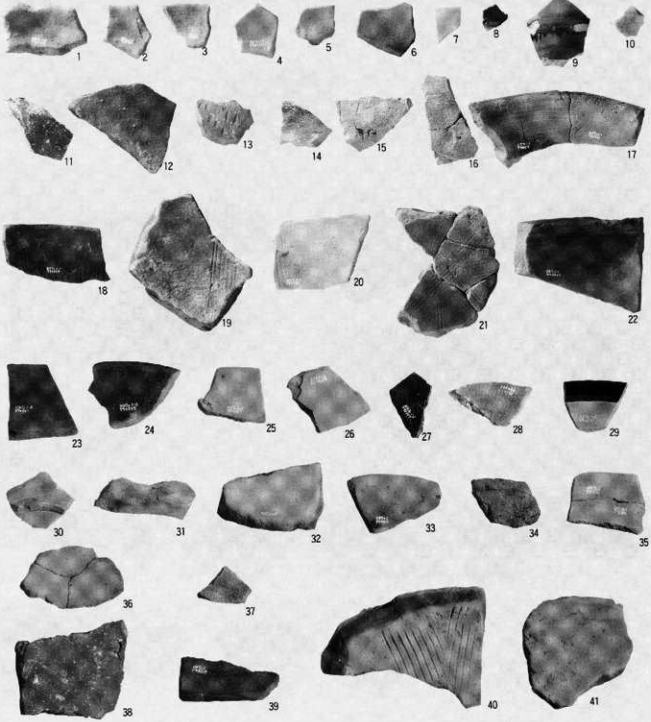
35 土尻遺跡



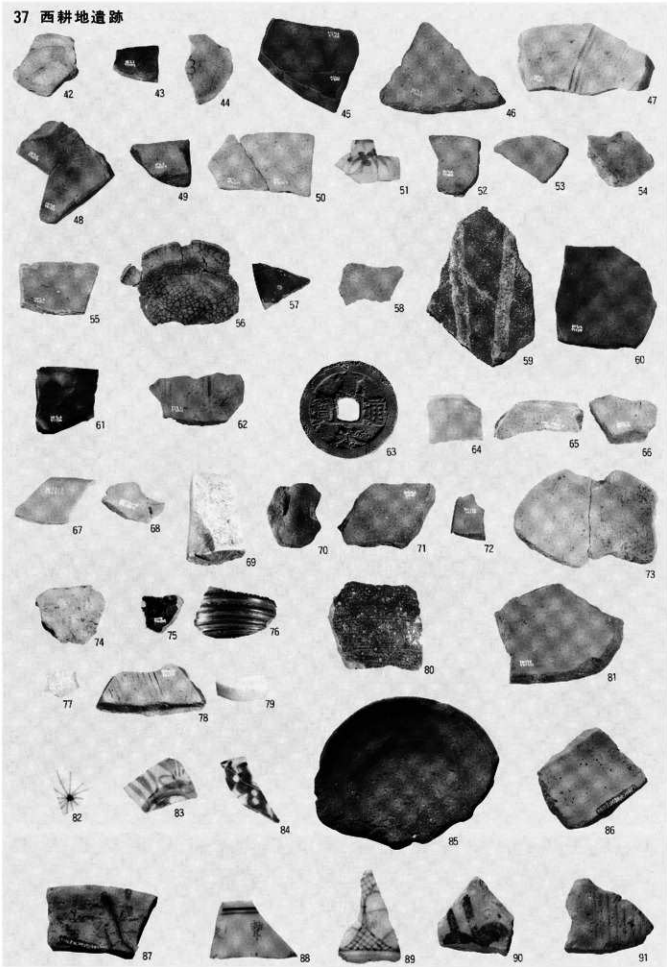
36 中道西遺跡



37 西耕地遺跡

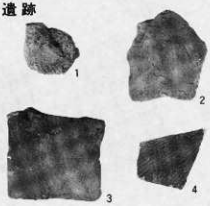


37 西耕地遺跡

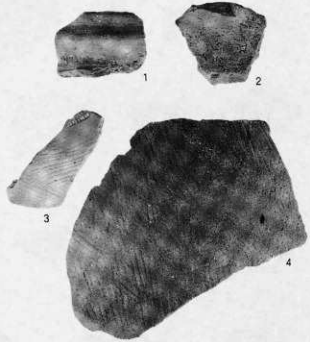

42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
80
81
77
78
79
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91

38 八幡東遺跡

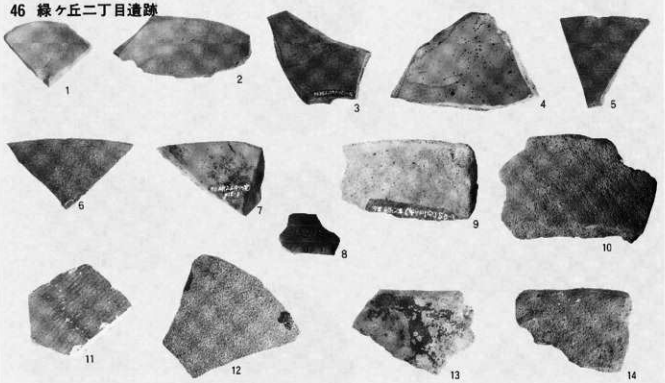
41 本郷遺跡



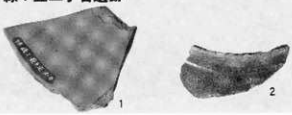
44 緑ケ丘一丁目遺跡



46 緑ケ丘二丁目遺跡



47 緑ケ丘二丁目遺跡



49 山路遺跡

報告書抄録

ふりがな	こうふしないいせき　4
書名	甲府市内遺跡 Ⅳ
副書名	平成９～10年度試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	35
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号　電話055(223)7324
発行年月日	平成19年３月30日

番号	フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地 種別	主な時代	コード 市町村	遺跡番号 主な遺構	北緯	東経	調査期間 調査面積 主な遺物	調査原因 特記事項
1	アサケ 朝気遺跡	コウフ シアサケサンチョウメ 甲府市朝気三丁目145		19201	121	35° 38′ 51″	138° 34′ 59″	H9.5.12～5.13 10㎡	共同住宅建設
		散布地	縄文～平安		－	土師器			
2	アサケ 朝気遺跡	コウフ シアサケサンチョウメ 甲府市朝気三丁目74-2		19201	121	35° 38′ 52″	138° 35′ 03″	H9.12.15 8㎡	個人住宅建設
		散布地	縄文～平安		－	陶器・かわらけ			
3	エノキダ 榎田遺跡	コウフ シ チブカ ゴチョウメ 甲府市千塚五丁目3086-1		19201	17	35° 41′ 00″	138° 32′ 25″	H9.8.25～8.27 8㎡	個人住宅建設
		散布地	弥生～平安		－	－			
4	オオツボ 大坪遺跡	コウフシヨコネチョウアザタンタ 甲府市横根町字反田458-2,460-2		19201	149	35° 39′ 07″	138° 37′ 00″	H9.10.1～10.6 3.7㎡	個人住宅建設
		生産遺跡	古墳～平安		－	土師器・須恵器			
5	オチアイシヤカタ 落合氏館跡	コウフシタダマチョウアザイチノツボ 甲府市国玉町字一ノ坪1085		19201	209	35° 38′ 44″	138° 35′ 55″	H9.4.14～4.16 6㎡	個人住宅増築
		城館跡	中世		－	縄文土器・土師器・かわらけ・石器			
6	キッサワ 吉沢Ａ遺跡	コウフシヒラセチョウヒラセ 甲府市平瀬町平瀬933		19201	－	35° 42′ 55″	138° 32′ 37″	H10.3.2～3.9 5㎡	個人住宅建設
		散布地	縄文		－	縄文土器・石器			
7	コウフジョウ 甲府城跡	コウフ シマルノウチイッチョウメ 甲府市丸の内一丁目573,580,581		19201	115	35° 39′ 47″	138° 34′ 24″	H9.5.7～5.8 42㎡	ホテル増築
		城館跡	近世		－	磁器・瓦			
8	コウフジョウ 甲府城跡	コウフ シマルノウチイッチョウメ 甲府市丸の内一丁目106		19201	115	35° 39′ 44″	138° 34′ 17″	H9.9.10～12.19 48.6㎡	店舗建設
		城館跡	近世		－	瓦			
9	コウフジョウ 甲府城跡	コウフ シマルノウチイッチョウメ 甲府市丸の内一丁目562-2他		19201	115	35° 39′ 48″	138° 34′ 24″	H9.10.6～10.29 120㎡	駐輪場建設
		城館跡	近世		－	陶磁器・瓦			
10	コセシヤカタ 小瀬氏館跡	コウフ シコセマチアザキタヤシキ 甲府市小瀬町字北屋敷598-1		19201	227	35° 37′ 22″	138° 34′ 54″	H9.12.9 33㎡	個人住宅建設
		城館跡	中世		－	陶磁器・土師器			
11	シオベ 塩部遺跡	コウフ シタカライッチョウメ 甲府市宝一丁目50-1他		19201	74	35° 39′ 56″	138° 33′ 52″	H9.12.16～H10.1.21 174㎡	共同住宅建設
		散布地	弥生～平安		－	陶磁器・土器・木製品			
12	ハチマンジンジャ 八幡神社遺跡	コウフ シミヤマエチョウ 甲府市宮前町6-41		19201	242	35° 40′ 13″	138° 34′ 46″	H9.4.8～4.9 6.75㎡	個人住宅建設
		散布地	縄文		－	－			

番号	フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
		種別 主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
13	フルミヤ 古宮遺跡	コウフシチュウショウジマチ 甲府市長松寺町759-1他	19201	—	35° 39′ 43″	138° 32′ 35″	H9.5.19～5.27 200㎡	市民センター建設
		— —		—	陶磁器・土師器・かわらけ・土製品・石製品			
14	ミドリガオカニチョウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘二丁目897-6,-12,-13	19201	42	35° 40′ 46″	138° 33′ 57″	H9.5.26 7.02㎡	個人住宅建設
		散布地 古墳～平安		—	陶器・土師器			
15	ミドリガオカニチョウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウフシワダョウアザミナミチ 甲府市和田町字水口741-1他	19201	42	35° 40′ 49″	138° 33′ 50″	H9.12.16～H10.1.16 24㎡	共同住宅建設
		散布地 古墳～平安		—	陶磁器・土師器・須恵器・金属製品			
16	ミナミグチ 南口B遺跡	コウフシミナミグチマチ 甲府市南口町652-7他	19201	193	35° 38′ 31″	138° 34′ 55″	H9.6.9～7.15 300㎡	集会所建設
		散布地 平安		—	陶磁器・土師器・須恵器・かわらけ			
17	ヤマノカミ 山之神遺跡	コウフシヤマミヤチョウアザミヤ オネ 甲府市山宮町字宮ノ尾根2903	19201	2	35° 32′ 11″	138° 41′ 25″	H10.3.23 8㎡	個人住宅建設
		城館跡 中世		—	陶磁器			
18	アサケ 朝気遺跡	コウフ シ アサケサンチョウメ 甲府市朝気三丁目237,238	19201	121	35° 38′ 46″	138° 35′ 11″	H10.8.18 26㎡	店舗増築
		散布地 縄文～平安		—	—			
19	アサケ 朝気遺跡	コウフ シ アサケサンチョウメ 甲府市朝気三丁目281-1	19201	121	35° 38′ 48″	138° 35′ 03″	H11.2.2～2.4 8㎡	倉庫建設
		散布地 縄文～平安		—	—			
20	イチョウノキ 銀杏之木遺跡	コウフ シトウコウジニチョウメ 甲府市東光寺二丁目310-1,-3	19201	122	35° 39′ 40″	138° 35′ 31″	H10.9.30～10.7 8㎡	集合住宅建設
		散布地 平安～近世		—	—			
21	エノキダ 榎田遺跡	コウフ シ テブカゴチョウメ 甲府市千塚五丁目2792-1	19201	17	35° 41′ 02″	138° 32′ 34″	H10.6.1～6.5 4㎡	個人住宅増築
		散布地 弥生～平安		—	土師器			
22	エノキダ 榎田遺跡	コウフ シ テブカゴチョウメ 甲府市千塚五丁目2980	19201	17	35° 40′ 58″	138° 32′ 30″	H10.6.11 4㎡	個人住宅建設
		散布地 弥生～平安		—	—			
23	オオツボ 大坪遺跡	コウフ シ ヨコネチョウ 甲府市横根町546	19201	149	35° 39′ 14″	138° 37′ 08″	H10.11.9～11.24 114㎡	駐車場整備
		生産遺跡 古墳～平安		—	陶器・土師器・須恵器・瓦			
24	オオツボ 大坪遺跡	コウフ シ ヨコネチョウ 甲府市横根町443-2	19201	149	35° 39′ 06″	138° 36′ 55″	H10.11.13 50㎡	管理棟建設
		生産遺跡 古墳～平安		—	—			
25	カミガワラ 上河原遺跡	コウフ シシモイシダニチョウメ 甲府市下石田二丁目220他	19201	178	35° 38′ 41″	138° 33′ 17″	H11.1.11～1.14 128㎡	貸店舗建設
		散布地 平安		—	—			
26	コウフジョウ 甲府城跡	コウフシマルノウチイッチョウメ 甲府市丸の内一丁目572他	19201	115	35° 39′ 46″	138° 34′ 25″	H10.12.14～H11.1.18 66㎡	駐車場建設
		城館跡 近世		—	陶磁器・瓦			
27	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフシキタグチイッチョウメ 甲府市北口一丁目97	19201	253	35° 40′ 02″	138° 34′ 18″	H10.4.16～4.20 4㎡	個人住宅建設
		城下町 近世		—	陶器・土師器・かわらけ・銭貨			

番号	フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地 種別	主な時代	コード 市町村	遺跡番号 主な遺構	北緯	東経	調査期間 調査面積 主な遺物	調査原因 特記事項
28	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフ シアタゴチョウ 甲府市愛宕町66		19201	253	35° 39′ 47″	138° 34′ 36″	H10.7.30 2㎡	個人住宅建設
		城下町	近世		—		—		
29	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフ シキダグチイッチョウメ 甲府市北口一丁目16		19201	253	35° 39′ 53″	138° 34′ 19″	H10.8.25～8.28 8㎡	個人住宅建設
		城下町	近世		—		—		
30	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフ シマルノウチニチョウメ 甲府市丸の内二丁目108-2		19201	253	35° 39′ 48″	138° 34′ 04″	H10.8.31～9.11 8㎡	個人住宅建設
		城下町	近世		井戸	陶磁器・土師器・金属製品			
31	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフシキダグチサンチョウメ 甲府市北口三丁目1-1		19201	253	35° 39′ 51″	138° 34′ 30″	H11.3.12 2.25㎡	診療所増築
		城下町	近世		—		—		
32	コウフジョウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフ シマルノウチイッチョウメ 甲府市丸の内一丁目226, 239,240		19201	253	35° 39′ 35″	138° 34′ 28″	H11.3.18～3.26 70㎡	道路建設
		城下町	近世			陶磁器・土師器・かわらけ・銭貨・金属製品			
33	ソトガワラ 外河原ヂクヤ遺跡	コウフ シマスツボチョウ 甲府市増坪町445-5,447-1		19201	216	35° 38′ 01″	138° 35′ 46″	H11.1.18 4㎡	店舗建設
		散布地	古墳～平安		—		—		
34	ソトチュウダイ 外中代遺跡	コウフ シカワダチョウ 甲府市川田町字正里742他		19201	243	35° 38′ 57″	138° 37′ 53″	H11.3.1～3.8 50㎡	共同住宅建設
		散布地	古墳～平安		—	陶磁器・土師器・須恵器・土器・木製品			
35	ツチジリ 土尻遺跡	コウフ シシモコガワラチョウ 甲府市下小河原町字橋詰 35-5他		19201	226	35° 37′ 39″	138° 34′ 58″	H11.2.15～2.17 125㎡	道路建設
		散布地	中世		—	陶磁器・土師器・かわらけ			
36	ナカミチニシ 中道西遺跡	コウフシイワクボチョウアザタイドウニシチナイ 甲府市岩窪町字大道西地内 他		19201	63	35° 40′ 38″	138° 35′ 04″	H10.11.30～12.22 250㎡	宅地造成
		散布地	古墳		溝・ピット	磁器・土師器・須恵器			
37	ニシコウチ 西耕地遺跡	コウフシオオサトチョウチナイ 甲府市大里町地内		19201	237	35° 37′ 20″	138° 33′ 21″	H11.3.1～3.23 152㎡	区画整理事業
		散布地	平安～中世						
38	ハチマンヒガシ 八幡東遺跡	コウフ シユムラサンチョウメ 甲府市湯村三丁目1666-1, 1686-1		19201	27	35° 40′ 43″	138° 32′ 57″	H11.3.4～3.5 12㎡	個人住宅建設
		散布地	弥生・古墳		—	陶器・土師器			
39	ハチマンヒガシ 八幡東遺跡	コウフ シチブカサンチョウメ 甲府市千塚三丁目2450-10		19201	27	35° 40′ 46″	138° 32′ 51″	H11.3.11～3.17 8㎡	個人住宅建設
		散布地	弥生・古墳		石列	陶器・土師器・かわらけ			
40	フジミ 富士見遺跡	コウフ シフジミイッチョウメ 甲府市富士見一丁目1653-8 他		19201	73	35° 40′ 07″	138° 33′ 11″	H11.2.9～2.26 60㎡	共同住宅建設
		散布地	古墳・平安		溝・ピット	—			
41	ホンゴウ 本郷遺跡	コウフ シゼンコウジサンチョウメ 甲府市善光寺三丁目1931		19201	130	35° 39′ 33″	138° 35′ 47″	H10.10.12～10.13 4㎡	個人住宅建設
		散布地	縄文・古墳		—	土師器・須恵器			
42	ミドリガオカイッチョウメ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウフシミドリガオカイッチョウメ 甲府市緑が丘一丁目101-3		19201	43	35° 40′ 32″	138° 33′ 53″	H10.5.16 4㎡	個人住宅建設
		散布地	古墳		—		—		

番号	フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
		種別 主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
43	ミドリガオカイッチョウメ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘一丁目138-7	19201	43	35° 40′ 36″	138° 33′ 49″	H10.9.25～9.28 4㎡	個人住宅建設
		散布地 古墳	－		－			
44	ミドリガオカイッチョウメ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘一丁目1151-4	19201	43	35° 40′ 36″	138° 33′ 53″	H11.1.29～2.3 10㎡	個人住宅建設
		散布地 古墳	ピット		土師器			
45	ミドリガオカニチョウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘二丁目13-36	19201	42	35° 40′ 47″	138° 33′ 45″	H10.10.19～10.28 8㎡	会館増築
		散布地 古墳～平安	－		－			
46	ミドリガオカニチョウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘二丁目833-4	19201	42	35° 40′ 46″	138° 33′ 50″	H10.11.13～11.24 40㎡	個人住宅建設
		散布地 古墳～平安	溝・ピット		陶磁器・土師器・須恵器			
47	ミドリガオカニチョウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウフシミドリガオカニチョウメ 甲府市緑が丘二丁目2387-10	19201	42	35° 40′ 49″	138° 33′ 47″	H11.3.1～3.2 6.25㎡	個人住宅建設
		散布地 古墳	－		陶器・土師器			
48	ミネモト 峰本B遺跡	コウフ シヤカタヤンチョウメ 甲府市屋形三丁目1600-1他	19201	56	35° 40′ 53″	138° 34′ 35″	H11.1.25～1.29 30㎡	個人住宅建設
		散布地 近世	－		－			
49	ヤマジ 山路遺跡	コウフシツカハラチョウ 甲府市塚原町850-1他	19201	7	35° 41′ 27″	138° 34′ 41″	H10.9.28～9.30 8㎡	個人住宅建設
		散布地 －	－		陶器・土器			
50	ヨコネ 横根セレモニーホール遺跡	コウフシノコネチョウアザオオハタ 甲府市横根町字大畑705他	19201	－	35° 39′ 17″	138° 36′ 40″	H10.5.27～6.4 560.25㎡	建物建設
		－ －	－		－			

甲府市文化財調査報告 35

甲府市内遺跡 Ⅳ

－ 平成９～10年度試掘調査報告書 －

平成19年３月30日

発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号
TEL　０５５（２２３）７３２４
FAX　０５５（２２６）４８８９

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号